

ThecusOS™6 搭載 ネットワーク対応ハードディスク

RebDrive NAS

使い方ガイド



本書は RebDrive NAS を導入するにあたって、基本的な仕様と使い方について解説したものです。各機能などの詳細については、本製品のベースモデル「Thecus N2520」向けユーザ・マニュアル (PDF ファイル) を参照してください。




AMULET

アミュレット株式会社 店頭営業部
〒101-0021 東京都千代田区外神田3-5-12
TEL 03-5295-8418




ATN25200319

○安全上のご注意





安全にお使いいただくために必ずお守りください。

 危険	「誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷 *1 を負う可能性があることがあり、かつ、その度合いが高いこと」を示します。
 警告	「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性があること」を示します。
 注意	「誤った取扱をすると人が傷害 *2 を負う可能性または物的損害 *3 が発生する可能性があること」を示しています。


- *1 : 重傷とは、失明やけが、やけど、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、及び治療に入院や長期の通院を要するものを示します。
- *2 : 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を示します。
- *3 : 物的損害とは、家屋・家財および家畜・愛玩動物にかかわる拡大損害を指します。

絵表示の例		△記号は製品の取扱いにおいて、発火、破裂、高温等に対する注意を喚起するものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。
		⊘記号は製品の取扱いにおいて、その行為を禁止するものです。具体的な禁止内容は図記号の中や近くに絵や文章で示しています。
		●記号は製品の取扱いにおいて、指示に基づく行為を強制するものです。具体的な強制内容は図記号の中や近くに絵や文章で示しています。





警告

<p>水にぬらさないでください。 雨・雪・水がかかる場所では使用しないでください。また、機器の上に水などの入った容器または金属物を置かないでください。水がこぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。</p>	 水ぬれ禁止
<p>修理や改造、または分解しないでください。 火災、感電、またはけがをするおそれがあります。修理や改造、分解に起因する物的損害について、当社は一切責任を負いません。 また、修理や改造、分解に起因する故障に対する修理または交換は保証期間内であっても有料となります。</p>	 分解禁止
<p>異常時は電源プラグをコンセントから抜いてください。 煙が出た場合、変なにおいや音がする場合、水や異物が内部に入った場合、本製品を落下させた場合はすぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電などの原因になるおそれがあります。</p>	 電源プラグを抜く
<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因になるおそれがあります。</p>	 ぬれ手禁止

注意

<p>機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 移動時にコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>	 電源プラグを抜く
---	---

⚠ 注意

<p>電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。 コードを引っ張るとコードが傷み、火災・感電の原因となることがあります。</p>	 強制
<p>不安定な場所へ置かないでください。 ぐらついた台の上や傾いた場所などに置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p>	 禁止
<p>機器の上に重い物を置いたり、乗ったりしないでください。 バランスが崩れて落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。</p>	 禁止
<p>湿気や埃の多い場所、油煙や湯気があたるような場所での使用はさけてください。 火災・感電の原因となることがあります。</p>	 禁止

★NAS本体の取り扱いについては、本製品のベースモデル「Thecus N2520」向けユーザ・マニュアル内、「安全に関する警告」も併せてご参照ください。

○本書をお読みになるにあたって

- ・このガイドについては、将来予告なしに変更することがあります。
- ・製品改良のため、予告なく外観または仕様の一部を変更することがあります。
- ・このガイドにつきましては、万全を尽くして製作しておりますが、万一ご不明な点、誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- ・このガイドの一部または全部を無断で複製することは、個人利用を除き禁止されております。また無断転載は固くお断りします。

○免責事項

- ・火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- ・本書で説明された以外の使い方によって生じた損害に関して、当社では一切責任を負いません。
- ・接続機器との組み合わせによる誤作動などから生じた損害に関して、当社では一切責任を負いません。

- ・Thecus および他の Thecus 製品名は、Thecus Technology Corp の商標です。
- ・Intel Atom は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- ・Apple, Macintosh, MacBook, Mac, Mac OS, OS X, QuickTime, iTunes, iPhone, iPadなどは Apple Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Microsoft, Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・UNIX は、X/Openカンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- ・Dropbox は、米国 Dropbox, Inc.の商標または登録商標です。
- ・その他本取扱説明書に記載されている会社名、製品名、技術・仕様名称等は、各社または特定団体の登録商標または商標です。

1 はじめに	6
1-1 製品の特長と対応する機器	7
1-2 ネットワーク対応ハードディスクの使い方	9
1-3 内蔵ハードディスクについて	9
2 各部の名称と役割	10
2-1 前面パネル	10
2-2 背面パネル	12
3 ファイルサーバーとしてのセットアップ	14
3-1 ネットワークへの接続と導入	14
3-2 NAS の初期化とダイナミック DNS の設定	18
4 ウェブ管理インタフェース (Web UI) とコントロールパネル	23
4-1 コントロールパネルの概要	26
4-2 RAID 設定	33
4-3 ローカルグループ、ユーザーの設定	42
5 パソコンからのファイル参照	48
5-1 内部ネットワークからのファイル参照	48
Windows からファイルを開く	48
Mac OS X からファイルを開く	53
5-2 ダイナミック DNS を利用した外部ネットワークからのファイル参照	56
6 NAS アプリの活用	70
6-1 スマートフォン・タブレット (iOS/Android) 用アプリの導入	70
iPhone/iPad (iOS デバイス) へのアプリ導入	70
Android デバイスへのアプリ導入	73
6-2 DLNA 対応メディアサーバー Twonkymedia の導入	78
6-3 Dropbox によるクラウドストレージとの連携利用	91
7 特徴的な機能	101
7-1 HDMI 出力によるメディアファイルの表示・再生	101
7-2 Data Guard を使ったバックアップ	123
7-3 CD/DVD メディアへのバックアップ	164
7-4 USB コピーボタンの使い方	180
8 内蔵ドライブおよび RAID のメンテナンス	182
8-1 ドライブの交換手順	182
8-2 ドライブ故障時の復旧手順	184

9 Mac OS X 用設定.....	185
9-1 Time Machine でのバックアップ先指定.....	185
9-2 iTunes サーバーとしての使い方.....	186
10 保証とアフターサービス.....	187
10-1 保証について.....	187
10-2 テクニカルサポート連絡先.....	187
11 付録.....	188
11-1 システムファイルおよび NAS アプリのアップデート通知について.....	188
11-2 「サードパーティアプリのインストール」から利用できるアプリケーション.....	188

1 はじめに

この度は RebDrive NAS をご購入いただきありがとうございます。

RebDrive NAS(以下、「本製品」と表記します)は、最新の NAS 用システム「ThecusOS™6」を搭載し、さまざまな種類の大容量データを、ネットワーク経由で保存・管理・参照することができる、ネットワーク対応ハードディスク(NAS)です。

パソコンやスマートフォンから本製品へネットワーク経由で送られたデータは、本製品に搭載された 2 基のハードディスクに構成される RAID ボリュームへ保存されます。

本製品の RAID 構成は、RAID0(ストライピング)、RAID1(ミラーリング)、JBOD(スパニング)の 3 種類に対応し、用途に応じて優先する機能を選択できます。

RAID 内に保存されたデータは、一般的なパソコン向けファイル共有サービスや、専用のスマートフォンアプリケーションを通していつでも参照可能です。

特に、写真や動画、音楽などの各種メディアファイル向けには、本製品上で動作するアプリケーション「NAS アプリ」によって、メディアサーバーとしての機能や、HDMI によるテレビ・モニター出力機能も搭載しています。

また、ThecusOS™6 で提供される「ダイナミック DNS サービス」により、家庭内・社内ネットワーク(*)の外部からも、本製品に保存されたデータを利用することができます。

(*)ダイナミック DNS サービスを利用するには、家庭内・社内からインターネットへ接続するルーターに、グローバル IP アドレスの割り当てが必要となります。

このガイドは、本製品の基本的な仕様と導入のための設置手順および、ネットワーク対応ハードディスクとしての主な活用方法について説明しています。

また合わせて、HDMI 出力によるメディア再生機能や各種バックアップの手順など、本製品の特徴的な機能も紹介しています。

なお、各機能や設定項目の詳細については、本製品のベースモデルである、「Thecus N2520」向けのユーザー・マニュアル(以下、「ユーザー・マニュアル」と表記します)を併せてご参照ください。

ユーザー・マニュアルは、本製品に付属のソフトウェア CD および製品ホームページ(本書 171 ページに掲載)より入手可能です。

本書各章の構成と内容は以下のとおりです。

1 はじめに

本製品の主な仕様と特長、使い方の概要について解説します。

2 各部の名称と役割

本製品の主要な部分の名称と役割を記述しています。

3 ファイルサーバーとしてのセットアップ

本製品の設置およびネットワークへの接続方法と、ファイルサーバーとして使いはじめるまでの基本的な設定手順について解説します。

4 ウェブ管理インタフェース(Web UI)とコントロールパネル

本製品をウェブブラウザ経由で操作できる「ウェブ管理インタフェース」の基本的な使い方と、コントロールパネル(Control Panel)内に表示される各アイコンの役割について記述しています。

5 パソコンからのファイル参照

本製品に保存されたファイルを、内部ネットワークまたは外部ネットワーク上のパソコンから参照する手順について説明しています。

6 NAS アプリの活用

本製品上で動作する「NAS アプリ」を利用して、保存されたファイルを専用スマートフォンアプリから参照したり、本製品をメディアサーバーとして動作させる方法を解説します。

また、クラウドストレージサービス「Dropbox」と本製品の RAID 内のデータを同期させる手順も説明しています。

7 特徴的な機能

本製品を HDMI ケーブルでテレビ・モニターに接続して動画や音楽などのファイルを再生する手順や、本製品に USB 外付けストレージを接続してデータをコピーする方法など、本製品の特徴的な機能と使い方について解説します。

8 内蔵ドライブおよび RAID のメンテナンス

本製品に搭載されたハードディスクを交換する方法と、RAID 障害時の復旧手順について解説します。

9 Mac OS X 用設定

Mac OS X 環境で、本製品を Time Machine のバックアップ先として使う手順と、本製品を iTunes サーバーとして設定する方法について解説します。

10~11 保証とアフターサービス、付録

追加のインフォメーションとテクニカルサポートについての情報です。

1-1 製品の特長と対応する機器

製品特長:

RebDrive NAS は、搭載された NAS 用システム ThecusOS™6 と、同システム上で動作するアプリケーション「NAS アプリ」により、メディアファイルの共有やネットワークサービスとの連携に便利な機能を多数搭載した、ネットワーク対応ハードディスクです。

カスタマイズ性に優れた NAS アプリの機能によって、ユーザーの環境に応じた方法で、大容量データを保存・管理・参照することができます。

■ NAS 用システム ThecusOS™6 搭載

本製品に搭載された ThecusOS™6 は、豊富な機能を持つネットワーク対応ハードディスクをシンプルに管理することのできる最新システムです。

ThecusOS™6 では、モジュール化された NAS アプリによって、ファイル共有、ネットワークサービス、バックアップ向けの各種機能を実現しています。

また本製品をインターネットに接続することで、システムとNASアプリを最新の状態にアップデートすることができます。

■ 選択・カスタマイズ可能な NAS アプリによるサーバー機能

ThecusOS™6 上で動作する NAS アプリによって、本製品に用意されている多数のサーバー機能を選択・カスタマイズして利用することができます。

■ ウェブブラウザでのシンプルな管理操作

サーバー機能の管理は、ネットワーク接続されたパソコンのウェブブラウザから、アイコン表示されたメニューを操作することでシンプルに実行できます。

■ 豊富なメディアファイル向け機能

動画や音楽、写真などのメディアファイルをネットワーク上で共有するための、サーバーアプリケーション「TwonkyMedia」や、本製品をテレビやモニターと接続してメディアファイルを再生できる「XBMC」など、メディアファイル向けのユニークな機能を搭載しています。

■ Windows、Mac はもちろん、iPhone、iPad、Android スマートフォンやタブレットからも利用可能

Windows や Mac などパソコン向けの一般的なファイル共有機能に加えて、専用アプリによるスマートフォンやタブレットからのアクセスにも対応します。

■ バックアップ機能も充実

RAID1(ミラーリング)による内部ドライブのバックアップだけでなく、本製品に搭載されたバックアップ機能である Data Guard (データガード)では、複数の ThecusOS 搭載 NAS 間でのリモートバックアップや、本製品に接続された USB 外付けストレージへのコピーなど、さまざまな手段でバックアップを実行することができます。

対応機器/動作環境/記憶容量:

■ サポートするパソコン、スマートフォン、タブレット

ネットワークへ接続可能な Mac、Windows パソコン、iPhone、iPad および Android スマートフォン、タブレット

■ サポートするオペレーティングシステム

Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Mac OS X (10.5 以降)、iOS(5.0 以降)、Android(2.3 以降)

■ サポートするウェブブラウザ(ウェブ管理インタフェース)

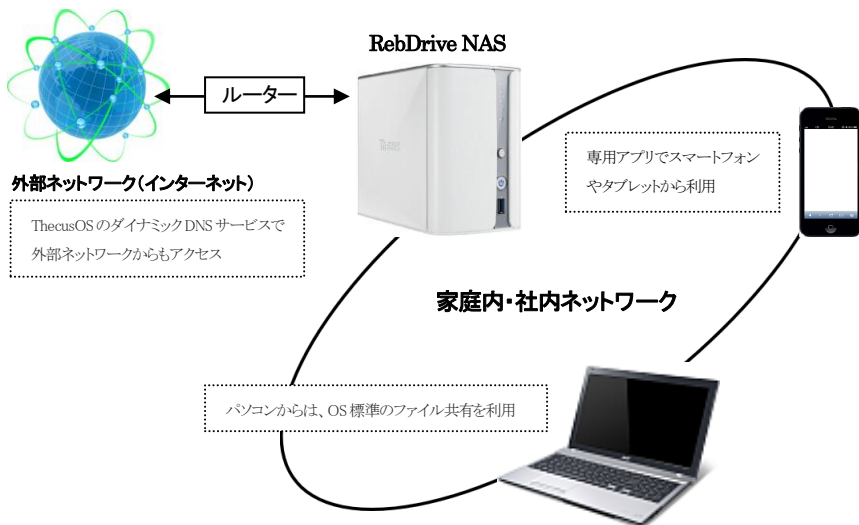
Internet Explorer 8.0 以降、Safari 5.0 以降

■ 記憶容量

RAID モード	RAID0(ストライピング)、JBOD(スパンニング)	RAID1(ミラーリング)
8TB モデル	8TB	4TB
4TB モデル	4TB	2TB

1-2 ネットワーク対応ハードディスクの使い方

本製品を使って、ネットワーク上のさまざまな機器から、大容量のファイル・データを保存・管理・参照することができます。



- ・本製品は、搭載されたハードディスク上に構成される RAID ボリューム内に、大容量のファイル・データを保存します。
- ・家庭内・社内ネットワーク上では、パソコン用各 OS から標準のファイル共有で、ネットワークドライブとしてアクセスが可能です。
- ・スマートフォン・タブレットからは、Thecus 製専用アプリを使ってアクセスできます。
- ・その他、動画や写真、音楽などのメディアファイル向け共有サービス機能も搭載しています。

1-3 内蔵ハードディスクについて

RebDrive NAS は RAID 設定済み(*)ハードディスクドライブを 2 台搭載しているので、購入後直ちに大容量のネットワークストレージとしてお使いいただけます。

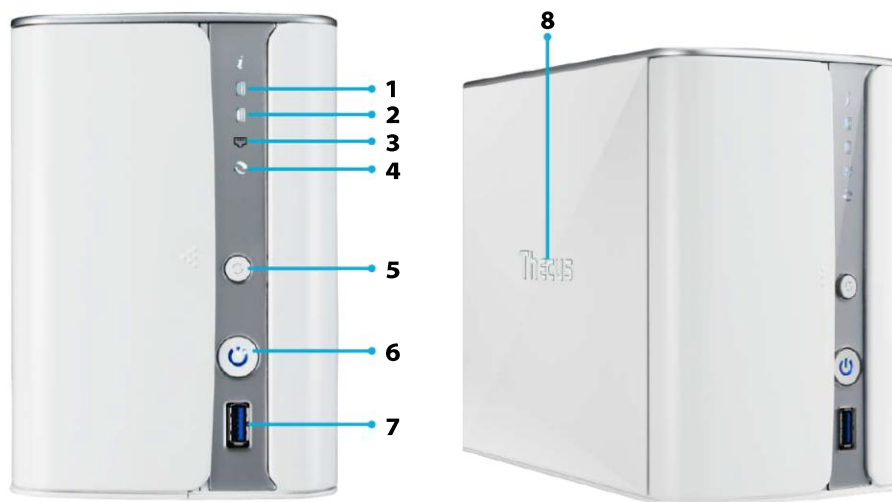
ハードディスクの取り外し・交換手順については、本書 166 ページ以降をご参照ください。

(*)製品出荷時の内蔵ハードディスクドライブは、RAID0(ストライピング)に設定されています。

2 各部の名称と役割

各部の機能については、ユーザ・マニュアルも併せて参照してください。

2-1 前面パネル



1. HDD1 LED

1台目のハードディスク(正面向かって右側に搭載)の状態を示します。

ハードディスクへのアクセス時は白く点滅します。

LEDの色が赤に変わった場合、ハードディスクに故障が発生している可能性がありますので、保証書に記載された連絡先まで修理をご依頼ください。

2. HDD2 LED

2台目のハードディスク(正面向かって左側に搭載)の状態を、1台目と同様に表示します。

3. LAN LED

ネットワークの状態を表示します。

LANケーブルが接続されると白く点灯し、ネットワークアクセス時に点滅します。

4. USB LED

USB ポートに接続された機器の状態を表示します。

USB 機器が接続されると白く点灯し、アクセス中は点滅します。

アクセスに異常がある場合には、赤く点灯します。

5. USB コピーボタン

USB 機器から本製品の RAID ボリュームへデータをコピーする際に使用します。

操作手順については本書の 164 ページを参照してください。

6. 電源ボタン/LED

ボタンを押すと本製品の電源が入ります。電源が入ると LED が青く点滅を開始し、システムの準備が完了すると点灯します。

またシャットダウン/再起動の準備中も点滅します。

★シャットダウン(電源オフ)/再起動の操作は、パソコンのウェブブラウザから「ウェブ管理インターフェース」を使って行います。(本書 25 ページ)

7. USB ポート(USB3.0 対応)

USB に対応したハードディスクや光学ドライブ(DVD、CD)などの機器を接続するポートです。

USB 機器を使用する手順については、本書の 107、148、164 ページを参照してください。

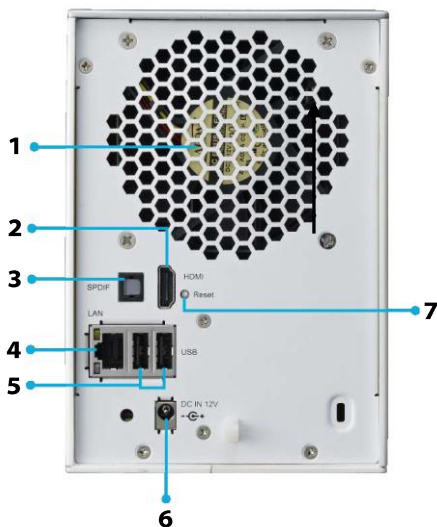
8. Thecus ロゴ LED

電源ボタンの LED と同様に、起動とシャットダウン/再起動の準備中に点滅します。

通常、動作中は常に点灯しますが、ウェブ管理インターフェースから設定を変更して消灯できます。

設定変更の手順については、本書の 28 ページを参照してください。

2-2 背面パネル



1. システムファン

放熱用のファンです。動作中は排気口をふさがらないでください。

2. HDMI ポート

NAS アプリ「XBMC」で、映像や音楽などのメディアファイルを、テレビ・モニターへ出力する際に使用します。

3. S/PDIF(デジタルオーディオ出力)

「XBMC」で音声をデジタル出力するための端子です。

4. LAN ポート(10/100/1000 BASE-TX)

LAN ケーブルを接続します。

5. USB ポート(USB2.0 対応)

USB に対応したハードディスクや光学ドライブ(DVD、CD)などの機器を接続するポートです。対応機器は USB2.0 までとなります。

また、USB マウス・キーボードを接続することで、「XBMC」の画面操作に使用できます。

6. 電源コネクタ

付属の専用 AC アダプターを接続します。

7. リセットボタン

本製品の一部設定内容(ネットワーク設定/ユーザー・パスワード/UI ログイン機能/ジャンボフレームサポート)をリセットするためのボタンです。

このボタンを5秒間押し続けることで、本製品が再起動し、上記の内容が初期状態にリセットされます。

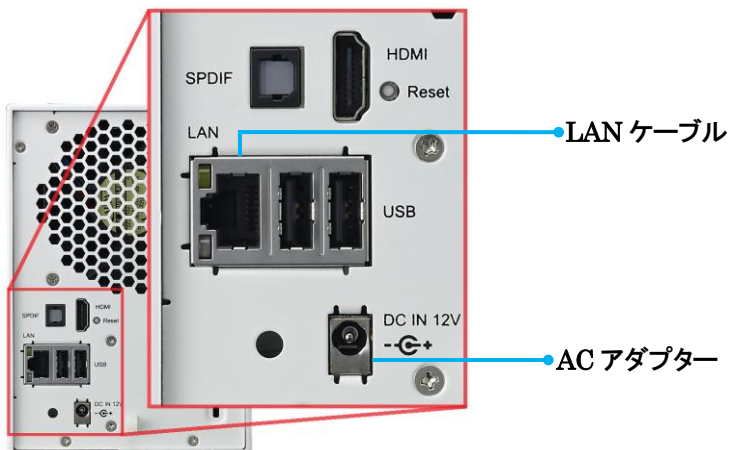
★NAS アプリ「XBMC」が開始されるまで、HDMI ポートおよび S/PDIF は動作しません。

★NAS アプリ「XBMC」の導入手順については、本書の 101 ページ以降を参照してください。

3 ファイルサーバーとしてのセットアップ

3-1 ネットワークへの接続と導入

1. 下の写真を参考に、本製品へ AC アダプターと LAN ケーブルをそれぞれ接続します。
各ケーブルを接続した後、電源ボタンを押して電源を入れます。
電源投入後、ハードウェアの準備中(約5分間)は電源ボタンの LED と Thecus ロゴ LED が点滅し続けます。
準備が完了して使用可能になると、電源ボタンおよび Thecus ロゴ LED が点灯するとともに「ピーツ」という音(ビーブ音)が鳴ってお知らせします。



2. 付属の CD から、本製品と同一のネットワークに接続されたパソコンへ、NAS 導入アプリケーション「Intelligent NAS」をインストールします。
お使いのシステムにあわせて、ソフトウェア CD の「IntelligentNAS」フォルダから Windows または Mac (Mac OS X) 用のファイルをダブルクリックし、インストーラーを起動してください。

★Intelligent NAS のインストーラー用ファイルは以下の URL からダウンロードすることもできます。
<http://install.thecus.com/>

3. インストーラーを起動すると、以下の画面が表示されます。
お使いの環境に合わせて各設定を選択したあと、「続行」をクリックして次に進みます。



4. Adobe AIR がインストールされていないシステムでは、最初に Adobe AIR のインストール確認が表示されます。使用許諾契約条件を確認した後、続行するには「同意する」をクリックします。



ユーザー アカウント制御の画面が表示された場合は、「はい(Y)」をクリックして続行してください。



5. インストール中の画面が表示されたあと、しばらく待つと、Intelligent NAS が起動します。パソコンと同一のネットワークに本製品が見つかると、Intelligent NAS のウィンドウ内に「N2520」という名前のアイコンと割り当てられた IP アドレスが表示されます。



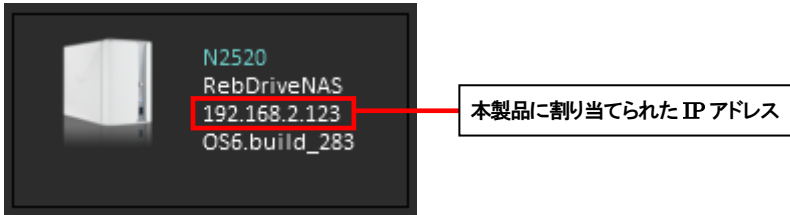
6. Intelligent NAS のウィンドウ内にアイコンが表示されない場合は、ウィンドウ左上の更新ボタン(左向きの矢印マーク)をクリックします。



7. Intelligent NAS のウィンドウ内に表示されたアイコンの横に表示される、本製品の IP アドレスを確認してください。

本製品と同じ家庭内・社内ネットワーク上のパソコンを使って、Web ブラウザから本製品の設定を行う場合は、この IP アドレスを使ってアクセスします。

インターネットから本製品にアクセスする場合は、次ページ以降の手順で、Thecus ダイナミック DNS (DDNS) サービスへ本製品を登録する必要があります。



3-2 NAS の初期化とダイナミック DNS の設定

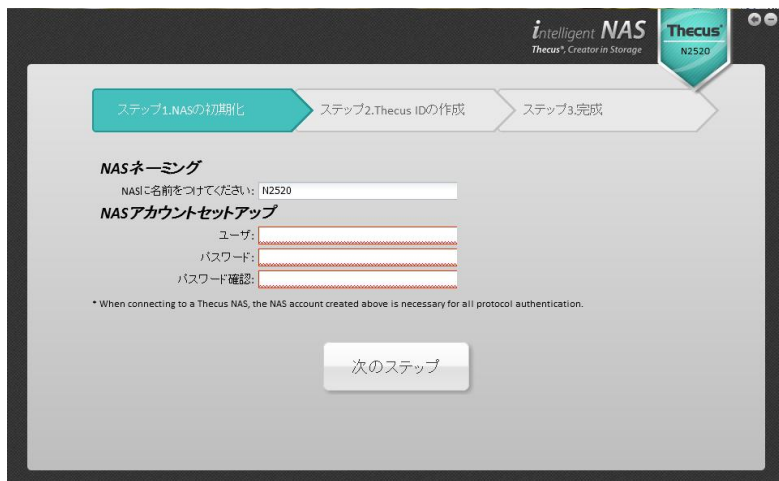
1. Intelligent NAS のウィンドウ内に表示されている「N2520」のアイコンをクリックすると、NAS の初期化のためのウィンドウが表示されます。

ローカルネットワーク上で表示される NAS 名を変更する場合は、「NAS ネーミング」の入力欄に新しい名前を入力します。この名前は家庭内・社内ネットワークでのみ使用されるもので、ダイナミック DNS に登録される名前と同一である必要はありません。

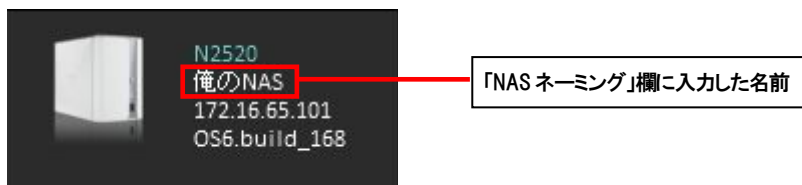
「NAS アカウントセットアップ」では、この NAS を通常使用するために、管理者以外の一般ユーザーアカウントを作成します。

「ユーザ」欄に任意のユーザー名を、「パスワード」および「パスワード確認」欄には同一のパスワードを入力してください。

「次のステップ」ボタンをクリックすると、入力した内容が NAS に設定されます。



2. 「NAS ネーミング」欄に入力した名前は、Intelligent NAS ウィンドウ内のアイコン横に表示されます。



－ ダイナミック DNS について －

本製品は、Thecus OS™6搭載NAS向けに提供される、ダイナミックDNS(DDNS:Dynamic Domain Name System)サービスを利用することができます。

通常、家庭内・社内などのプライベートネットワーク上にある機器は、ルーターなどのファイアウォール機能によって遮断されているため、外部のインターネットから直接アクセスすることができません。

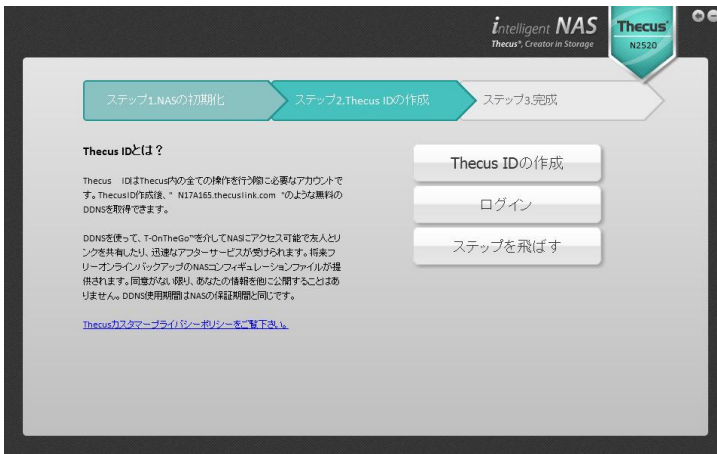
ダイナミック DNS は、そのようなインターネットから直接参照できないネットワーク上にある機器へ、外部からアクセスするための仲介を行うサービスです。

本製品の初期セットアップ時に Thecus DDNS への登録を行うことで、Thecus のサーバーにより、外部ネットワークからプライベートネットワーク上にある本製品へ、任意の名前を使ったアクセスが可能になります。

たとえば、外出先から自宅の NAS を参照するなど、プライベートネットワークにある NAS 上のファイルにさまざまな場所からアクセスできるようになります。

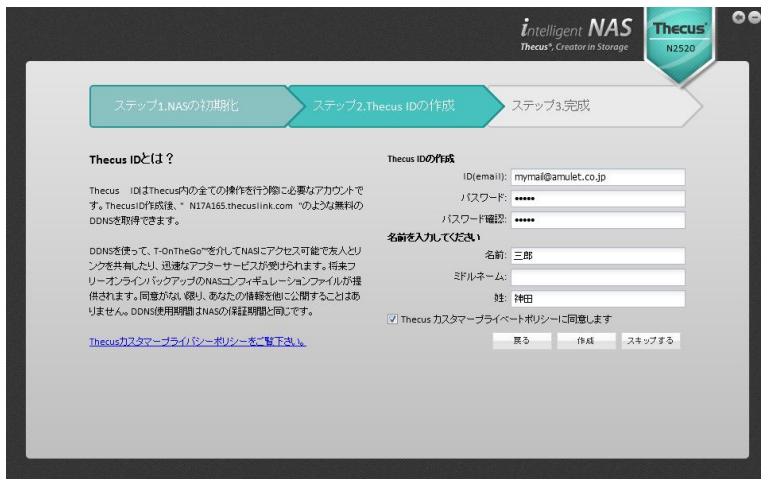
★ダイナミック DNS の利用には、Universal Plug and Play(UPnP)対応で、外部ネットワーク(WAN)側にグローバル IP アドレスが割り当てられたルーターが必要です。ダイナミック DNS を利用して本製品の各機能へアクセスする手順については、本書の 56 ページ以降を参照してください。

3. ダイナミック DNS サービスをはじめて利用する場合は、最初に「Thecus ID の作成」をクリックしてユーザー登録を行います。
登録済みの Thecus ID を使用する場合は「ログイン」をクリックします。
ダイナミック DNS サービスを利用しない場合は、「ステップを飛ばす」をクリックします。その後、Alt キー+F4 キー(Windows)または Command キー+W キー(Mac OS X)を押して Intelligent NAS を終了し、NAS の初期化作業を完了します。

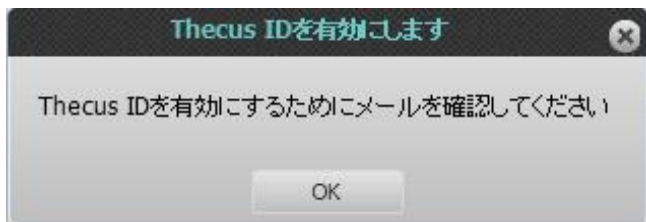


★「ステップを飛ばす」をクリックして初期化作業を完了した場合は、本書 23 ページ以降の内容にわたって、Web ブラウザから本製品の設定を行います。

4. 「Thecus ID の作成」以下の、ID(email)、パスワード、パスワード確認(パスワードの再入力)、ユーザー登録される方の名前をそれぞれ入力します。
 「Thecus カスタマープライバシーポリシーをご覧ください。」をクリックすると、登録される個人情報の取り扱い方針をご確認いただけます。
 ポリシーに同意して Thecus ID を作成する場合は、「Thecus カスタマープライベートポリシーに同意します。」という文頭のボックスがチェックされていることを確認した後、「作成」ボタンをクリックします。



5. Thecus ID を作成すると、以下のウィンドウが表示された後、しばらく待つと Thecus のサーバーから入力したメールアドレス宛に登録確認のメール(英文)が送信されます。
 お使いのメールソフトを起動して、メールが届いていることを確認してください。



6. 以下のようなメール文中の、「http://」で始まる URL を Web ブラウザから開くことで、作成された Thecus ID が有効になります。

Please activate your Thecus ID!
 ddns@thecus.com
 收件者: jen@gmail.com

Hi jennifer,

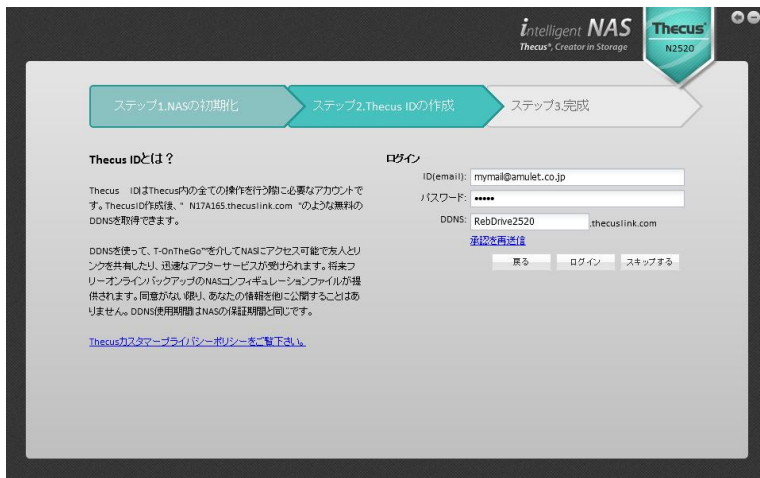
Thank you for registering with Thecus ID!

Your Thecus ID is jen@gmail.com
 To activate your account please click the link below:
<http://ms1.thecuslink.com:8080/cqi-bin/verify.cgi?email=jen@gmail.com&passwd=5243ebe4ba10054427a15a64ddcf81b5>

★メールソフトやメールサーバー、プロバイダなどの設定によって「thecus.com」からのメールが受信拒否対象とされていると、登録確認のメールが届かない場合がありますのでご注意ください。

7. Thecus ID が有効になった後、Intelligent NAS ウィンドウの「ログイン」以下に登録したメールアドレスとパスワード、更に「DDNS」欄には本製品をインターネットから参照する場合に使用したい名前を入力して「ログイン」をクリックします。

Thecus ID の登録後、しばらく経っても登録確認のメールが届いていない場合には「承認を再送信」をクリックしてください。



★「DDNS」欄に入力した名前が既に他のユーザーによって登録されている場合、エラーが表示されますので、他の名前を選択してください。

★ダイナミック DNS が有効であれば、「DDNS」欄に入力した名前の後に「.thecuslink.com」を追加した URL を使って、インターネットから本製品へのアクセスが可能になります。

8. ログイン後に以下のような画面が表示されれば、ダイナミック DNS の設定作業は完了です。
Alt キー+F4 キー (Windows) または Command キー+W キー (Mac OS X) を押して Intelligent NAS を終了します。



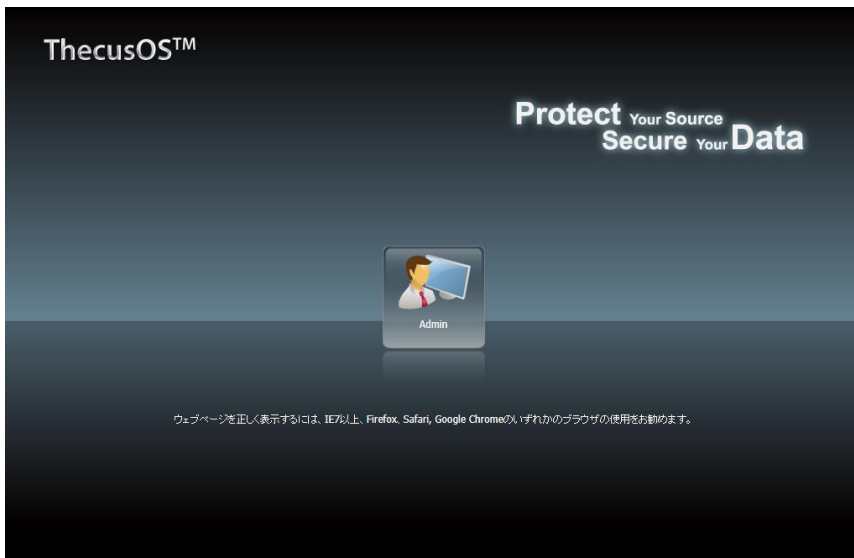
4 ウェブ管理インタフェース (Web UI) とコントロールパネル

本製品の設定および管理を行うための機能として、ネットワーク経由で Web ブラウザから操作を行う、ウェブ管理インタフェース (Web UI) が搭載されています。

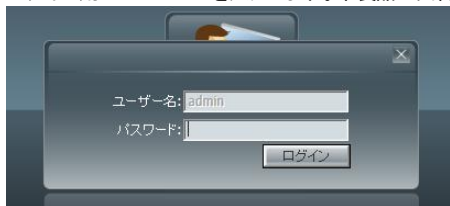
ウェブ管理インタフェース上で表示されるコントロールパネル (Control Panel) を開くことで、本製品のほとんどの機能を利用することができます。

ウェブ管理インタフェースには、本製品と同一のネットワークに接続されたパソコンの Web ブラウザから、以下の手順でアクセスします。

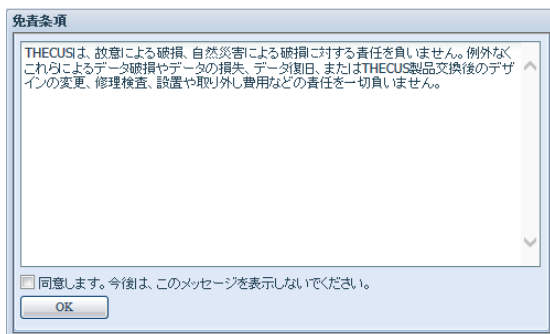
1. Web ブラウザから、本製品に割り当てられた IP アドレスを開きます。
★IP アドレスの確認手順については本書の 14～17 ページを参照してください。
★IP アドレスのみを入力しても接続できない場合は IP アドレスの前に「http://」を入力してください。
2. ThecusOS の画面が表示されるので、中央に表示されている「Admin (管理者)」アイコンをクリックします。



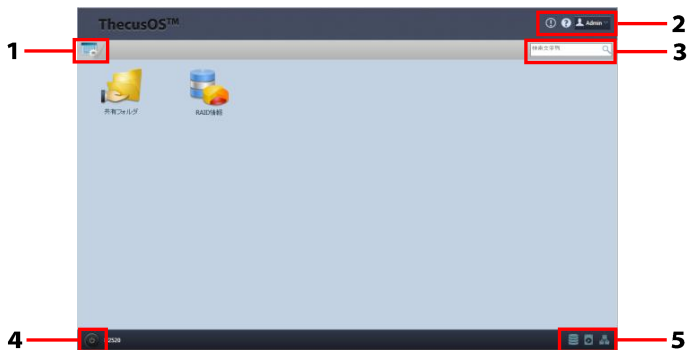
3. ログイン用のパスワードを入力します。本製品の出荷に設定されているパスワードは「**admin**」です。



4. はじめてのログイン時には免責条項の確認画面が表示されます。次回以降のログイン時にこの画面を表示しないようにする場合は、「同意します。」という文の直前に表示されているチェックボックスをチェック(クリック)してから「OK」ボタンをクリックします。



5. ログインすると、ThecusOS のウェブ管理インターフェース画面が表示されます。
各ボタンの機能は以下のとおりです。



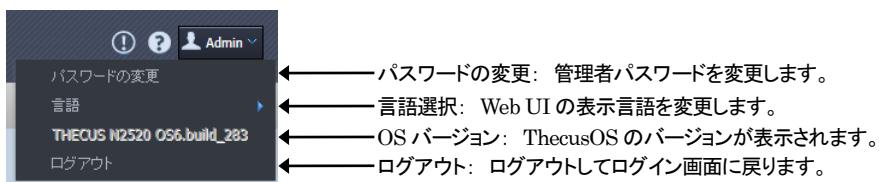
1. コントロールパネル(Control Panel)

コントロールパネルを開きます。パネル内の各項目の概要については、次項を参照してください。

2. システムログ/ヘルプ/ユーザー名

左から順に、コントロールパネル内の「システムログ」を開くショートカット、現在開いている機能のヘルプ、ログイン中のユーザー名を表示するボタンです。

ユーザー名のボタンをクリックすると、以下のようなメニューが表示されます。



3. 機能検索

コントロールパネル内の機能を文字列で検索します。

4. パワーマネジメント(電源管理)

本製品のシャットダウンまたは再起動を行います。

5. メッセージバー

左から順に、RAID、ディスク、ネットワークの状態をそれぞれ表示します。RAID とディスクのアイコンをクリックすることで、コントロールパネル内の「RAID 情報」および「ディスク情報」へのショートカットとしても機能します。

4-1 コントロールパネルの概要

コントロールパネルはカテゴリ毎に7つの項目に分かれています。

項目ごとに含まれるアイコンとそれぞれの機能は以下のとおりです。

本書で説明されていないアイコンの詳細については、ウェブ管理インターフェース画面右上のヘルプボタンおよびユーザー・マニュアルを参照してください。

システム管理



製品情報

本製品の製品情報（製造元、製品番号、ファームウェアバージョン、連続動作時間）を表示します。

ステータス

本製品で実行中の各サービスの状態と、CPU、メモリ、ネットワークの使用状況を表示します。

システムログ

システムログの表示と、レコードのエクスポート（書き出し）/削除を行います。

システムログ マネジメント

Syslog サービスによる、ネットワーク経由でのシステムログ保存管理を行います。

システムの時間設定

本製品に内蔵された時計機能の日時とタイムゾーンおよび外部 NTP サーバーの設定を行います。

通知設定

システムに異常が発生した際に、ビープ音または電子メールによる通知を行うための設定です。

スケジュールパワーオン/オフ

曜日ごとに、時刻を指定して自動的に本製品の電源のオン/オフを行うための設定です。

パスワードの変更

管理者(Admin)パスワードの変更を行います。

システム構成の管理

本製品の設定内容を外部ファイルとして、ダウンロード(保存)/アップロード(読み込み)を行う機能です。

設定の初期化

本製品の設定内容のうち、IP アドレス、管理者パスワード、ユーザー/グループとファイルの関連付けを出荷時の状態にリセットします。RAID 内のデータは消去されません。

パワーマネジメント

本製品のシャットダウンまたは再起動を行います。

ファイルシステムチェック

本製品を再起動して、搭載されたディスクのファイルシステムチェックを実行します。

Wake-On-LAN

Wake-On-LAN サービスの有効/無効を切り替えます。

ネットワークキング

ネットワーク設定を変更します。

ワイヤレスクライアント

本製品では使用しません。

UI ログイン機能

Web ブラウザから NAS アプリを利用するための設定を行います。

システムモニター

CPU/メモリ使用量、ネットワークスループット、使用中のユーザーなど、システムに関する情報をグラフ表示します。

ハードウェア情報

本製品のハードウェア構成を表示します。

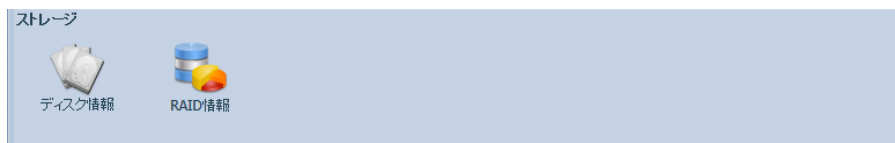
ユーザアクセスログ

FTP、Samba/CIFS、SSH、AFP の各サービスについて、ユーザアクセスログ保存の有効/無効を設定します。

LED コントローラー

本体側面 Thecus ログ LED の動作を設定します。

ストレージ



ディスク情報

本製品に搭載されたハードディスクの情報を表示します。
リストからディスクを選択して、S.M.A.R.T.情報の確認と不良ブロックスキャンを実行することができます。

RAID 情報

RAID 情報の表示と、RAID 設定の編集、削除などを行います。RAID 設定を変更すると、RAID 内のデータはすべて消去されますのでご注意ください。

ファイル共有/権利



ユーザー

本製品にアクセスできる一般ユーザー（ローカルユーザー）の追加、編集、削除を行います。

グループ

本製品のローカルユーザーが所属するグループ（ローカルグループ）の追加、編集、削除を行います。

バッチ処理

テキストファイルを読み込んで、ユーザーとグループを作成します。

テキストファイルは以下のフォーマットにしたがって、半角英数のみで1行ずつ記述する必要があります。

[USERNAME(ユーザー名)], [PASSWORD(パスワード)], [GROUP(グループ名)]

共有フォルダ

RAID 内のフォルダの共有設定と削除を行います。削除されたフォルダ内のファイルはすべて消去されますのでご注意ください。

ユーザークォータ

ユーザーごとに、RAID 内で使用できる容量を指定して制限するための設定です。

ユーザー/グループのバックアップ/復元

ユーザーおよびグループの設定内容を外部ファイルとして、ダウンロード(保存)/アップロード(読み込み)を行う機能です。

ネットワークサービス



Samba/CIFS

主に Windows 向けとして使われている、ファイル共有プロトコル「Samba/CIFS」の設定を行います。

AFP サポート

Mac OS 向けのファイル共有プロトコル「AFP(Apple Filing Protocol)」についての設定を行います。

Mac OS X で本製品を Time Machine のバックアップ先として指定するための設定も、ここから行います。

NFS

UNIX 系 OS 向けのファイル共有プロトコル「NFS(Network File System)」の有効/無効を切り替えます。

FTP

ネットワーク経由でファイル転送を行う「FTP(File Transfer Protocol)」の設定を行います。

Web サービス

HTTP(<http://>[本製品の IP アドレス]でアクセスする場合)と Secure HTTP(<https://>[本製品の IP アドレス]でアクセスする場合)のそれぞれについて、ウェブ管理インタフェース(Web UI)の有効/無効の切り替えとポート番号などの設定を行います。

HTTP、Secure HTTP 双方を無効にすると、ウェブ管理インタフェースが使用できなくなりますのでご注意ください。

UPnP サービス

Universal Plug and Play(UPnP)メディアサーバーの有効/無効を切り替えます。

Bonjour

Mac OS X 上で本製品を共有 NAS として認識させる、Bonjour(ボンジュール)対応の有効/無効を切り替えます。

SSH

UNIX 端末などから本製品へリモートログインして UNIX コマンドでの操作を可能にする、「SSH(Secure Shell)」サービスの設定を行います。

DDNS

Thecus 以外のダイナミック DNS サービスを利用するための設定です。

UPnP ポート管理

Universal Plug and Play(UPnP)対応ルーターと接続するための設定です。

WebDAV

スマートフォン・タブレット(iOS/Android)用アプリ「T-OnTheGo」や、パソコンの Web ブラウザなどから、NAS 内のファイル操作を可能にする「WebDAV サポート」の設定を行います。

自動サムネイル

NAS 内に保管された画像データのサムネイルを自動的に作成する機能の有効/無効を切り替えます。

Thecus ID

Thecus ダイナミック DNS サービスへのアクセス設定を行います。

アプリケーションサーバー

アプリケーションサーバー



iTunes サーバー

本製品を iTunes サーバーとして使用するための設定です。

サードパーティアプリのインストール

NAS 上で動作する各種アプリケーション(モジュール)のインストールと設定を行います。

公式 NAS アプリ

ThecusOS で公式にサポートされるソフトウェア「NAS アプリ」の設定を行います。

本製品に搭載されている、メディアファイル向けなどの高度な共有機能は、NAS アプリによって提供されます。

Transmission-kit

本製品上で BitTorrent クライアントとして動作する NAS アプリ「Transmission」の設定画面を開きます。

バックアップ

バックアップ



Rsync ターゲットサーバー

本製品を複数台接続し、ネットワーク経由でバックアップを行う際に、バックアップデータの受け取り側となる「Rsync ターゲットサーバー」の設定です。

データの送信側となるための設定は、後述の「Data Guard」で行います。

ACL バックアップ/復元

RAID を指定して、共有フォルダに対するユーザーごとのアクセス権を記録した ACL (Access Control List: アクセス制御リスト) のバックアップまたは復元を行います。

Data Burn

USB 光学ドライブを接続し、書き込み可能な光学ディスクに NAS 内のデータをバックアップします。さらに、NAS 内に保存されたイメージファイルをディスクに書き込むこともできます。

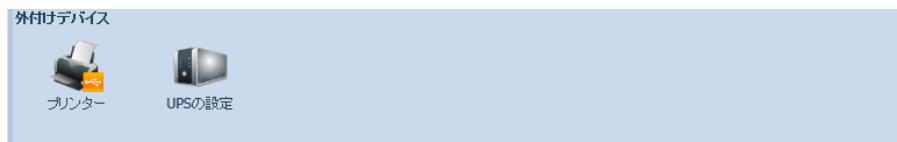
Data Guard

定期的または一時的に、ネットワーク上の他の NAS や本製品に取り付けられた USB 外付けストレージ、または Amazon S3(クラウドストレージ)へ NAS 内のデータのバックアップを行うための設定です。

Amazon S3

「Data Guard」内の Amazon S3 バックアップ設定を直接起動するショートカットです。

外付けデバイス



プリンター

本製品に USB で接続されたプリンターの情報を表示します。

UPS の設定

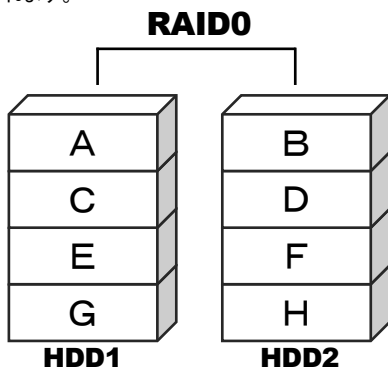
USB またはネットワーク経由で接続された UPS(無停電電源装置)の設定です。

4-2 RAID 設定

本製品では、搭載された2台のハードディスクを使って、RAID0(ストライピング)、RAID1(ミラーリング)、JBOD(スパニング)の3種類の RAID レベルから1つを選択して構成することができます。それぞれの RAID レベルの特徴については、以下を参照してください。

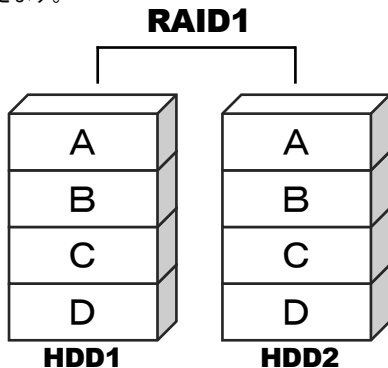
RAID0(ストライピング)

RAID0(ストライピング)は、複数のハードディスクを論理的なひとつのドライブ(ボリューム)として扱います。データはボリューム内のすべてのハードディスクに分散して記録されます。アクセス速度は向上しますが、RAID を構成するドライブの一つにエラーが発生した場合、すべてのデータが失われます。



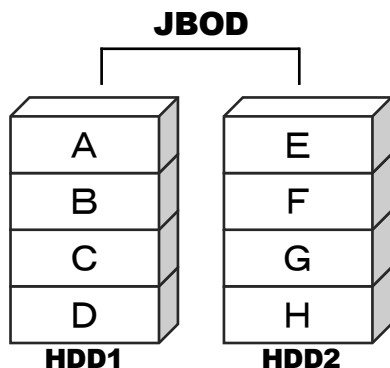
RAID1(ミラーリング)

RAID1(ミラーリング)は、2つのハードディスクに同じデータを記録します。一方のハードディスクにエラーが発生しても、ミラーリングされたもう一方を使用して、データを保持することができます。



JBOD(スパニング)

JBOD(スパニング)は1つ以上のハードディスクを1つの理論的なドライブとしてまとめる方法です。ストライピングとは異なり、データは分散されず先頭のドライブから順に記録されます。JBODを構成するドライブの一つにエラーが発生した場合、すべてのデータが失われます。



RAID 構成の変更

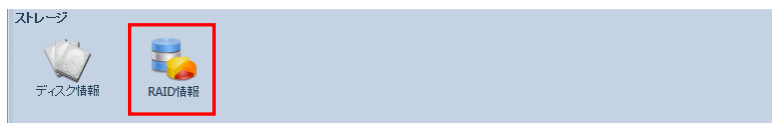
本製品の出荷時に、2つの内蔵ハードディスクは1つの RAID0(ストライピング)ボリュームとして構成されています。

この設定を変更する場合は、以下の手順で RAID の削除と新規作成を行います。

- ★新規作成を行う前に、既存の RAID ボリュームを削除する必要があります。
- ★RAID 設定を変更すると、RAID 内のデータはすべて消去されますのでご注意ください。

RAID の削除

1. ウェブ管理インタフェースのコントロールパネルから、「RAID 情報」をクリックして開きます。



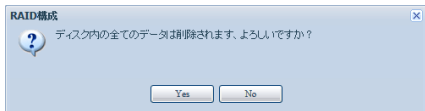
2. ウィンドウを開いてしばらく待つと、現在の RAID 情報が表示されます。
ウィンドウの最上段にある「編集」ボタンをクリックします。



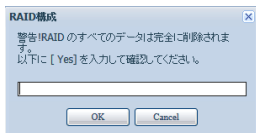
3. 現在の RAID 構成が表示されます。
ウィンドウの最下段にある「RAID 削除」ボタンをクリックします。



4. 削除の確認ウィンドウが表示されるので、続行する場合は「Yes」をクリックします。



5. RAID 削除についての最終確認が表示されます。
続行する場合は「Yes」と入力してから「OK」ボタンをクリックします。



6. 削除が完了すると、「RAID 削除が成功しました」というメッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックして終了します。



RAID の新規作成

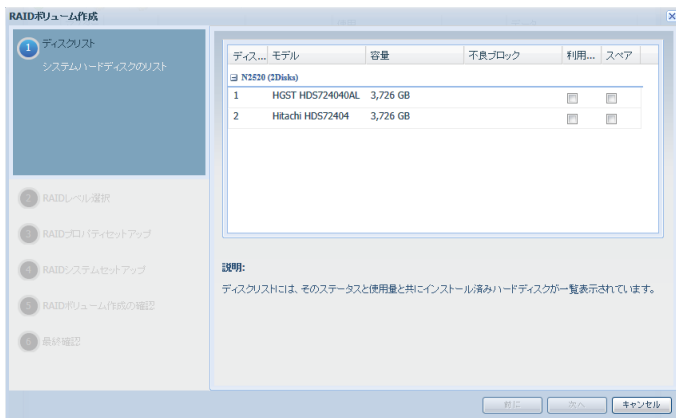
1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネルから、「RAID 情報」をクリックして開きます。



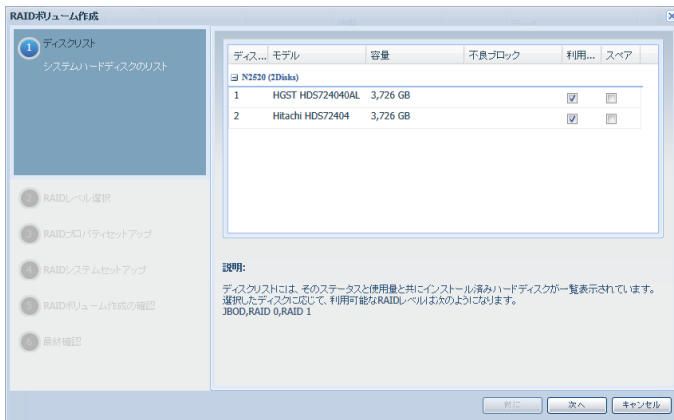
- RAID ボリュームが存在していない状態であることを確認してから、ウィンドウの最上段にある「新規作成」ボタンをクリックします。



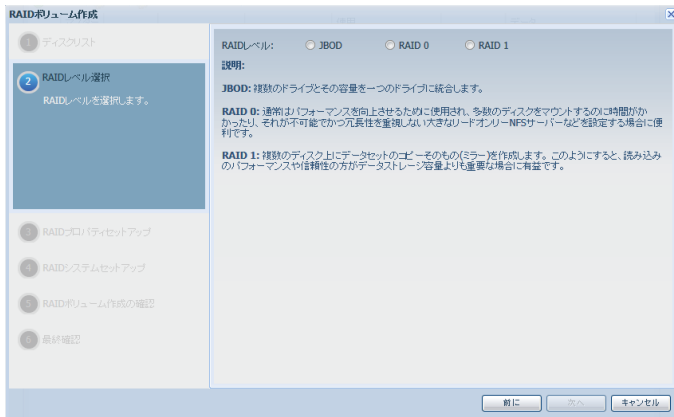
- 「RAID ボリューム作成」のウィンドウが開きます。ウィンドウ右側に、本製品に搭載されたハードディスクのリストが表示されます。リスト内から、RAID に使用するハードディスク名の右側にある「利用…(利用可能)」下のチェックボックスをチェック(クリック)します。JBOD(スパニング)を選択する場合は1つ以上、RAID0(ストライピング)または RAID1(ミラーリング)を選択する場合は2つのハードディスクがそれぞれ必要です。



4. 使用するすべてのハードディスクをチェックした後、ウィンドウ右下の「次へ」をクリックします。

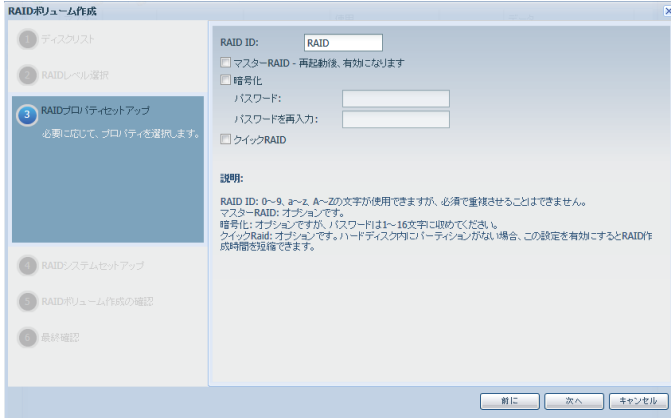


5. RAID レベルを選択します。
いずれかの RAID レベルの左側にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。



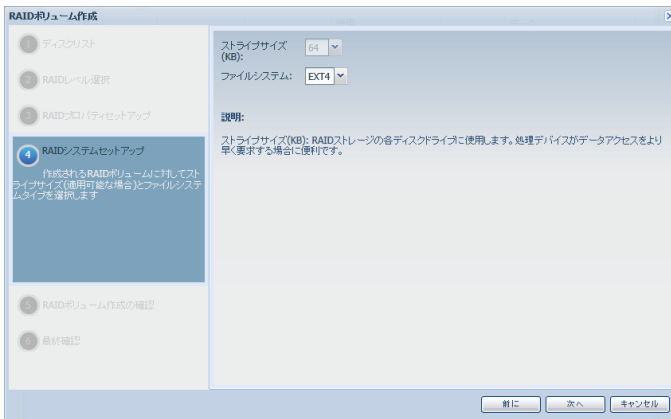
★ハードディスクを1つだけ使用する場合、選択できる RAID レベルは JBOD のみとなります。
また、2つ以上の JBOD ボリュームは作成できません。

6. 作成する RAID ボリュームについての設定を行います。
 RAID ボリュームの名前を変更する場合は、「RAID ID」欄に半角英数で新しい名前を入力します。
 データの暗号化を行う場合は、「暗号化」のチェックボックスをクリックし、パスワードを入力します。
 「クイック RAID」オプションは、ハードディスク内にデータが含まれない場合に選択可能です。
 「クイック RAID」オプションを指定しない場合、RAID 初期化の所要時間として約 13 時間(4TB
 モデルの場合)が必要となります。RAID 初期化中は本製品を使用できません。



★本製品で作成できるRAIDボリュームは1つのみのため、自動的にマスターRAIDに設定されます。

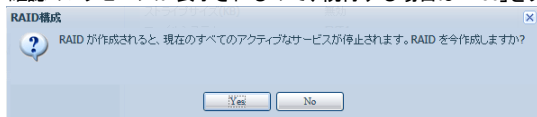
7. ストライプサイズとファイルシステムの選択が表示されます。
 通常はこのまま「次へ」をクリックします。



8. 作成される RAID ボリュームについての設定内容が表示されます。
内容を確認し、「送信」をクリックします。



9. 確認のメッセージが表示されるので、続行する場合は「Yes」をクリックします。



10. 最終確認が表示されます。「終了」をクリックして、RAID ボリュームの作成を開始します。



11. RAID 情報のウィンドウに戻ると、RAID ボリューム情報の「状態」欄に初期化の進行状況が表示されます。



12. 初期化が完了すると、RAID ボリューム情報の「状態」欄に「正常」と表示されます。この状態で本製品の使用が可能となります。



The screenshot shows a window titled "RAID情報" (RAID Information). It contains a table with the following data:

マスター RAID	ID	RAID レベル	状態	使用 ディスク	総容量	データ 容量
*	RAID	1	正常	1,2	3703.5 GB	0.2 GB / 3645.4 GB

4-3 ローカルグループ、ユーザーの設定

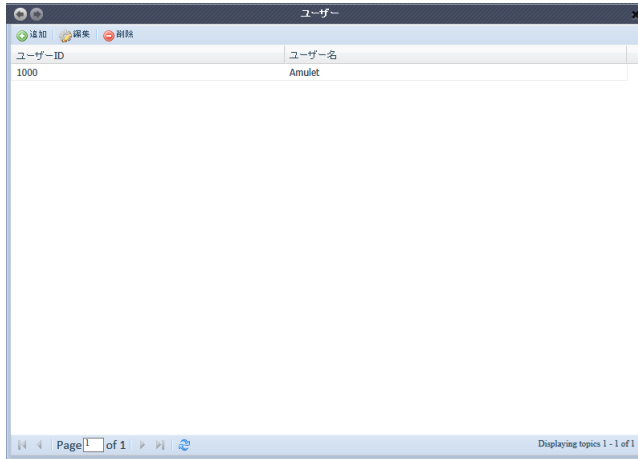
ローカルユーザー設定の変更

ウェブ管理インターフェースのコントロールパネルから、「ユーザー」をクリックして開きます。



「ユーザー」ウィンドウが開きます。

新しいローカルユーザーを作成する場合は「追加」を、既存のユーザーの変更または削除を行う場合は、リスト内のユーザー名をクリックして選択してから「編集」または「削除」をそれぞれクリックします。



「追加」ボタンでユーザーを作成する場合は、ユーザー名とユーザーID およびパスワードを入力し、属するグループをウィンドウ右側のグループリストから「グループメンバー」欄にドラッグ&ドロップします。最後に「適用」をクリックします。



「編集」ボタンでは、ユーザーのパスワードと属するグループを変更できます。グループを追加する場合は、ウィンドウ右側のグループリストから「グループメンバー」欄にドラッグ&ドロップします。

★「users」グループ(グループ ID:100)には、すべてのユーザーが属します。

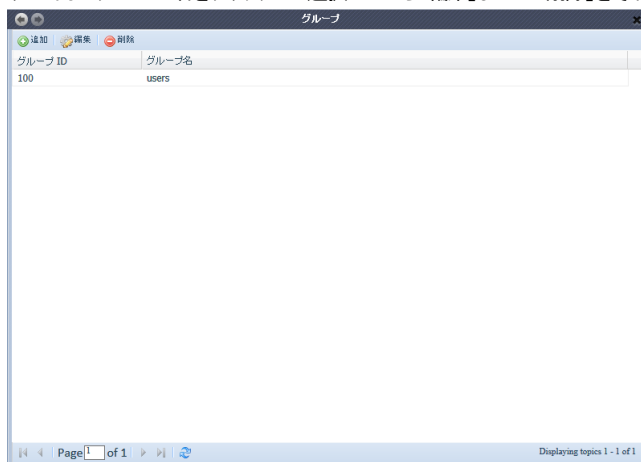
グループの管理

ウェブ管理インターフェースのコントロールパネルから、「グループ」をクリックして開きます。



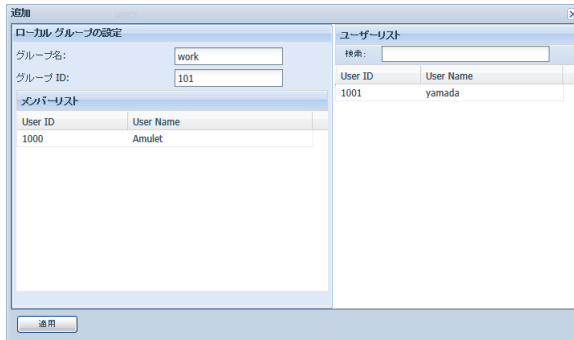
「グループ」ウィンドウが開きます。

新しいローカルグループを作成する場合は「追加」を、既存のグループの変更または削除を行う場合は、リスト内のグループ名をクリックして選択してから「編集」または「削除」をそれぞれクリックします。



★「users」グループ(グループ ID:100)は削除できません。

「追加」ボタンでグループを作成する場合は、グループ名とグループ ID を入力し、グループに属するユーザーをウィンドウ右側のユーザーリストから「メンバーリスト」欄にドラッグ & ドロップします。最後に「適用」をクリックします。



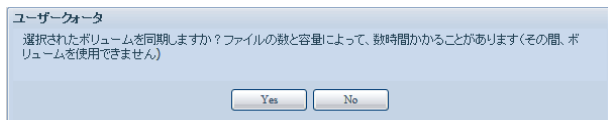
「編集」ボタンでは、グループに属するユーザーを変更できます。ユーザーを追加する場合は、ウィンドウ右側のユーザーリストから「メンバーリスト」欄にドラッグ & ドロップします。

ユーザークォータ

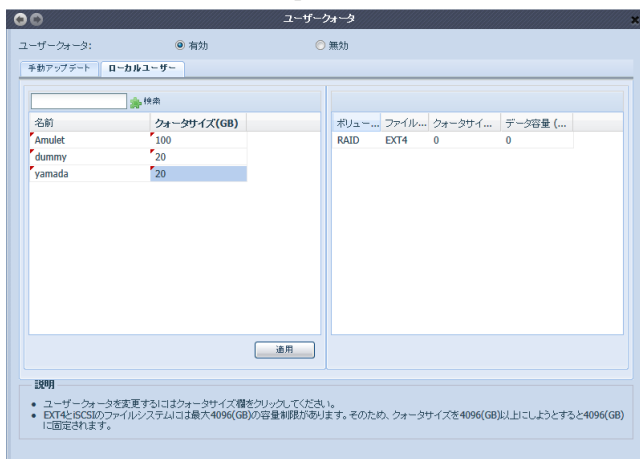
ユーザークォータは、ユーザーごとに、RAID ボリューム内で使用できる容量を指定して制限するための機能です。この機能を使用する場合は、「ユーザークォータ」ウィンドウから「有効」を選択した後、画面の指示にしたがって本製品を再起動します。



再起動後に、RAID ボリュームの同期(ユーザークォータの適用)を確認するメッセージが表示されます。同期を開始する場合は、「Yes」をクリックします。同期処理に必要な時間は、RAID 内のファイル数と容量によって変化します。RAID 内にファイルが保存されていない状態であれば、同期は5分程度で終了します。割り当て容量の設定を先に行う場合は、「No」をクリックしてキャンセルします。

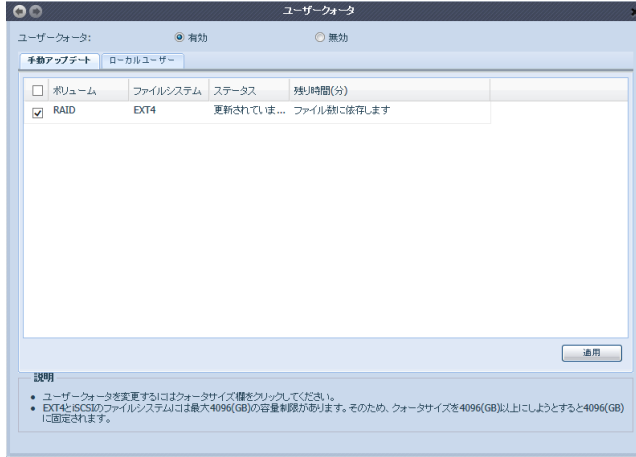


ユーザーごとに割り当てる容量の設定を変更する場合は、「ユーザークォータ」ウィンドウの「ローカルユーザー」タブをクリックして開き、ユーザー名右側の「クォータサイズ」欄にGB単位で入力します。クォータサイズを入力した後「適用」ボタンをクリックすると、ユーザークォータの割り当て容量が設定されます。



ユーザークォータの設定は一定時間後に有効となりますが、設定した容量を直ちに RAID へ反映させる場合は、「手動アップデート」タブをクリックして開き、RAID 名左側のチェックボックスがマークされていることを確認してから「適用」ボタンをクリックして同期を開始します。

クォータの同期処理に必要な時間は、RAID 内のファイル数と容量によって変化します。



5 パソコンからのファイル参照

本製品の初期設定が完了した時点で、本製品の RAID 内に保存されたファイルをネットワーク経由で参照できるようになります。

パソコンからネットワーク経由でファイルを参照する方法として、本製品と同じネットワーク(内部ネットワーク:家庭内・社内ネットワーク)からアクセスする場合と、ダイナミック DNS サービスを利用して外部ネットワーク(インターネット)からアクセスする場合の2通りがあります。

内部ネットワークからは、Windows や Mac OS X の共有ファイルとして、本製品内に保存されたファイルの読み書きが可能です。

外部ネットワークからアクセスする場合は、Web ブラウザや FTP クライアントなどのアプリケーションを使って、本製品内のファイルをダウンロードまたはアップロードすることができます。

各ネットワーク環境から本製品へアクセスする場合は、それぞれ以下の手順にしてください。

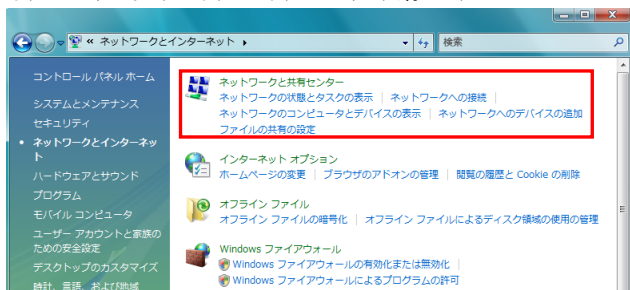
5-1 内部ネットワークからのファイル参照

Windows からファイルを開く

1. Windows のコントロールパネルから以下の順に開いて設定を確認し、「ネットワーク探索」および「ファイル共有」(Windows Vista)または「ファイルとプリンターの共有」(Windows 7、Windows 8、Windows 8.1)が無効になっている場合は有効にします。

Windows Vista の場合：

ネットワークとインターネット⇒ネットワークと共有センター

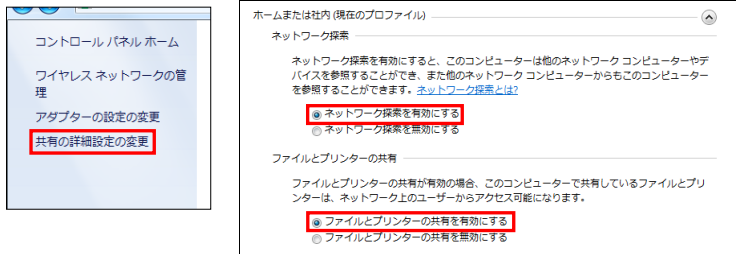




「ネットワークと共有センター」ウィンドウの「共有と探索」欄を参照して設定を確認します。

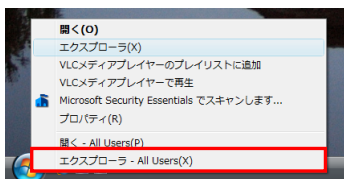
Windows 7、Windows 8、Windows 8.1 の場合：

ネットワークとインターネット⇒ネットワークと共有センター⇒共有の詳細設定の変更⇒ホームまたは社内(現在のプロファイル)

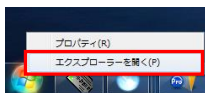


「ネットワークと共有センター」左側のウィンドウから、「共有の詳細設定の変更」をクリックして設定を確認します。

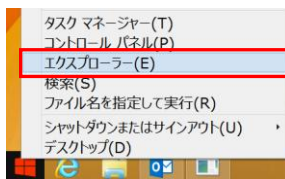
2. デスクトップ左下のスタートボタンを右クリックして表示されるメニューから選択、またはキーボードから Windows キー+Eキーを入力して、「エクスプローラー(エクスプローラ)」を開きます。



Windows Vista

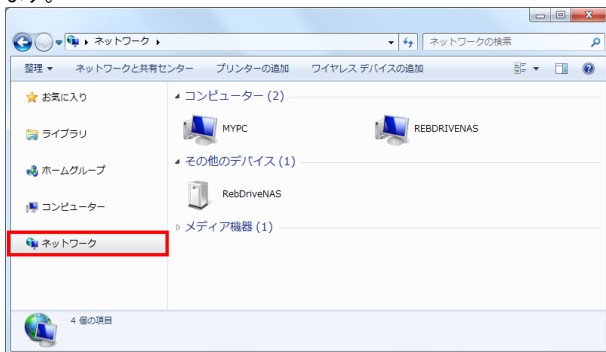


Windows 7

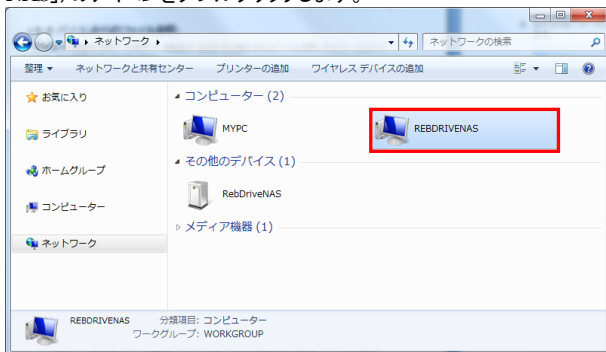


Windows 8.1

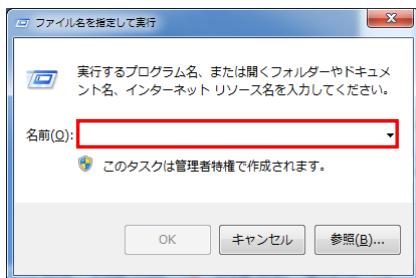
3. エクスプローラーウィンドウ左側のナビゲーションウィンドウから、「ネットワーク」をクリックして開きます。



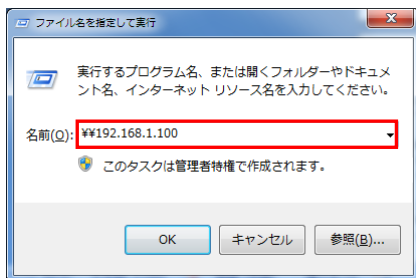
4. ネットワーク表示の「コンピューター」リストから、本製品の NAS 名(製品出荷時は「REBDRIVE NAS」)のアイコンをダブルクリックします。



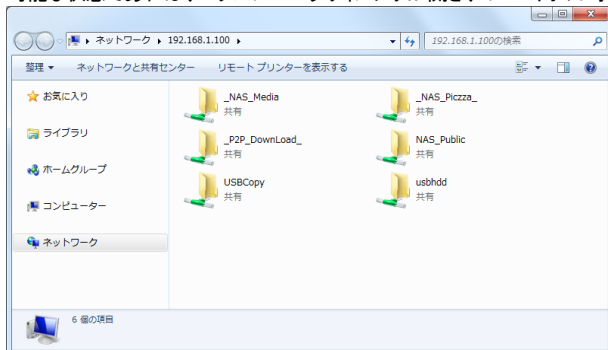
エクスプローラ上に NAS 名のアイコンが表示されない場合は、デスクトップ上で Windows キー＋Rキーを入力し、「ファイル名を指定して実行」ウインドウを表示します。



検索欄へ、「¥¥」に続けて、本製品の IP アドレスをすべて半角の英数字で入力します。
(例として、本製品の IP アドレスが 192.168.1.100 の場合は「¥¥192.168.1.100」と入力します。)

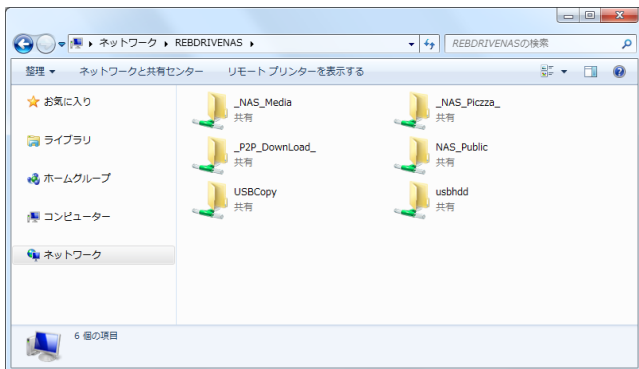


入力後に「ファイル名を指定して実行」の「OK」ボタンを押すと、ネットワークから本製品へアクセス可能な状態であれば、エクスプローラウインドウが開き、RAID 内のフォルダー一覧が表示されます。



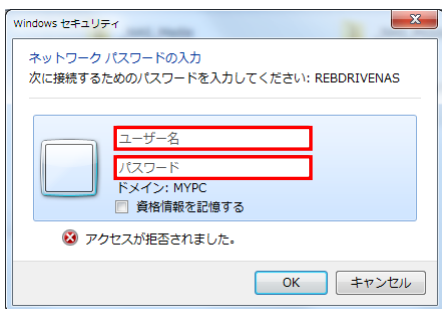
5. コンピュータリストの NAS 名アイコンを開くと、エクスプローラウィンドウに本製品の RAID 内のフォルダ一覧が表示されます。

各フォルダ内の共有ファイルは、NAS 側のユーザー設定に基づいて、パソコンの内部(ローカル)ファイルと同様に各アプリケーションから読み書きが可能です。



アクセス可能なユーザーが制限されるファイルやフォルダを開く場合は、ユーザー名とパスワードを入力するウィンドウが表示されます。

本製品に設定された、該当ファイル/フォルダへのアクセス権限を持つユーザー名とパスワードをそれぞれ入力します。



Mac OS X からファイルを開く

1. Finder 上で新規 Finder ウィンドウを開きます。
Finder ウィンドウ左側のサイドバーから、「共有」以下に表示されている本製品の NAS 名(製品出荷時は「RebDriveNAS」)をクリックします。



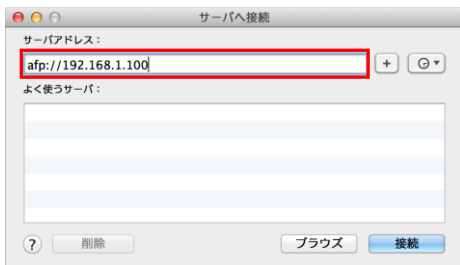
2. Finder ウィンドウに本製品の RAID 内のフォルダー一覧が表示されます。
各フォルダ内の共有ファイルは、NAS 側のユーザー設定に基づいて、パソコンの内部(ローカル)ファイルと同様に各アプリケーションから読み書きが可能です。
本製品に設定された特定のユーザーとして接続する場合は、ウィンドウ右上の「別名で接続...」をクリックして、ユーザー名とパスワードを入力します。



3. Finder ウィンドウに本製品の NAS 名が表示されない場合は、Finder のメニューバーから「移動」をクリックして開き、「サーバーへ接続…」をクリックして選択します。



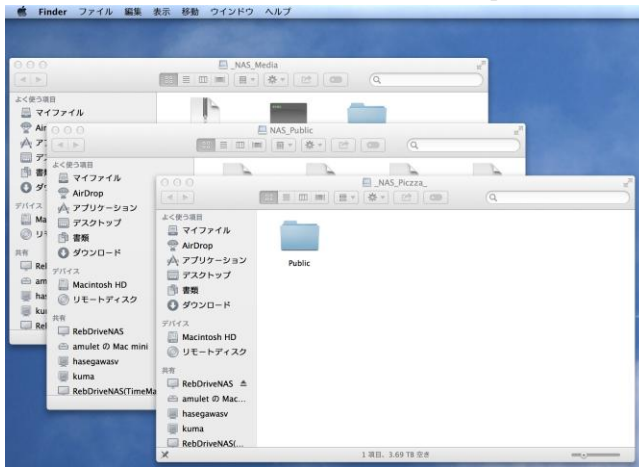
4. 「サーバーへ接続」ウィンドウの「サーバアドレス」欄へ、「afp://」に続けて、本製品の IP アドレスをすべて半角数字で入力します。
(例として、本製品の IP アドレスが 192.168.1.100 の場合は「afp://192.168.1.100」と入力します。)



- マウントするボリューム (RAID 内フォルダ) の選択ウィンドウが表示されます。
Shift キーを押しながらボリュームを選択するか、リスト内でマウスカーソルをドラッグすることで複数のボリュームを選択できます。
開きたいボリュームをすべて選択してから「OK」をクリックします。

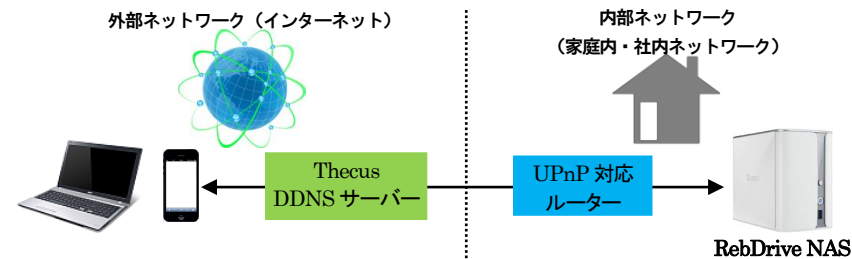


- ボリュームがマウントされると、該当するフォルダのウィンドウが開きます。
各フォルダ内の共有ファイルは、NAS 側のユーザー設定に基づいて、パソコンの内部 (ローカル) ファイルと同様に各アプリケーションから読み書きが可能です。
マウント済みのボリュームは、Finder サイドバーの「共有」リストから開き直すことができます。



5-2 ダイナミック DNS を利用した外部ネットワークからのファイル参照

Thecus ID を使って Thecus のダイナミック DNS (DDNS) サービスへ本製品を登録し、ルーターおよび本製品の UPnP (Universal Plug and Play) を設定することで、外部ネットワークから本製品へのアクセスが可能になります。

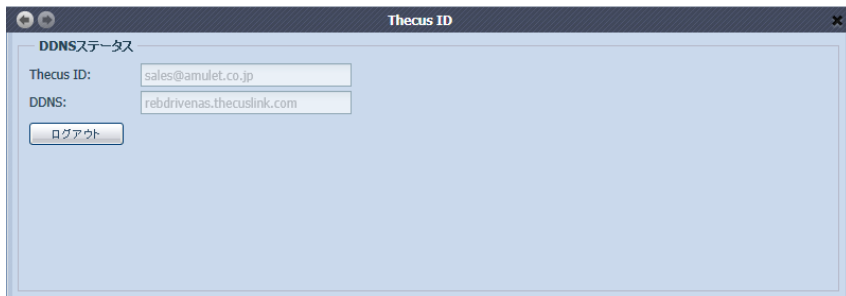


- ・ダイナミック DNS の利用には、Universal Plug and Play (UPnP) 対応で、外部ネットワーク (WAN) 側にグローバル IP アドレスが割り当てられたルーターが必要です。
- ・ダイナミック DNS の設定を始める前に、本製品と接続するルーターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

Thecus ID の設定確認

ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「ネットワークサービス」カテゴリから「Thecus ID」をクリックして開きます。

本書 19 ページ以降の内容にしたがって設定した情報が登録されていることを確認してください。



- ★本製品の導入時に Thecus ID を作成しなかった場合、または別の Thecus ID を作成する場合は以下の手順にて設定が可能です。

Thecus ID の新規作成

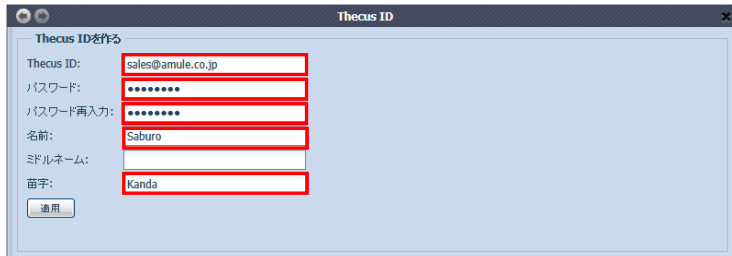
既に Thecus ID を設定済みで、別の Thecus ID を作成する場合は、「Thecus ID」ウィンドウの「ログアウト」をクリックしてから作業を開始します。

1. 「Thecus ID」ウィンドウの「登録」ボタンをクリックします。



The screenshot shows a window titled 'Thecus ID' with a sub-header 'DDNS設定'. It contains three input fields: 'Thecus ID:', 'パスワード:', and 'DDNS:'. The 'DDNS:' field has '.thecuslink.com' entered. Below the fields is an '適用' (Apply) button. At the bottom, there is a red box around the '登録' (Register) button. A message below the fields reads: 'Thecus IDをお持ちでない場合は、「登録」ボタンを押して登録してください。'

2. Thecus ID(メールアドレス)、パスワード、パスワード再入力、登録される方の名前と苗字をそれぞれ入力し、「適用」ボタンをクリックします。



The screenshot shows a window titled 'Thecus ID' with a sub-header 'Thecus IDを作る'. It contains six input fields: 'Thecus ID:', 'パスワード:', 'パスワード再入力:', '名前:', 'ミドルネーム:', and '苗字:'. The fields are filled with: 'sales@amule.co.jp', '*****', '*****', 'Saburo', an empty field, and 'Kanda'. Below the fields is an '適用' (Apply) button. Red boxes highlight each of the input fields.

3. 入力したメールアドレス宛に登録確認のメール(英文)が送信されます。以下のようなメール文中の、「http://」で始まる URL を Web ブラウザから開くことで、作成された Thecus ID が有効になります。

Please activate your Thecus ID!
ddns@thecus.com
收件者: jen@gmail.com

Hi jennifer,

Thank you for registering with Thecus ID!

Your Thecus ID is jen@gmail.com
To activate your account please click the link below:
<http://ns1.thecuslink.com/8080/cgi-bin/vernr.cgi?email=jen@gmail.com&passwd=5243ebe4ba10054427a15a64ddc81b5>

4. 「Thecus ID」ウィンドウの「DDNS 設定」欄に、以下の内容を入力して「適用」ボタンをクリックします。

Thecus ID: Thecus ID に登録したメールアドレス

パスワード: Thecus ID に登録したパスワード

DDNS: 本製品をインターネットから参照する場合に使用する名前

★「DDNS」欄に入力した名前が既に他のユーザーによって登録されている場合、エラーが表示されますので、他の名前を選択してください。

Universal Plug and Play(UPnP)の設定

1. ウェブ管理インタフェースのコントロールパネル「ネットワークサービス」カテゴリから「UPnP サービス」をクリックして開きます。
「UPnP」の設定が「有効」となっていることを確認してください。
「無効」に設定されている場合は、「有効」を選択してから「適用」ボタンをクリックします。

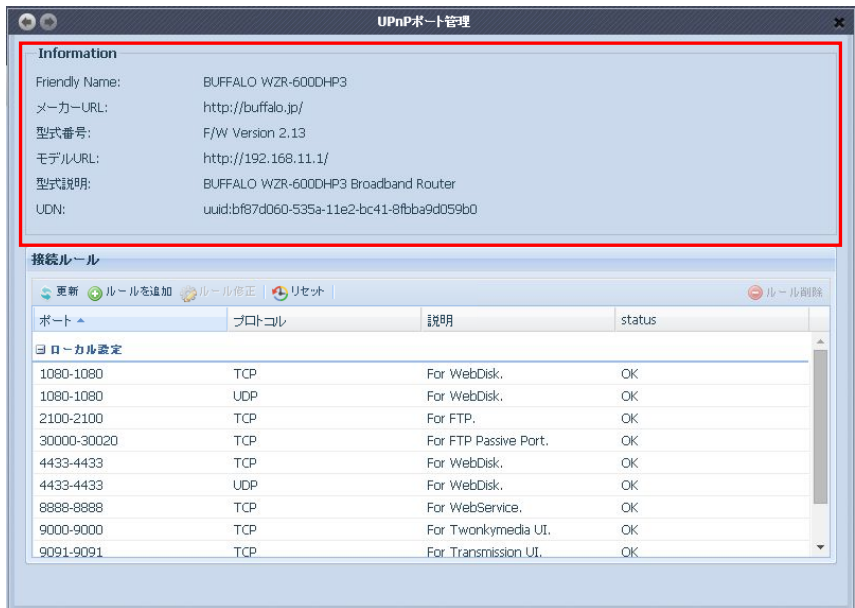
2. ルーターの設定で Universal Plug and Play(UPnP)を有効にします。
設定手順の詳細については、ルーターの取扱説明書を参照してください。

3. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「ネットワークサービス」カテゴリから「UPnP ポート管理」をクリックして開きます。

「UPnP ポート管理」ウインドウの「Information」欄に、本製品が UPnP デバイスとして認識したルーターの情報が表示されます。

ここにお使いのルーターの情報が正しく表示されていることを確認してください。

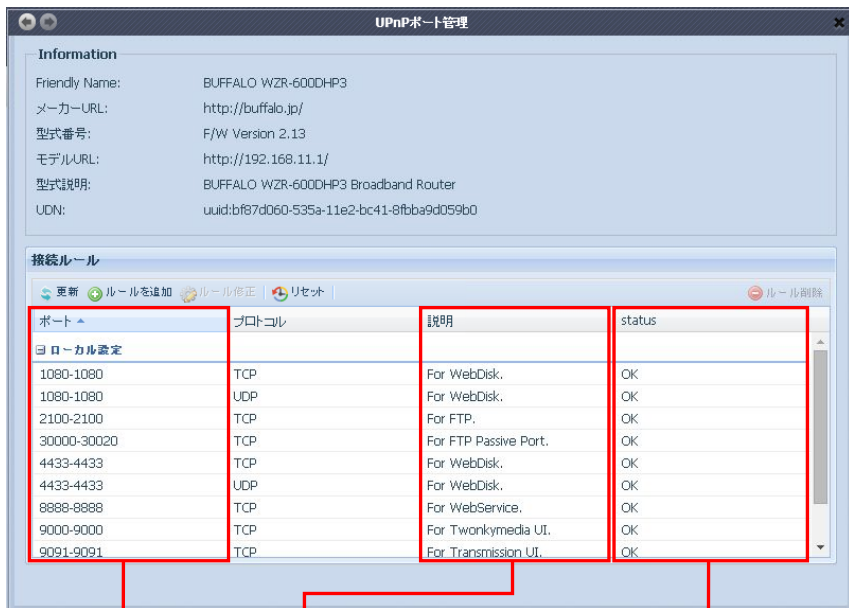
★ルーターの正しい情報が表示されない場合は、ルーターおよび本製品をいったん再起動してから確認してください。



ポート番号の確認

外部ネットワークから本製品へアクセスする際には、UPnP サービスからサービスごとに割り当てられたポート番号を指定する必要があります。

ポート番号を確認するために、ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「ネットワークサービス」カテゴリから「UPnP ポート管理」をクリックして開きます。



The screenshot shows the 'UPnPポート管理' (UPnP Port Management) window. It has an 'Information' section at the top with device details and a '接続ルール' (Connection Rules) section below. The '接続ルール' section contains a table with columns for 'ポート' (Port), 'プロトコル' (Protocol), '説明' (Description), and 'status'. A red box highlights the table, and red lines connect the column headers to labels below the screenshot.

ポート	プロトコル	説明	status
ローカル設定			
1080-1080	TCP	For WebDisk.	OK
1080-1080	UDP	For WebDisk.	OK
2100-2100	TCP	For FTP.	OK
30000-30020	TCP	For FTP Passive Port.	OK
4433-4433	TCP	For WebDisk.	OK
4433-4433	UDP	For WebDisk.	OK
8888-8888	TCP	For WebService.	OK
9000-9000	TCP	For Twonkymedia UI.	OK
9091-9091	TCP	For Transmission UI.	OK

ポート番号 ポート番号に割り当てられたサービスの説明 ポートの状態

「UPnP ポート管理」ウィンドウの「接続ルール」以下に、ルーターから本製品へ各サービスごとに割り当てられたポート番号の情報が表示されます。

各ポート番号の「status」欄の内容が「OK」となっていることを確認します。「OK」が表示されない場合は、「接続ルール」欄の「更新」または「リセット」をクリックします。

★ポート番号の割り当て情報については、可能であればルーター側の設定からも確認してください。

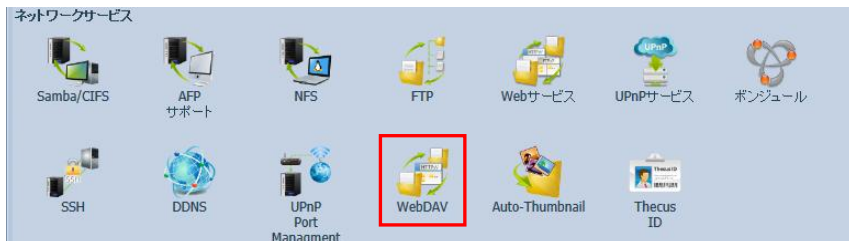
★ルーターの設定および操作方法については、ルーターの取扱説明書を参照してください。

★ポート番号の変更または削除を行う手順については本書の 67 ページを参照してください。

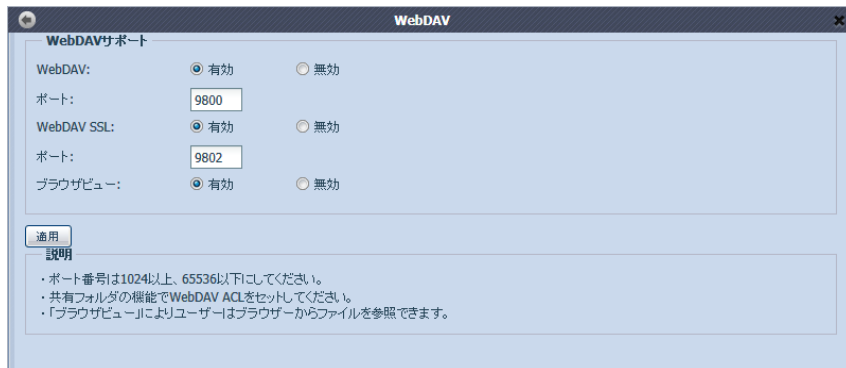
WebDAV サポートおよび FTP の設定

外部ネットワークから本製品内のファイルを参照する場合、Web ブラウザやスマートフォン・タブレット用アプリなどから本製品へ接続するためのサービス「WebDAV」および「FTP」の設定を行います。

1. ウェブ管理インタフェースのコントロールパネル「ネットワークサービス」カテゴリから、「WebDAV」をクリックして開きます。



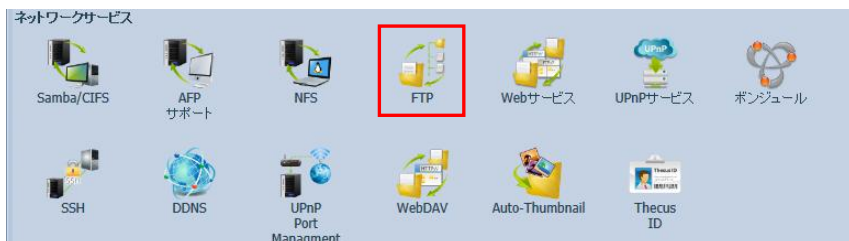
2. 「WebDAV サポート」以下の各項目を確認し、必要に応じて有効または無効に設定します。
WebDAV: T-OnTheGo および Web ブラウザからの HTTP 接続(非暗号化通信)で使用します。
WebDAV SSL: T-OnTheGo および Web ブラウザからの HTTPS 接続(暗号化通信)で使用します。
ブラウザビュー: Web ブラウザから NAS 内のファイルを参照する場合、有効に設定します。



設定を変更した場合は「適用」ボタンをクリックして変更を反映します。

★スマートフォン・タブレット向け ThecusOS 搭載 NAS 接続用アプリ「T-OnTheGo」については、本書 70 ページ以降を参照してください。

3. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「ネットワークサービス」カテゴリから、「FTP」をクリックして開きます。



4. 「FTP」以下から次の各項目を確認し、必要に応じて有効または無効に設定します。

FTP: FTPの有効/無効を切り替えます。

セキュア FTP: SSL 対応 FTP クライアントからの FTPS 接続(暗号化通信)を使用する場合、有効に設定します。無効に設定した場合は、非暗号化通信となります。

一般的にFTPS サーバーには Explicit モードと Implicit モードの2つのモードが存在しますが、本製品では Explicit モードでのみ動作します。



設定を変更した場合は「適用」ボタンをクリックして変更を反映します。

★Web ブラウザからのセキュア FTP 接続には対応していません。Web ブラウザから FTP 接続を行う場合は、セキュア FTP を無効に設定する必要があります。

外部ネットワークからアクセスする際の URL 入力

ダイナミック DNS を使って外部ネットワークなどから本製品にアクセスする場合、Web ブラウザや各種アプリケーションから以下のような表記で URL を入力します。

【プロトコル名】://【DDNS 名】.thecuslink.com:【UPnP で割り当てられたポート番号】

アプリケーションからのファイル参照

Web ブラウザ

Web ブラウザから本製品に収録されたファイルを参照する方法として、http (WebDAV) および https (WebDAV SSL) と FTP の 3 種類のプロトコルが使用できます。これらの手段で Web ブラウザから本製品へアクセスする手順は、それぞれ以下を参照してください。

WebDAV(ブラウザ画面でのファイル操作)

Web ブラウザから「http://」に続けて、ダイナミック DNS で設定された名前、ポート番号の順に入力してアクセスします。

ポート番号は標準で、WebDAV: 9800、WebDAV SSL: 9802 にそれぞれ割り当てられています。

URL の入力例: (DDNS 名: rebdrivenas、ポート番号: 9800 の場合):

http://rebdrivenas.thecuslink.com:9800



ダイナミック DNS 経由で Web ブラウザから WebDAV を開いた画面

RAID 内フォルダの一覧が表示されます。フォルダ名をクリックすると、そのフォルダへ移動し、ファイル名をクリックすることでそのファイルを表示またはダウンロードできます。

FTP(Web ブラウザからの ftp アクセス)

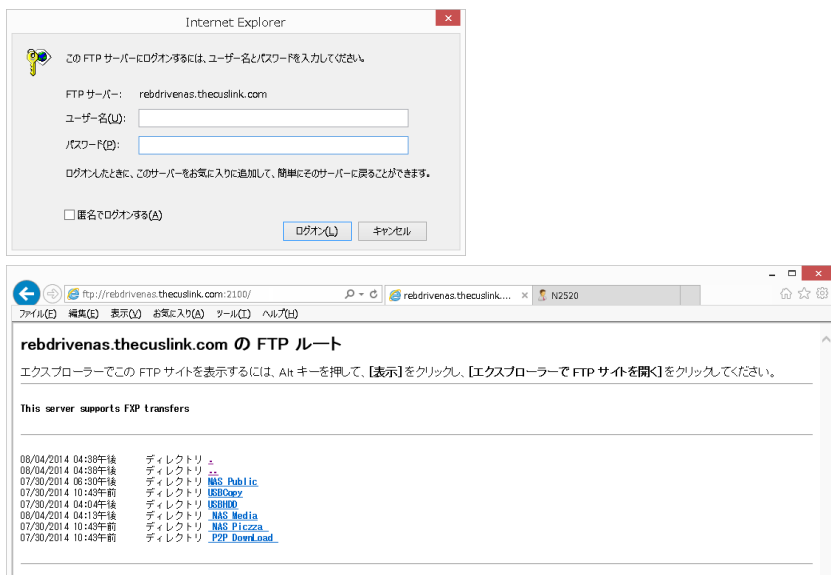
Web ブラウザから「ftp://」に続けて、ダイナミック DNS で設定された名前、ポート番号の順に入力してアクセスします。

ポート番号は標準で 2100 に割り当てられています。

接続時にユーザー名をパスワードの入力画面が表示されるので、本製品に設定されたユーザー名とパスワードを入力します。

URL の入力例: (DDNS 名: rebdrivenas、ポート番号: 2100 の場合):

ftp://rebdrivenas.thecuslink.com:2100



ダイナミック DNS 経由で Web ブラウザから FTP を開いた画面

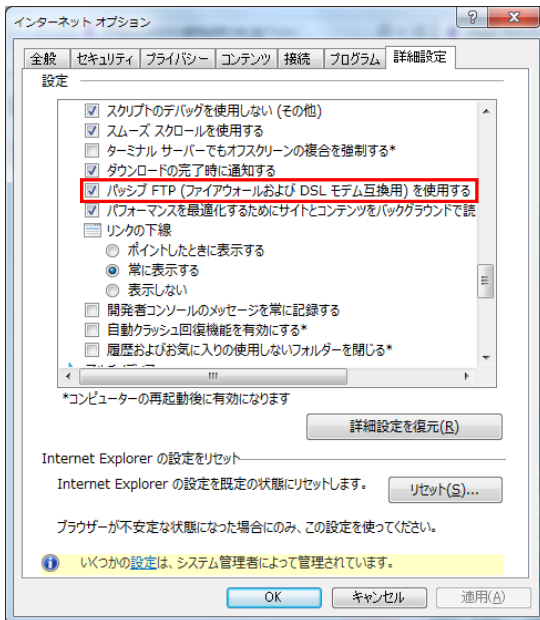
RAID 内フォルダの一覧が表示されます。フォルダ名をクリックすると、そのフォルダへ移動し、ファイル名をクリックすることでそのファイルを表示またはダウンロードできます。

★Web ブラウザからのセキュア FTP 接続には対応していません。Web ブラウザから FTP 接続を行う場合は、本製品のセキュア FTP を無効に設定する必要があります。

★Web ブラウザの設定でパッシブ FTP(PASV モードでの FTP 接続)が有効になっていると、本製品へ FTP で接続できない場合があります。

Windows 標準の Web ブラウザである Internet Explorer では、初期設定でパッシブ FTP が有効になっているので、以下の手順で無効に変更してください。

1. メニューバーから「ツール」⇒「インターネット オプション」の順に選択して、インターネット オプションを開きます。
2. 「詳細設定」タブをクリックします。
3. 「設定」欄から、「パッシブ FTP(ファイアウォールおよび DSL モデム互換用)を使用する」文頭のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。
4. 「OK」をクリックして設定を反映します。



FTP クライアント

FTP クライアントソフトから本製品へ接続する場合は、接続設定として以下の内容を入力します。

サーバー名(ホスト名): 【DDNS 名】.thecuslink.com

ポート番号: UPnP で割り当てられたポート番号(標準値は 2100)

ファイル転送プロトコル: FTP

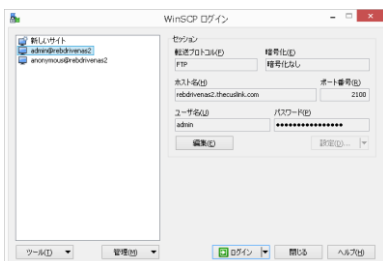
暗号化:

本製品のセキュア FTP が無効の場合: 暗号化なし

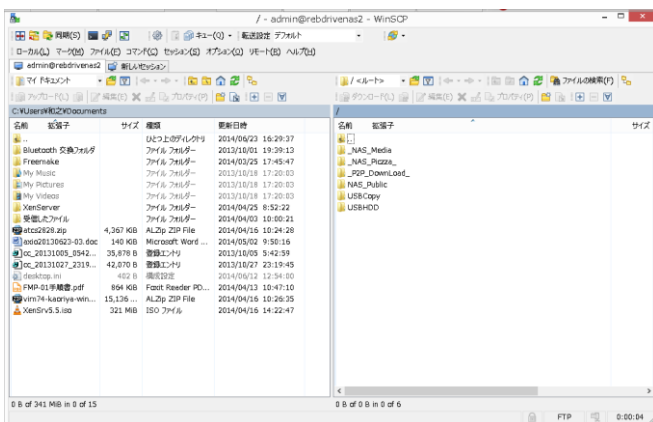
本製品のセキュア FTP が有効の場合: TLS Explicit encryption (明確な暗号)

ユーザー名およびパスワード: 本製品に設定された任意のユーザー名およびパスワード

Anonymous(匿名)ログイン: 無効



FTP クライアント設定画面の例(WinSCP)

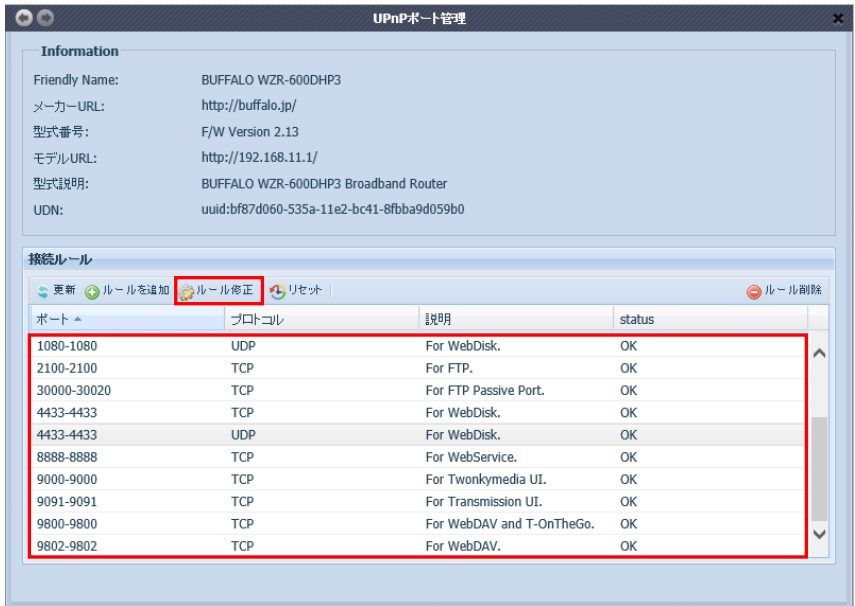


FTP クライアントの画面例(WinSCP)

ポート番号の変更および削除

ポート番号の変更

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「ネットワークサービス」カテゴリから「UPnP Port ポート管理」をクリックして開きます。
2. 画面下段の「接続ルール」欄から変更する該当のポート番号をクリックして選択したあと「ルール修正」をクリックします。



3. 「Start port」および「ポート終了」欄へ変更したい数値を入力し、「Apply」をクリックします。
入力した数値がポート番号として割り当てられます。

The screenshot shows a window titled "UPnPポート管理" (UPnP Port Management). It is divided into two main sections: "Information" and "接続ルール" (Connection Rule).

Information:

- Friendly Name: BUFFALO WZR-600DHP3
- メーカーURL: http://buffalo.jp/
- 型式番号: F/W Version 2.13
- モデルURL: http://192.168.11.1/
- 型式説明: BUFFALO WZR-600DHP3 Broadband Router
- UDN: uuid:bf87d060-535a-11e2-bc41-8fbb9d059b0

接続ルール (Connection Rule):

- Start port: 1080
- ポート終了: 1080
- プロトコル: TCP
- 説明: For WebDisk.

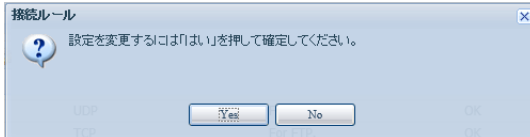
At the bottom, there are two buttons: "Apply" and "Cancel". The "Apply" button is highlighted with a red box.

ポート番号の削除

1. ウェブ管理インタフェースのコントロールパネル「ネットワークサービス」カテゴリから「UPnP Port ポート管理」をクリックして開きます。
2. 画面下段の「接続ルール」欄から変更する該当のポート番号をクリックして選択したあと「ルール削除」をクリックします。



3. 確認のメッセージが表示されるので、削除を確定する場合は「Yes」をクリックします。



★いったん削除したポート番号を元の状態に戻す場合は、本製品の初期化が必要です。

6 NAS アプリの活用

6-1 スマートフォン・タブレット(iOS/Android)用アプリの導入

専用アプリ「T-OnTheGo」を使って、iOS または Android を搭載したスマートフォンやタブレットから、本製品へアクセスすることができます。

★導入の前に、本書 61 ページの内容に従って本製品の「WebDAV サポート」が有効になっていることを確認してください。

iPhone/iPad(iOS デバイス)へのアプリ導入

1. App Store で「T-OnTheGo」を検索し、ダウンロードします。



4. iPhone または iPad から T-OnTheGo を起動します。



5. 下図の「設定」アイコンをタップしてメニューを開き、言語を選択します。



6. 下図を参考に、「追加」アイコンをタップして本製品を「マイデバイス」のリストに登録します。サービス選択のリストから「Thecus WebDAV」を選択し、以下の内容を入力します。

機器名:任意の名前

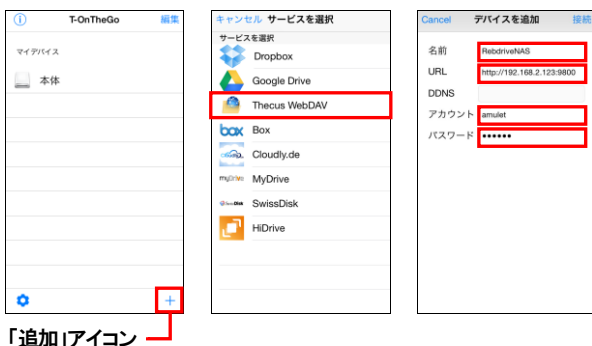
URL: `http://<本製品の IP アドレス>:<WebDAV ポート番号>` または、
`https://<本製品の IP アドレス>:<WebDAV SSL ポート番号>`

ユーザー名、パスワード:本製品に設定済みのもの

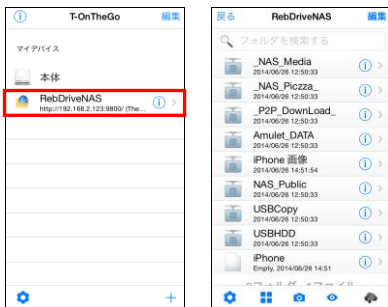
★「WebDAV ポート番号」および「WebDAV SSL ポート番号」は、コントロールパネル「WebDAV サポート」(本書 61 ページ)で設定したものと同一の番号を入力します。

★ダイナミック DNS サービスを使用して外部ネットワークから接続する場合は、URL 欄にダイナミック DNS サービスで割り当てられた名前(DDNS 名)とポート番号を指定し別途登録してください。

上記の項目すべてを入力した後、画面右上の「接続」をタップします。



4. 追加した NAS のアイコンをタップすると、フォルダが開きます。
各ファイルのアイコンを開くとデフォルト動作()、長押しするとメニュー(オプション操作)が開きます。
写真や音楽、動画などのメディアファイルはタップすることで表示や再生が可能です。



★メディアファイルの圧縮形式/コーデックやファイルサイズなどによって、表示/再生ができない場合があります。

画面右上の「編集」をタップすると、オプション操作のためのメニューが開きます。
このメニューから、ファイルの移動・削除やリネーム(名前変更)、スマートフォン・タブレットへのダウンロードなどを行うことができます。

5. 任意の NAS フォルダを開いた状態で、画面下中央のカメラアイコンをタップすると、iPhone/iPad 内の写真・画像ファイルをそのフォルダへアップロード(保存)することができます。
カメラアイコンをタップして開くメニューから「フォトライブラリ」を選択し、表示されたリストからアップロードしたい写真・画像をタップして選択します。選択した写真・画像にはチェックマークが付きます。
アップロードするファイルをすべて選択してから、右下の「アップロード」をタップすると写真・画像ファイルがアップロードされます。

★iOS では写真・画像ファイルのみアップロード可能です。



カメラアイコン

Android デバイスへのアプリ導入

1. Play ストアで「T-OnTheGo」を検索し、ダウンロードします。



4. スマートフォン・タブレットから T-OnTheGo を起動します。



5. 下図の「言語」アイコンをタップしてメニューを開き、言語を選択します。



「言語」アイコン

6. 下図を参考に、「追加」アイコンをタップして本製品を「マイデバイス」のリストに登録します。
サービス選択のリストから「Thecus WebDAV Menu Setting」を選択し、以下の内容を入力します。

機器名: 任意の名前

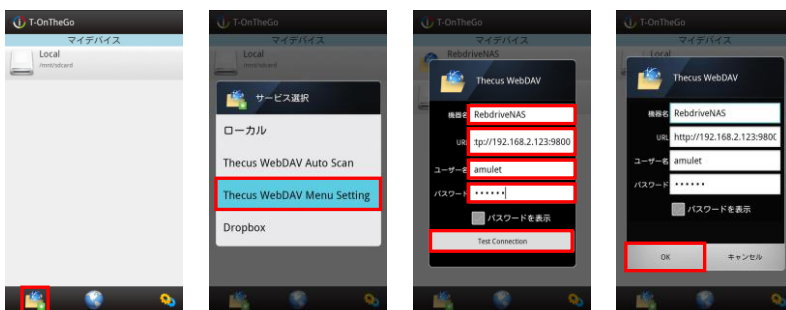
URL: `http://<本製品の IP アドレス>:<WebDAV ポート番号>` または、
`https://<本製品の IP アドレス>:<WebDAV SSL ポート番号>`

ユーザー名、パスワード: 本製品に設定済みのもの

★「WebDAV ポート番号」および「WebDAV SSL ポート番号」は、コントロールパネル「WebDAV サポート」(本書 61 ページ)で設定したものと同一の番号を入力します。

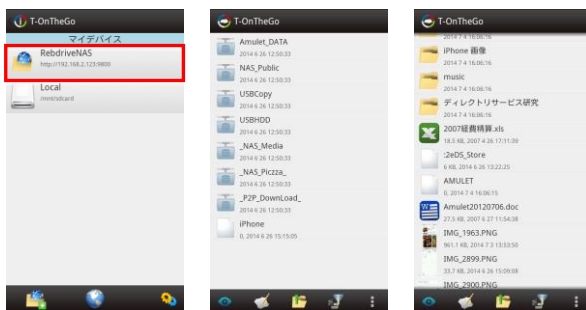
★ダイナミック DNS サービスを使用して外部ネットワークから接続する場合は、URL 欄にダイナミック DNS サービスで割り当てられた名前(DDNS 名)を指定し別途登録してください。

「Test Connection」をタップして接続テストをした後、問題がなければ「OK」をタップして決定します。



「追加」アイコン

4. 追加した NAS のアイコンをタップすると、フォルダが開きます。ファイルは形式(拡張子)ごとにアイコン(写真・画像ファイルの場合は縮小画像)とファイル名で表示されます。写真・画像や動画、音楽などのメディアファイルをタップすると、T-OnTheGo の機能またはシステムアプリを使って、そのファイルを表示・再生します。その他のファイルについては、その形式に対応したアプリがスマートフォン・タブレットにインストールされてれば、タップすることでファイルを開いて表示や編集が可能です。



★メディアファイルの圧縮形式/コーデックやファイルサイズなどによって、表示/再生ができない場合があります。

ファイルをロングタップ(長押し)すると、オプション操作のためのメニューが開きます。このメニューから、ファイルの移動・削除やリネーム(名前変更)、スマートフォン・タブレットへのダウンロードなどを行うことができます。



5. それぞれ以下の手順で、スマートフォン・タブレット内の写真や各種ファイルを NAS フォルダへアップロード(保存)することができます。

写真・画像ファイルのアップロード

NASに接続した状態で、画面下中央のアップロードアイコンをタップします。

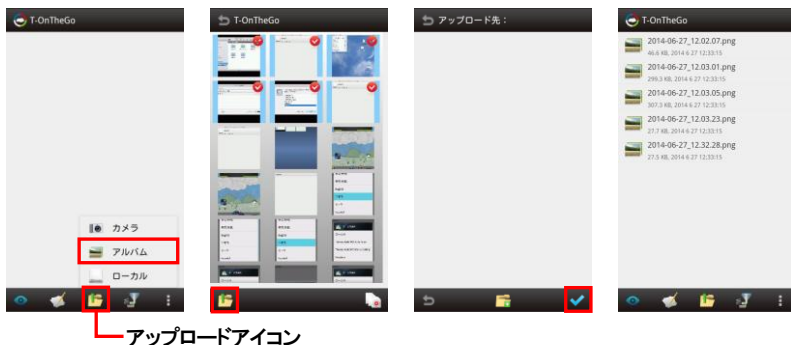
開いたメニューから、「アルバム」をタップして選択します。

スマートフォン・タブレット内に保存された写真・画像ファイルのリストが表示されるので、アップロードしたい写真・画像をタップして選択します。選択した写真・画像にはチェックマークが付きます。

右下のアイコンをタップすることで、すべてのファイルの選択・解除を切り替えることができます。

アップロードしたいファイルをすべて選択したら、左下のアップロードアイコンをタップします。

アップロード先の選択画面で、ファイルをアップロードする NAS フォルダへ移動してから、右下のチェックアイコンをタップすると写真・画像ファイルがアップロードされます。



その他のファイルのアップロード

ファイルをアップロードしたいNASフォルダを開いた状態で、画面下中央のアップロードアイコンをタップします。

開いたメニューから、「ローカル」をタップして選択します。

スマートフォン・タブレット内のフォルダリストが表示されるので、アップロードしたいファイルのあるフォルダを開いてから、右下のファイル選択アイコンをタップします。

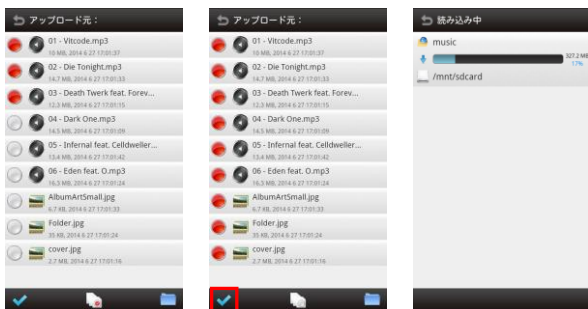
アップロードしたいファイルの左側に表示されるマークをタップして、アップロードするファイルをチェックします。中央のアイコンをタップすることで、すべてのファイルの選択・解除を切り替えることができます。

アップロードするファイルをすべて選択してから、左下のチェックアイコンをタップするとファイルがアップロードされます。



アップロードアイコン

ファイル選択アイコン



チェックアイコン

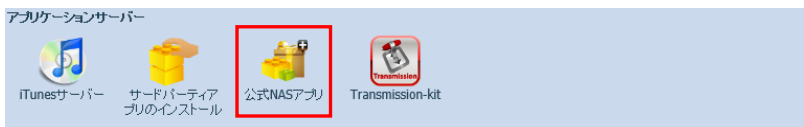
6-2 DLNA 対応メディアサーバー Twonkymedia の導入

メディアサーバー用 NAS アプリ「Twonkymedia」を導入することで、本製品の RAID 内に保存されている各種メディアファイルを、ネットワーク上のパソコンやスマートフォン・タブレットなどの DLNA (Digital Living Network Alliance) 対応アプリケーションから直接開いて表示・再生することができます。

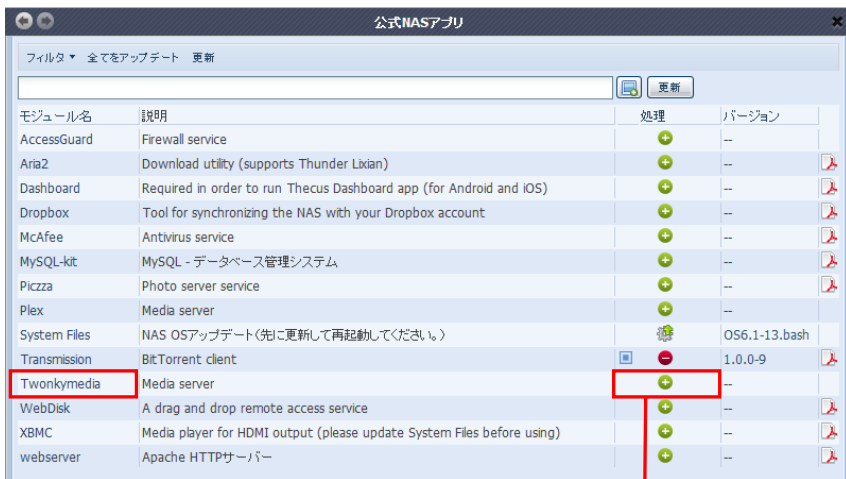
「Twonkymedia」の導入

本製品がインターネットに接続されている状態で、「Twonkymedia」のインストール作業を行います。

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「アプリケーションサーバー」カテゴリから、「公式 NAS アプリ」をクリックして開きます。

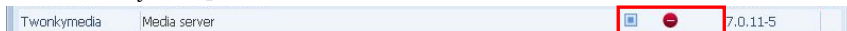


2. 「公式 NAS アプリ」ウィンドウ内、「Twonkymedia」右側の「処理」欄に表示されているアイコンをクリックしてインストールを開始します。



インストールアイコン

3. インストールが完了すると、「Action」欄のアイコンが下図のように変化します。
「公式 NAS アプリ」ウィンドウ右上の×マークをクリックして、ウィンドウを閉じます。
以上で「Twonkymedia」の導入は終了です。



メディアファイルの準備

「Twonkymedia」で利用する各種ファイルを、本製品 RAID 内のトップにある「_NAS_Media」フォルダに保存します。

★利用するフォルダは「Twonkymedia」の「共有フォルダ」設定で追加・変更できます。

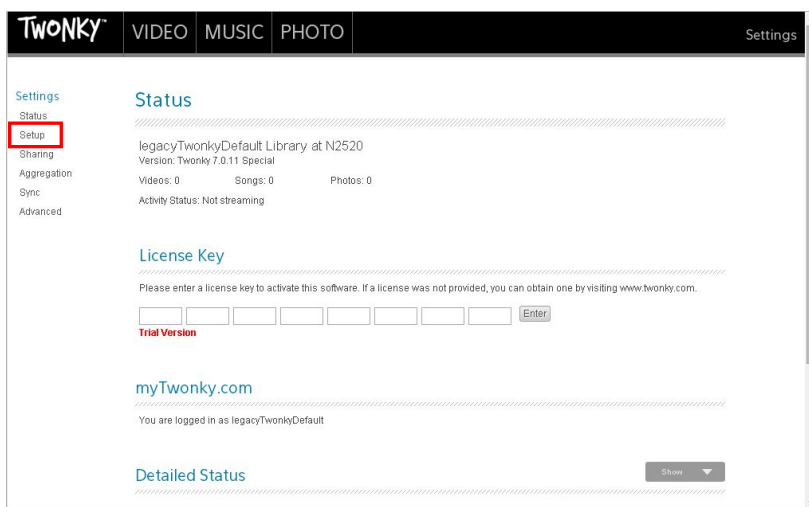
Twonkymedia の設定

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「アプリケーションサーバー」カテゴリから、「Twonkymedia」をクリックして開きます。

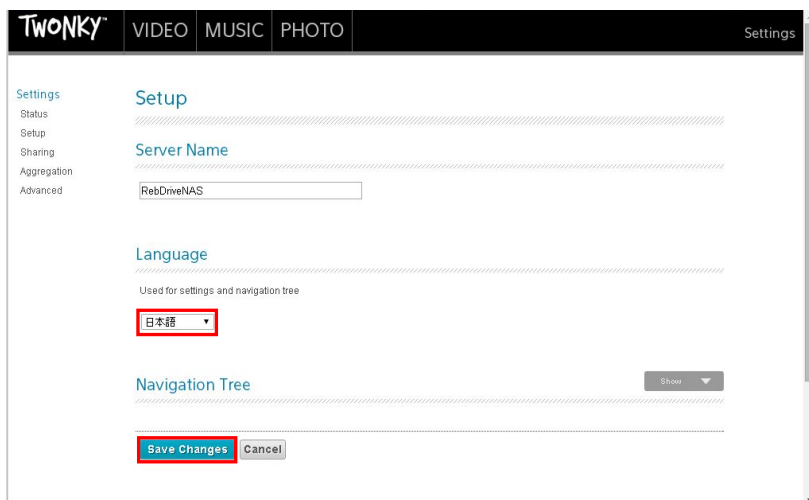


★NAS アプリ「Twonkymedia」がインストールされていない場合、「アプリケーションサーバー」カテゴリに「Twonkymedia」は表示されません。

2. 「Twonkymedia」管理ページが表示されます。
画面左の「Settings」メニュー以下から「Setup」をクリックします。



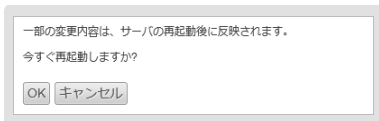
- 「Language」欄の選択部分をクリックして開き、「日本語」を選択します。
画面下の「Save Changes」をクリックすると、メニューが日本語で表示されます。



3. 「サーバ名」欄では、DLNA 対応アプリケーション上で表示される本製品のサーバ名を変更することができます。
変更する場合は、新しい名前を入力した後、「変更を保存」をクリックして設定します。



設定の変更を反映するために、「Twonkymedia」サーバの再起動が必要です。
「OK」をクリックして再起動を行います。



4. サーバーの再起動後に、再度「Twonkymedia」を開き、画面左の「設定」メニューから「ステータス」をクリックします。



「ステータス」画面の「ライセンスキー」欄に、本製品に付属しているソフトウェア CD の外袋に記載されている「Twonkymedia License key」を入力します。

ライセンスキーは、「-」(ハイフン)で区切られた 4 文字ずつを、順に枠内へ入力してください。

ライセンスキーをすべて入力してから、入力欄の横にある「入力」をクリックして登録します。



ライセンスキーが正しく登録されると、「ステータス」画面の「ライセンスキー」が表示されなくなります。登録済みのライセンスを確認する場合は、「詳細ステータス」欄右側の「表示」をクリックすると、ステータス情報の一項目として「登録キー」が表示されます。

詳細ステータス		非表示 ▲
キャッシュメモリ	720KB	
最終更新日	2014-09-17 13:14	
登録キー	GABW-BSXE-KPMA-XMCX-TWTM-EGAF-SFEE-STGL	
サーバ動作時間	0 日, 0 時間, 11 分, 32 秒	
サーバの再起動保留	いいえ	
Windows Media DRM ステータス		
同期サーバ URL	http://192.168.11.2:9050	
ネットワークインターフェース	192.168.11.2 00:14:FD:17:A1:65	

7. 画面左の「設定」メニューから「共有」をクリックします。



メディアファイルの共有に関する各オプションを選択します。

共有

共有フォルダ

以下のフォルダのメディアは、ネットワーク上の他のデバイスからご利用いただけます。各フォルダで共有するメディアタイプを制限できます。左のチェックボックスをオフにすると、フォルダにあるメディアへのアクセスが無効になります。

ネットワーク上の別のサーバで、全てのサーバのメディアを1つに表示するように設定している場合、右のチェックボックスをオンにすると、フォルダのメディアがアグリゲーション機能に利用できるようになります。この機能の詳細は、「アグリゲーション」メニューをご覧ください。

<input checked="" type="checkbox"/>	/_NAS_Media	全てのコンテンツタイプ ▼	<small>参照</small>	<input type="checkbox"/> アグリゲーションで利用可能
<input type="checkbox"/>		全てのコンテンツタイプ ▼	<small>参照</small>	<input type="checkbox"/> アグリゲーションで利用可能

フォルダ名入力枠

メディアレシーバ

▲

新しいメディアレシーバを自動的に共有

MAC	IP	フレンドリーな名前	メディアレシーバタイプ	ナビゲーションタイプ
<input checked="" type="checkbox"/> 08:9E:01:C8:6A:0B	192.168.11.3		Generio Media Receiver ▼	アドバンスメディアナビゲーション ▼

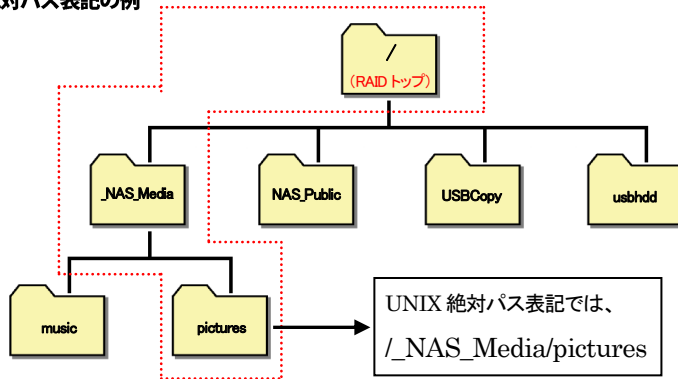
アグリゲーションサーバ

▲

「共有フォルダ」では、「Twonkymedia」で利用する本製品 RAID 内のフォルダと利用方法を指定します。

「共有フォルダ」以下の枠内に、利用するフォルダ名を UNIX の絶対パス表記で入力します。RAID のトップを「/」（半角文字：スラッシュ）で表し、以降のフォルダ名とサブフォルダを「/」で繋いで表記します。

UNIX 絶対パス表記の例



フォルダ名入力枠に記入したフォルダを共有フォルダとして有効にする場合は、フォルダ名左のチェックボックスをクリックしチェックしてください。

フォルダ名の入力枠は、「新しいフォルダの追加」をクリックして増やすことができます。

フォルダ名入力枠の右に表示されている、「全てのコンテンツタイプ」と表記されたボックスをクリックすると、各フォルダで共有するメディアの種類を選択して制限することができます。

「アグリゲーションで利用可能」は、このフォルダに含まれるメディアファイルを、同一ネットワーク上で動作している別の「Twonkymedia」サーバーから「アグリゲーション」機能で利用する場合にクリックしてチェックします。

「アグリゲーション」は、「Twonkymedia」サーバーと同一ネットワーク上にある他の機器に保存された共有メディアの情報を「Twonkymedia」サーバー上に1つにまとめて表示できる機能です。

本製品で「アグリゲーション」機能を有効にする場合は、この設定を無効にします。

★「アグリゲーション」設定の詳細については本書の 86 ページを参照してください。

「メディアレシーバ」欄には、「Twonkymedia」へ接続してメディアファイルを参照しているパソコンなど（クライアント）のリストが表示されます。

初期設定では「新しいメディアレシーバを自動的に共有」左のチェックが有効となっており、

「Twonkymedia」へ接続したクライアントの情報は自動的に更新されます。

「リストをリセット」をクリックすることで、クライアントのリストが更新されます。

「アグリゲーションサーバ」欄には、同一ネットワーク上で「アグリゲーション」機能が利用可能な他の「Twonkymedia」サーバーの一覧が表示されます。

すべての項目を選択してから、「変更を保存」をクリックして設定します。

8. 画面左の「設定」メニューから「アグリゲーション」をクリックします。



「アグリゲーション」は、「Twonkymedia」サーバーと同一ネットワーク上にある他の機器に保存された共有メディアの情報を、「Twonkymedia」サーバー上に1つにまとめて表示できる機能です。同一ネットワーク上に存在する別の本製品内のメディアファイルをこの機能で利用する場合は、メディアファイルが保存されている側の本製品についても、「Twonkymedia」のインストールと共有フォルダの設定が必要となります。

★共有フォルダ設定の詳細については本書の 84 ページを参照してください。

詳細なオプションをそれぞれ設定します。



「アグリゲーション」欄の「アグリゲーション有効」をクリックしてチェックすることで、「アグリケーション」機能が有効となります。

「アグリケーションモード」欄右側の「表示」をクリックすると、同一ネットワーク上で共有されるメディアファイルが見つかった場合の動作について、3つのモードから選択できます。

「無視する」を選択した場合、何も行いません。

「アグリゲート」を選択した場合、見つかったメディアファイルを本製品の「Twonkymedia」から共有されるファイルとして表示します。実際のファイルは、共有元に保存されたままの状態となります。

「自動コピー」を選択した場合、共有元から本製品へメディアファイルをコピーして共有します。

★「自動コピー」を選択した場合、他の機器からコピーされたファイルはすべて、本製品内の RAID トップにある「_NAS_Media」フォルダへコピーされます。

「利用可能なサーバ」欄右側の「表示」をクリックすると、同一ネットワーク上で共有されているメディアファイルのサーバのリストが表示されます。

サーバ名以下の選択項目によって、共有するメディアファイルの種類とアグリケーションモードを個別に選択することができます。

すべての項目を選択してから、「変更を保存」をクリックして設定します。

9. 画面左の「設定」メニューから「アドバンスト」をクリックします。



詳細なオプションを必要に応じてそれぞれ設定します。

アドバンス

セキュアサーバ設定

ユーザ名とパスワードを使用して、TwonkyServer 設定ページおよび同期へのアクセスをセキュアにできます。

ユーザ名 パスワード

myTwonky.com アカウント

非表示 ▲

ログイン: legacyTwonkyDefault

コンピレーションフォルダ

非表示 ▲

ミュージックコンピレーションとして扱うフォルダをリストして下さい。複数のフォルダは、コマで区切って指定します。

再スキャンの間隔

非表示 ▲

コンテンツディレクトリの再スキャン間隔を分単位で指定できます。自動再スキャンを無効にする場合は0を指定して下さい。-1に設定すると、サーバは自動的にコンテンツのフォルダアップデートを監視するため、コンテンツの再スキャンは必要ありません。

in minutes

NIC 変更時の再起動

非表示 ▲

NICの変更に伴い自動的にサーバを再起動するかどうかが選択できます。サーバの再起動によりストリーミングが中断されます。

NIC 変更時の再起動

ログ記録中

非表示 ▲

ログ有効

サーバ管理

「セキュアサーバ設定」では、「Twonkymedia」サーバーへ接続するためのユーザー名とパスワードを任意に設定し、接続するユーザーを制限することができます。

ユーザー名およびパスワードは、本製品のコントロールパネルで設定されているものと同じである必要はありません。

ユーザー名とパスワードを設定しない場合、同一ネットワーク上のすべてのユーザーが接続可能な状態となります。

「myTwonky.com」アカウントには、ライセンスキーと関連付けられたアカウントの情報が表示されます。「ステータス」画面でライセンスキーを入力済みであれば、特に変更の必要はありません。

「コンピレーションフォルダ」欄には、複数の音楽アルバムを一つにまとめるためのフォルダ名を指定します。コンピレーションフォルダ内に保存された音楽ファイルに含まれるタグ情報のうち、アーティスト名が「various(様々なアーティスト)」に統一されます。

「再スキャンの間隔」では、メディアファイルが保存されたフォルダ(コンテンツディレクトリ)の情報を更新するための、スキャン(検査)間隔を、分単位で指定することができます。

数値として「0(ゼロ)」を指定した場合は、再スキャンが無効となります。0

また「-1」を指定した場合、サーバーは自動的にメディアファイルを監視し、変更があった場合に再スキャンを行います。

「NIC 変更時の再起動」は、チェックボックスがチェックされた状態で有効となります。

チェックボックスをクリックすることで、チェック状態が変更できます。

この設定が有効の場合、本製品のネットワーク設定が変更されると「Twonkymedia」サーバーが自動的に再起動します。

「ログ記録中」では、「Twonkymedia」サーバーのログファイルに関する設定を行います。

「ログ有効」左のチェックボックスをクリックしてチェックすることで、「Twonkymedia」サーバーのイベントログが保存されます。

「ログファイルの表示」をクリックすると、イベントログが表示されます。

「ログファイルのクリア」をクリックすると、すべてのイベントログを消去します。

「サーバ管理」で、「Twonkymedia」サーバーの各操作を実行します。

「サーバを再起動」をクリックすると、「Twonkymedia」サーバーを再起動します。

「コンテンツフォルダの再スキャン」をクリックすると、メディアファイルが保存されたフォルダへの再スキャンを実行し、情報が更新されます。「再スキャンの間隔」の設定で自動再スキャンが無効となっている場合、メディアファイルの変更をサーバーへ反映するために再スキャンを行う必要があります。

「デフォルトへリセット」をクリックすると、「Twonkymedia」の設定をすべて初期値に戻します。

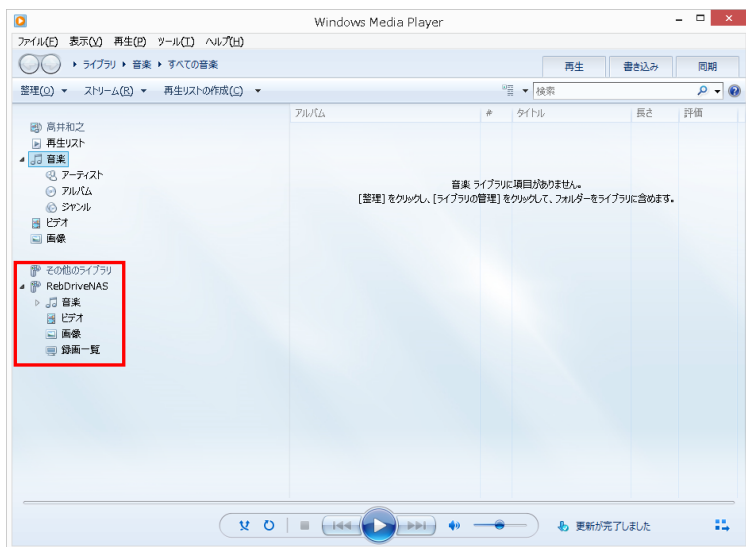
「キャッシュのクリア」をクリックすると、「Twonkymedia」のキャッシュファイルをすべて消去します。

すべての項目を選択してから、「変更を保存」をクリックして設定します。

DLNA 対応アプリケーションから Twonkymedia の共有ファイルを利用する

「Twonkymedia」の設定が完了した状態で、本製品と同一ネットワーク上で動作しているパソコンやスマートフォン、タブレット上で動作する DLNA 対応アプリケーションでネットワーク上のファイルを開くと、本書 81 ページでサーバー名として指定した名前が表示されます。

以降は各アプリケーションの操作方法に従って、「Twonkymedia」で共有されるメディアファイルを表示または再生することが可能です。



アプリケーション画面の例(Windows Media Player)

★DLNA サーバー上のファイルを表示・再生する具体的な手順については、各アプリケーションの説明書またはヘルプ等を参照してください。

6-3 Dropbox によるクラウドストレージとの連携利用

本製品では、クラウドストレージサービス「Dropbox」と連携し、クラウド上のファイルと本製品 RAID 内のファイルを同期することができます。

「Dropbox」はインターネットを介したストレージサービスのため、本機能を利用する場合は、本製品をインターネットへ接続する必要があります。

★Dropbox サービスの詳細については、公式 Web サイト(<https://www.dropbox.com/ja/>)を参照してください。

設定作業では、「Dropbox」との連携のために、本製品に登録された任意のユーザーと、ひとつの Dropbox アカウントとのリンク(紐付け)を行います。

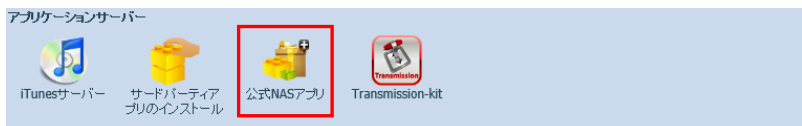
必要に応じて、「Dropbox」の設定を行う前に、ウェブ管理インターフェースのコントロールパネルから「Dropbox」用ユーザーの作成を行ってください。

★新規ユーザー作成の手順については、本書 42 ページを参照してください。

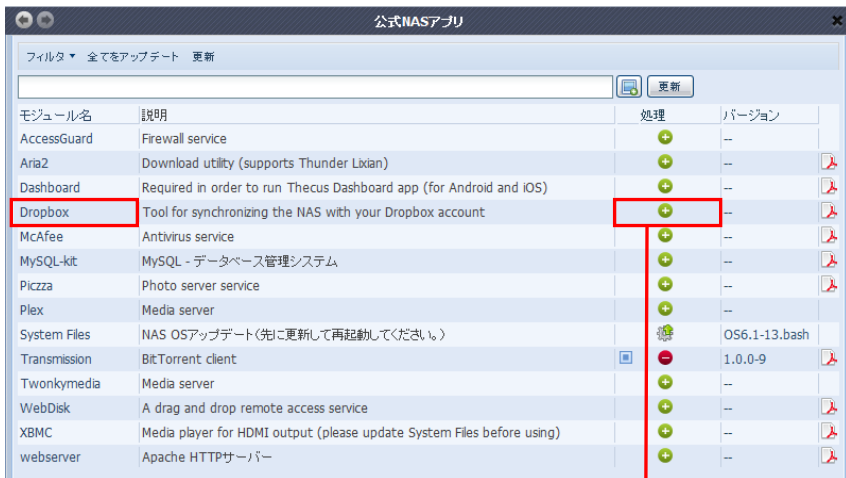
NAS アプリの導入

本製品がインターネットに接続されている状態で、「Dropbox」連携用 NAS アプリのインストール作業を行います。

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「アプリケーションサーバー」カテゴリから、「公式 NAS アプリ」をクリックして開きます。

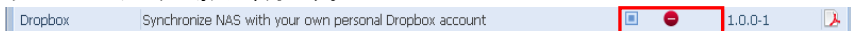


2. 「公式 NAS アプリ」ウインドウ内、「Dropbox」右側の「処理」欄に表示されているアイコンをクリックしてインストールを開始します。



インストールアイコン

3. インストールが完了すると、「Action」欄のアイコンが下図のように変化します。「公式 NAS アプリ」ウインドウ右上の × マークをクリックして、ウインドウを閉じます。以上で NAS アプリの導入は終了です。



UI ログイン機能の設定

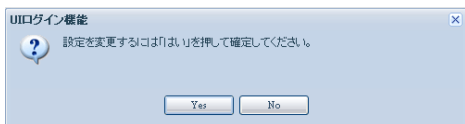
1. Web ブラウザから NAS アプリを利用するための、「UI ログイン機能」の設定を行います。ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「システム管理」カテゴリから、「UI ログイン機能」をクリックして開きます。



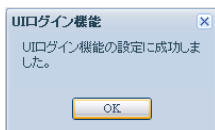
2. 「UI ログイン機能」ウィンドウ内の、「Module」表記左側に表示されている「有効」をクリックしてチェックした後、右下の「適用」をクリックします。



3. 確認のメッセージが表示されるので、「Yes」をクリックして続行します。

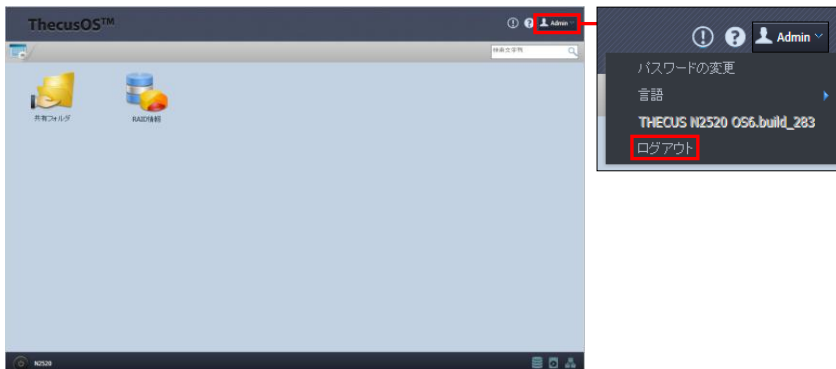


4. 「UI ログイン機能の設定に成功しました。」というメッセージが表示されるので、「OK」をクリックして作業を完了します。



NAS アプリの設定

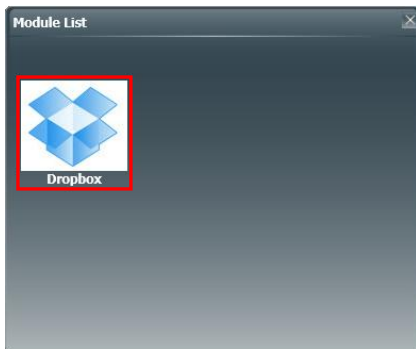
1. UI ログイン機能の設定が完了した後、ウェブ管理インターフェース画面右上のボタンをクリックしてメニューを開き、ログアウトを選択します。



2. ThecusOS の画面に「モジュール」アイコンが追加表示されます。
「モジュール」アイコンをクリックして開きます。



3. 「Module List(モジュール リスト)」内に表示される、「Dropbox」アイコンをクリックします。

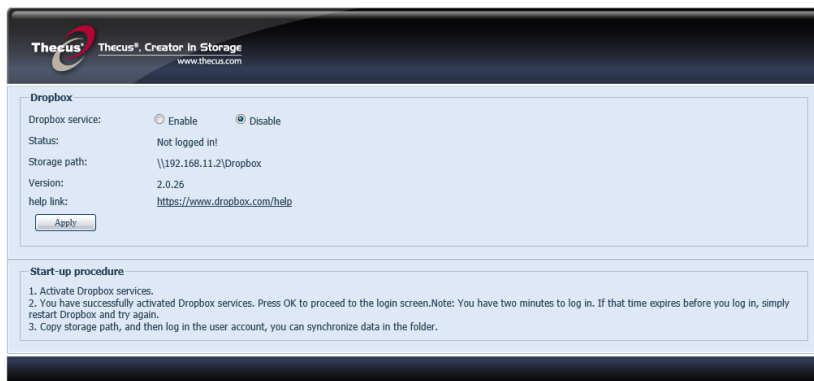


4. ユーザー名およびパスワードの入力画面が表示されます。
本製品に登録された任意のユーザー名およびパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。
ここでログインに使用する本製品のユーザーと、後ほど入力する Dropbox アカウントがリンクされ
ます。

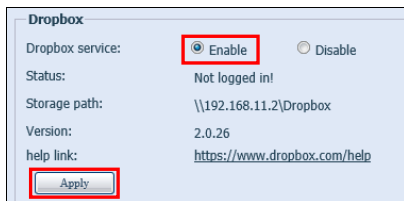


★Web ブラウザの設定でポップアップ ブロックが有効となっていると、ログイン後の画面が表示され
ない場合があります。
ポップアップ ブロックの警告が表示された場合は、この画面のポップアップを許可するように
Web ブラウザの設定を変更してください。

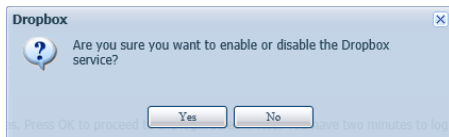
5. ログインすると、Web ブラウザの新しいタブまたはウィンドウに「Dropbox」サービスの設定画面が
表示されます。



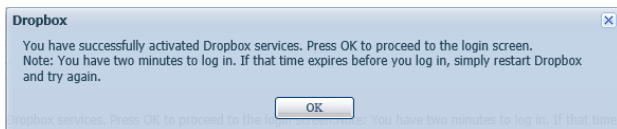
6. 「Dropbox service (Dropbox サービス)」欄から「Enable(有効)」をクリックして選択し、「Apply」をクリックします。



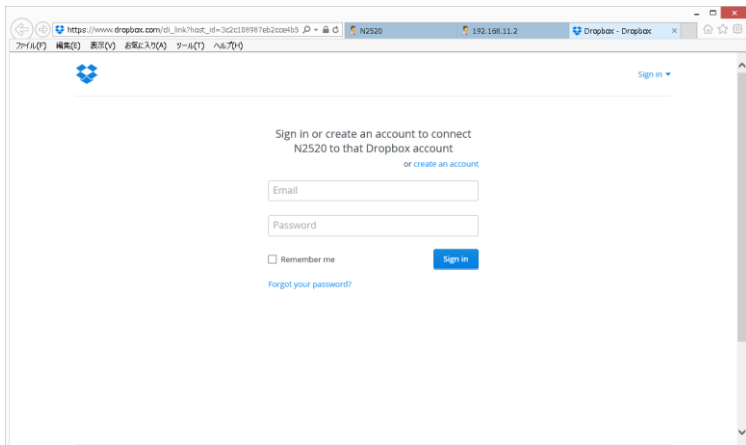
7. Dropbox サービスの設定変更を確認するメッセージが表示されます。「Yes」をクリックして続行します。



8. Dropbox サービスが有効となったことを伝えるメッセージが表示されます。「OK」をクリックして続行します。



9. 設定画面を開いている Web ブラウザのタブまたはウィンドウから、Dropbox 公式 Web サイト (<https://www.dropbox.com>) へ移動して、Dropbox のログイン画面が表示されます。

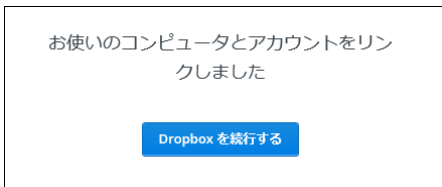


10. 本製品に登録されたユーザーとリンクする Dropbox アカウントでログインします。また、この画面から新規アカウントを作成してリンクすることも可能です。



★Dropbox アカウントの詳細については、公式 Web サイト(<https://www.dropbox.com/ja/>)を参照してください。

11. 本製品と Dropbox アカウントのリンクが完了したことを伝えるメッセージが表示されます。「Dropbox を続行する」をクリックします。



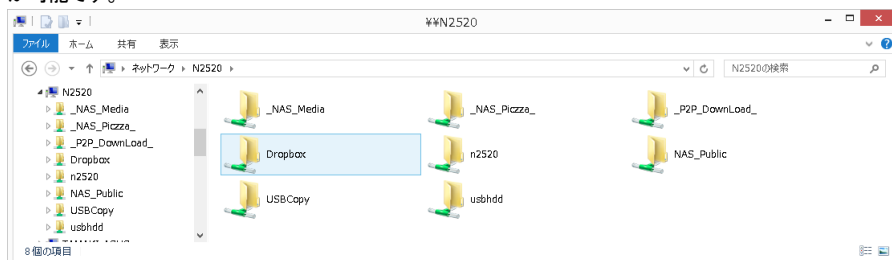
12. ログインしたアカウントの Dropbox ページが表示されます。



Dropbox のファイル操作

Dropbox のデータは、本製品内の RAID 直下に「Dropbox」という名のフォルダが作成され、その中にユーザー毎のフォルダが作成されて保存されます。

このデータは、他の NAS 内のファイルと同様に本製品と同一のネットワークにあるパソコンから読み書きが可能です。



以降、Dropbox のクラウド側でファイルやフォルダーの追加または削除が実施されると、本製品内 Dropbox フォルダ以下のファイルやフォルダーも追加あるいは削除されます。

また同様に、本製品内 Dropbox フォルダ以下のファイルやフォルダーに対する変更も、Dropbox のクラウド側に反映されます。

7 特徴的な機能

7-1 HDMI 出力によるメディアファイルの表示・再生

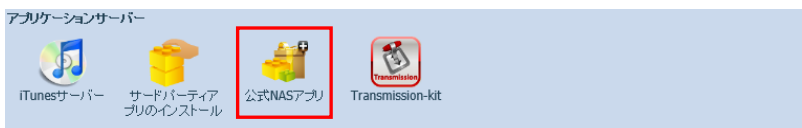
本項目では、メディア再生用 NAS アプリ「XMBC」の簡易設定、簡易操作について説明します。XMBC の詳しい設定及び操作につきましては、XMBC のマニュアル等をご覧ください。

XMBC の導入

初期設定では、「XMBC」はインストールされていないので、導入作業が必要となります。

★導入時に「XMBC」のダウンロードを行うため、本製品をインターネットへ接続する必要があります。

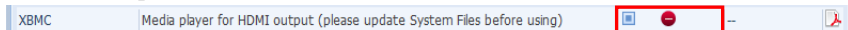
1. ウェブ管理インタフェースのコントロールパネル「アプリケーションサーバー」カテゴリから、「公式 NAS アプリ」をクリックして開きます。



2. 「公式 NAS アプリ」ウィンドウが開きます。「XMBC」右側の「処理」欄にに表示されているアイコンをクリックしてインストールを開始します。

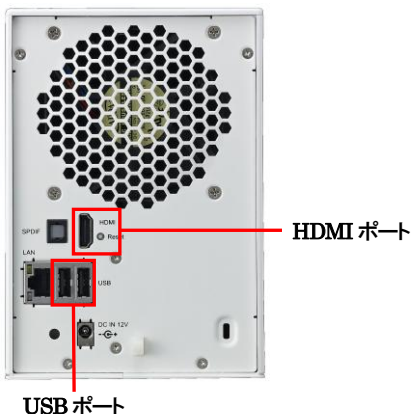


3. インストールが完了すると、「Action」欄のアイコンが下図のように変化します。
「公式 NAS アプリ」ウィンドウ右上の×マークをクリックして、ウィンドウを閉じます。
以上で「XBMC」の導入は終了です。

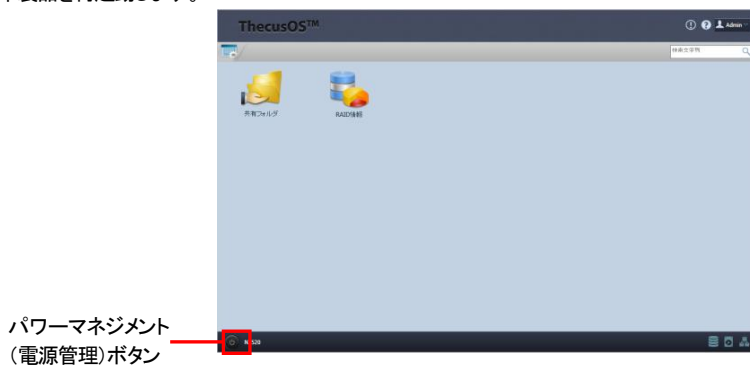


★インターネットの接続状況によっては、数十分程度の時間がかかる場合があります。

3. HDMI ポートへ HDMI ケーブル(別売り)を接続し、HDMI ケーブルのもう一方の端子をモニターまたはテレビへ接続します。
USB キーボードと USB マウスを、本製品背面の USB ポートに接続します。



4. ウェブ管理インターフェイス画面のパワーマネジメント(電源管理)ボタンをクリックして「再起動」を選択し本製品を再起動します。



XBMC 画面の操作

再起動が完了すると、本製品の HDMI に接続されたモニターまたはテレビの画面に、XBMC の画面が表示されます。

ここからは、本製品に USB 接続されたキーボードとマウスを使って、XBMC の操作を行います。

メディアファイルの準備

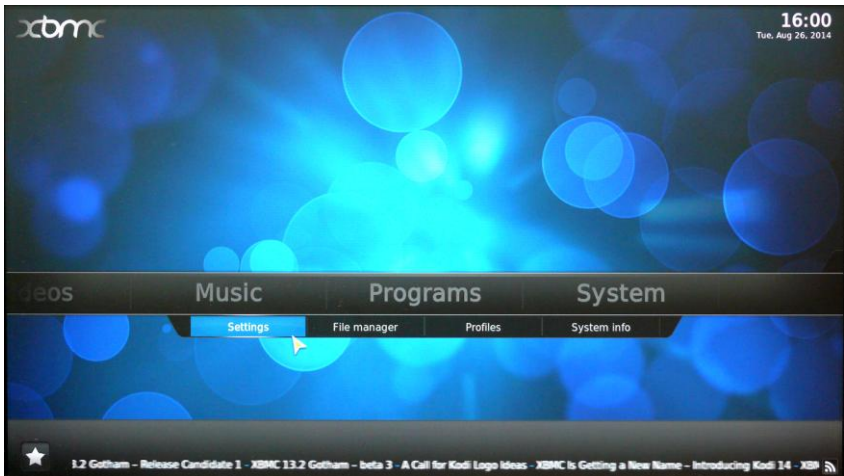
本書では、XBMC で利用する各種ファイルを、RebDrive NAS の「/_NAS_Media」フォルダに保存します。

別のフォルダを指定する場合は、XBMC の設定にて変更してください。

XBMC の初期設定

ここからの設定手順は、ウェブ管理インターフェースではなく、本製品に接続した HDMI モニターに表示される画面を見ながら、USB キーボードと USB マウスで設定します。

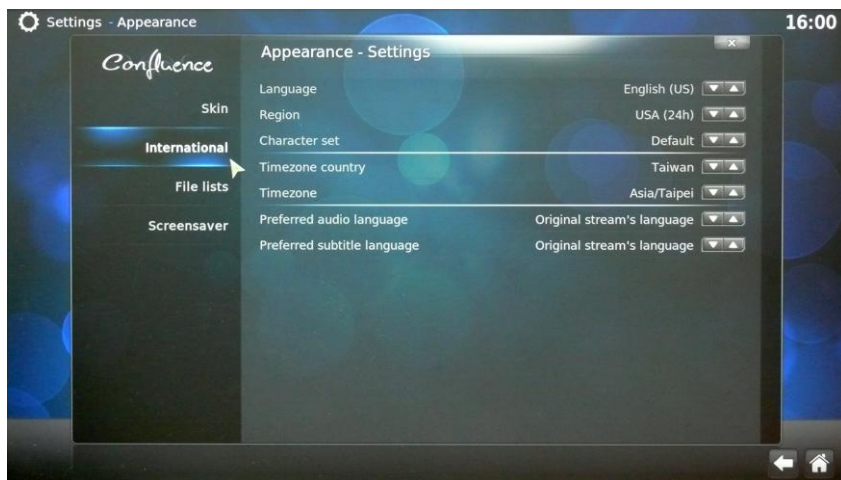
1. 「XBMC」画面にて、メニュー System ⇒ Settings を選択してクリックします。



2. 画面左側に表示されるリストから、「Appearance」を選択してクリックします。



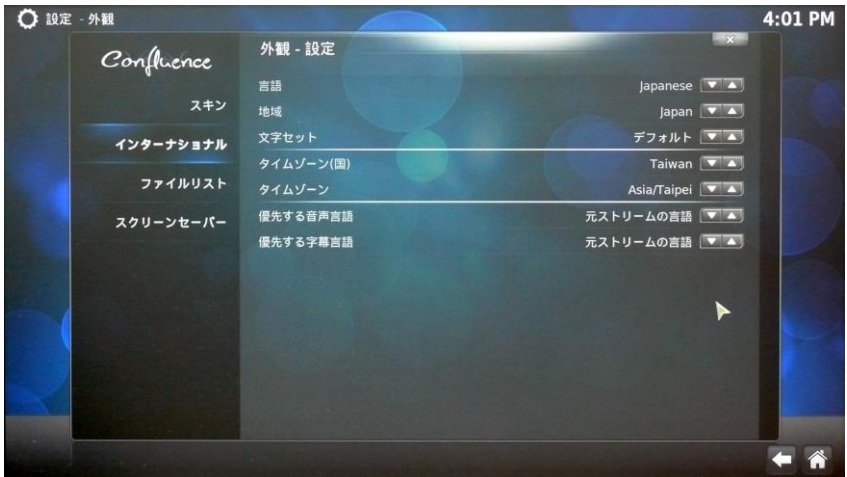
3. 画面左側に表示されるリストから、「International」を選択してクリックします。



4. 「Language English」と表示されている横の上下の矢印アイコンをクリックして、Japanese を選択します。



選択してしばらく待つと、画面の言語が日本語表示となります。



その他のオプションは以下のように設定してください。

言語 : Japanese

地域 : Japan

文字セット : デフォルト

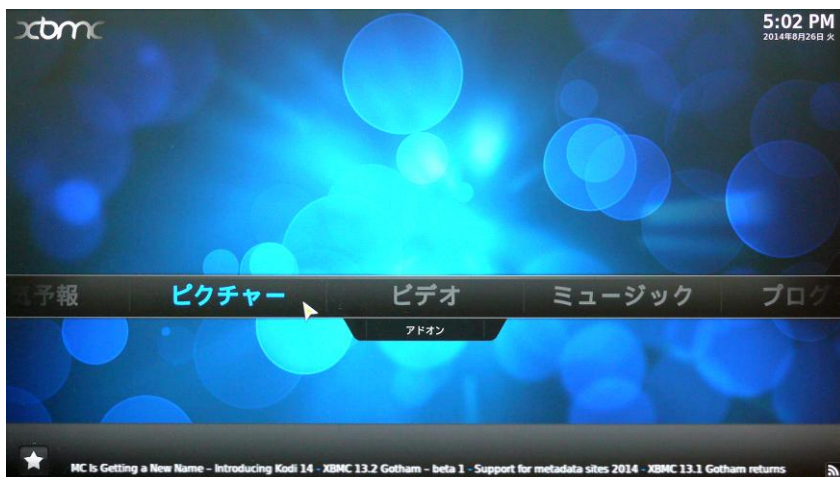
タイムゾーン(国): Japan

タイムゾーン : Asia/Tokyo

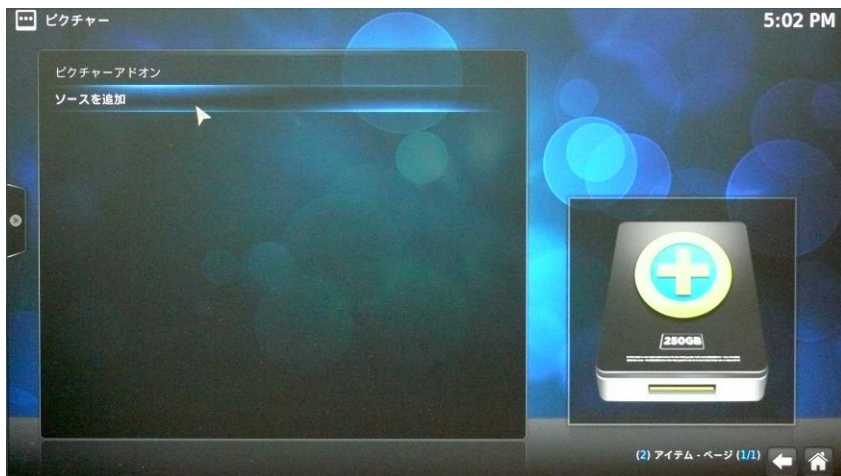
画面表示が日本語になったことと、画面右上に現在の時刻が表示されていることを確認します。
画面右下にある「左矢印アイコン」をクリックして、設定画面に戻ります。

ピクチャー設定

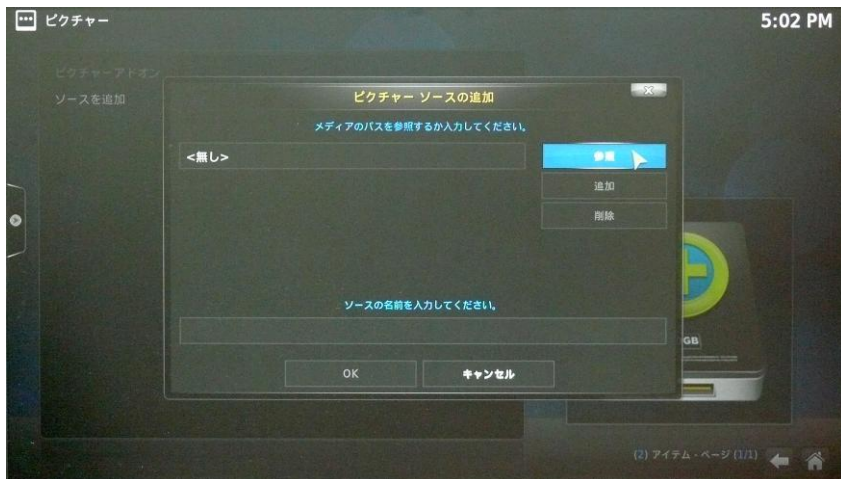
1. トップメニューから「ピクチャー」を選択してクリックします。



2. 「ソースを追加」を選択してクリックします。



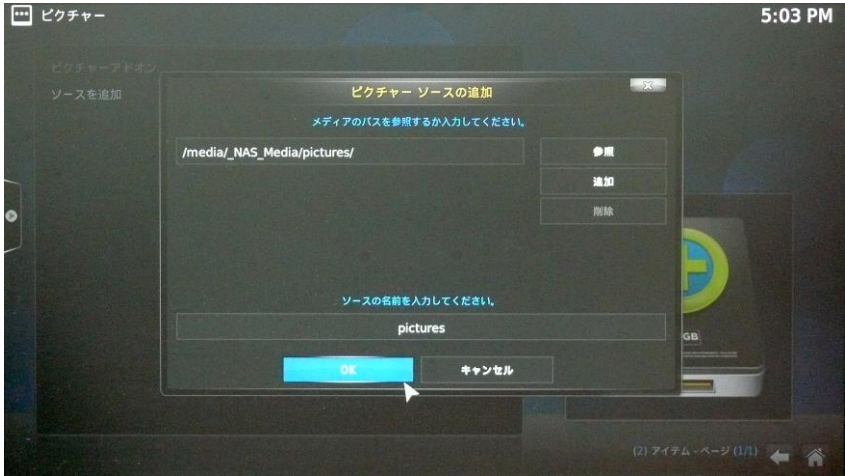
3. 「ピクチャー ソースの追加」設定を行います。
ここで、画像データが保存されている場所を指定します。
今回は、本製品 RAID 内の「_NAS_Media/pictures」フォルダを指定します。
「ピクチャー ソースの追加」画面右側の「参照」を選択してクリックします。



ルートファイルシステム ⇒ _NAS_Media ⇒ pictures まで移動したら、「OK」をクリックします。



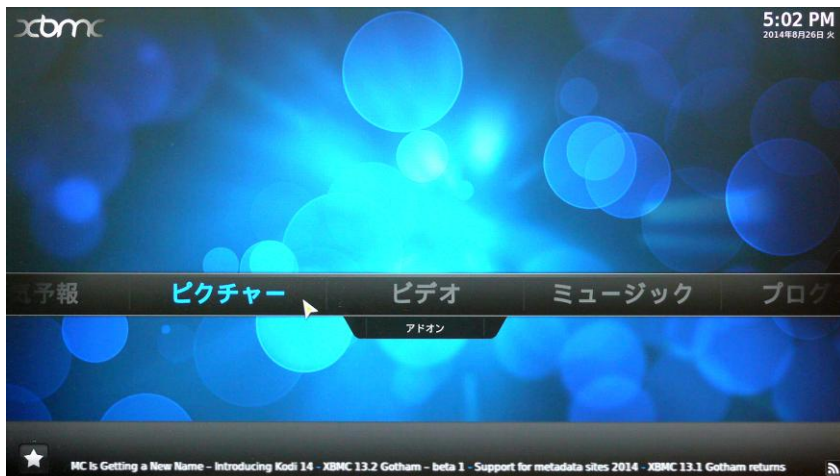
4. 「ピクチャー ソースの追加」画面で、枠内に設定した画像保存先のパスが表示されていることを確認します。
今回は、「/media/_NAS_Media/pictures/」となります。
あわせて、「ソースの名前を入力してください。」という表記の下枠に表示されている内容が「pictures」となっていることを確認してください。



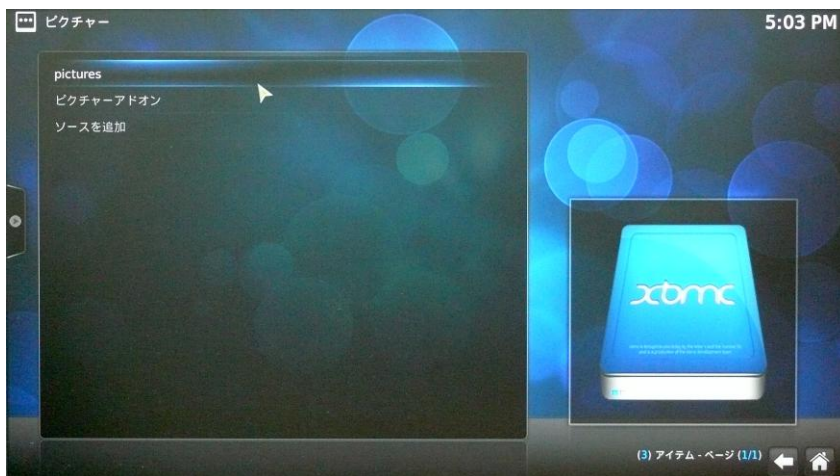
5. 「ピクチャー ソースの追加」画面下部の「OK」をクリックして設定終了です。

ピクチャーの使い方

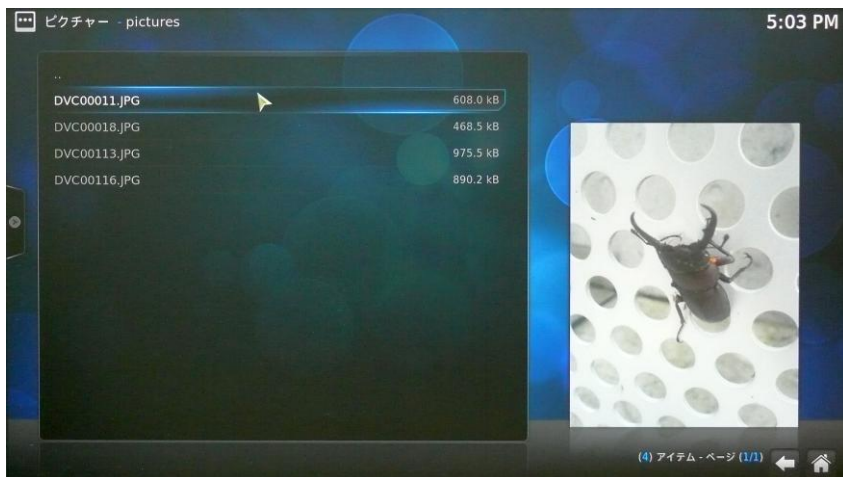
1. トップメニューから「ピクチャー」を選択してクリックします。



2. 設定した保存先フォルダの名前「ソースの名前」を、選択してクリックします。「pictures」を指定します。



3. 画像ファイル名が一覧で表示されます。
表示したいファイル名をクリックすると、右側に画像が表示されます。

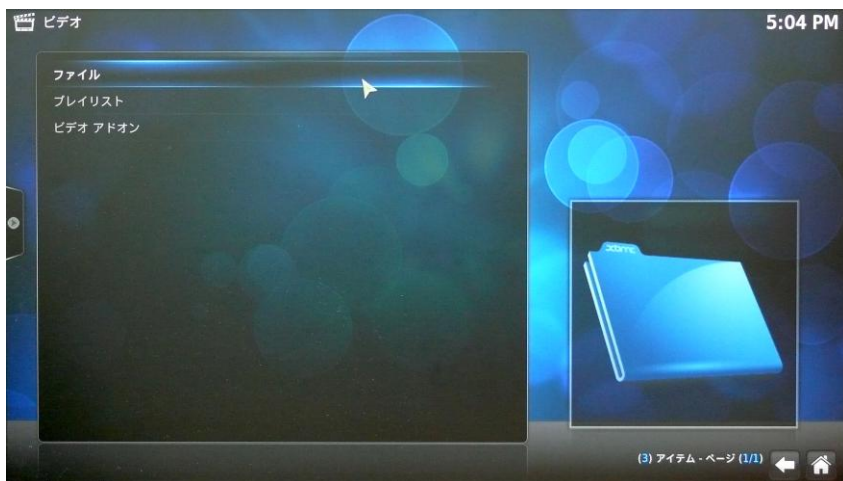


ビデオ設定

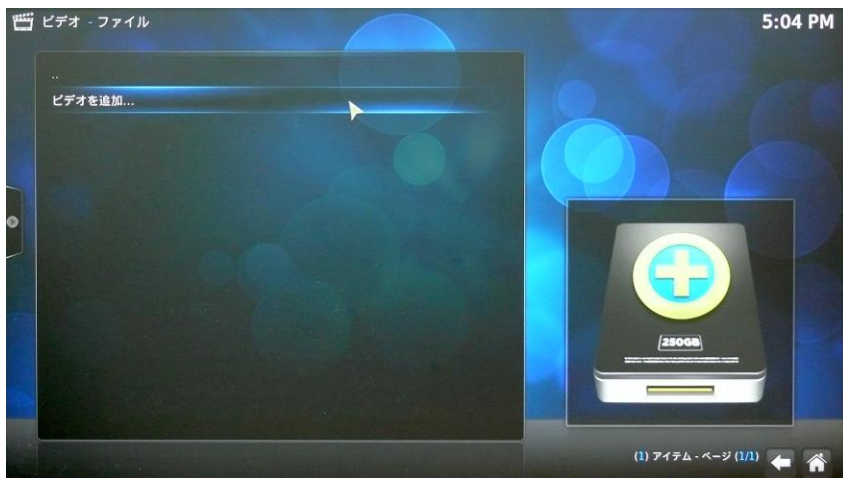
1. トップメニューから「ビデオ」を選択してクリックします。



2. 「ファイル」を選択してクリックします。



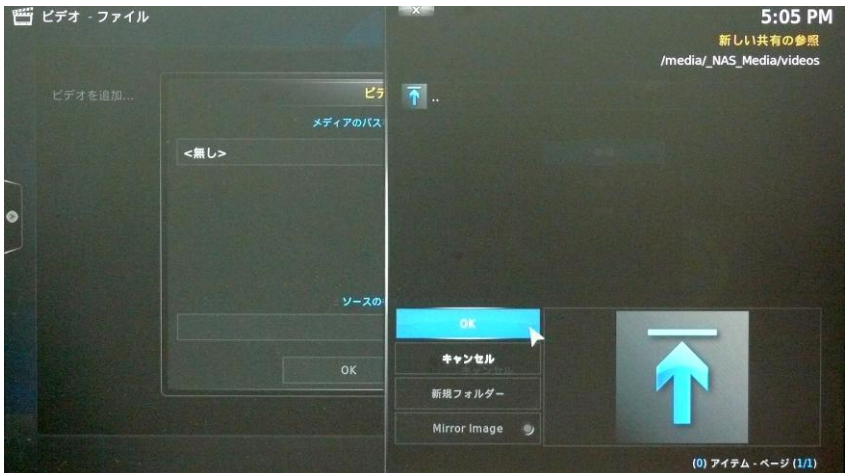
3. 「ビデオを追加...」を選択してクリックします。



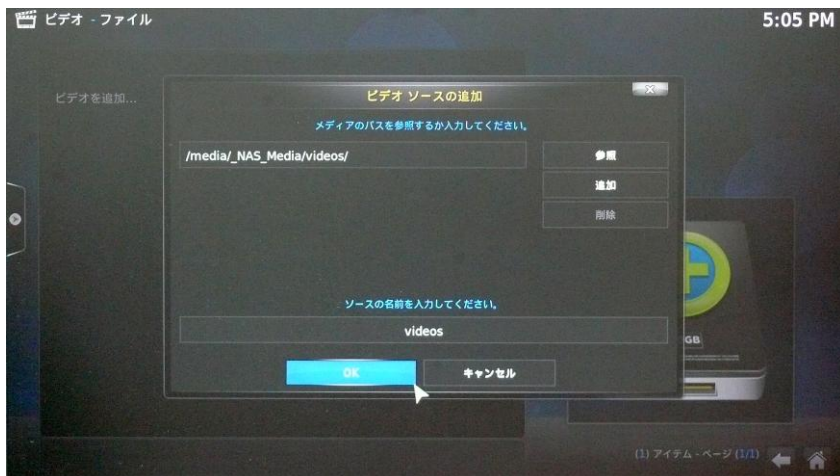
4. 「ビデオ ソースの追加」設定を行います。
ここで、映像データが保存されている場所を指定します。
今回は、本製品 RAID 内の「_NAS_Media/videos」フォルダを指定します。
「ビデオ ソースの追加」画面右側の「参照」を選択してクリックします。



ルートファイルシステム ⇒ _NAS_Media ⇒ videos まで移動したら、「OK」をクリックします。

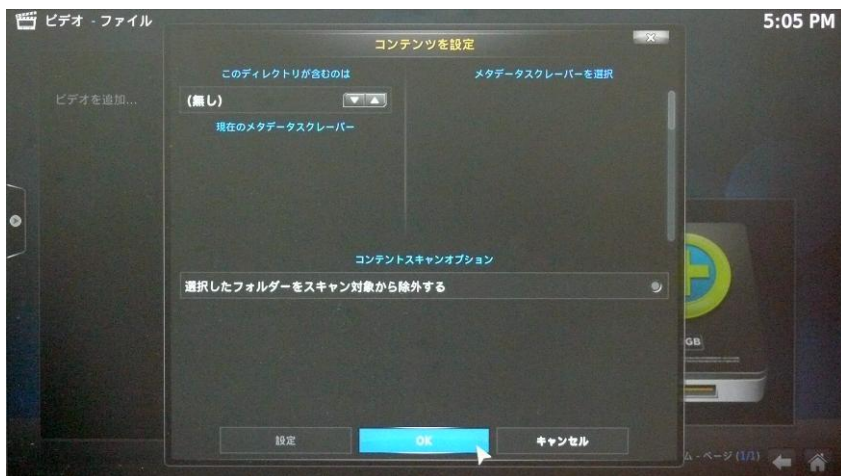


5. 「ビデオ ソースの追加」画面で枠内に設定した画像保存先のパスが表示されていることを確認します。
今回は、「/media/_NAS_Media/videos/」となります。
あわせて、「ソースの名前を入力してください。」という表記の下枠に表示されている内容が「videos」となっていることを確認してください。



7. 「ビデオ ソースの追加」画面下部の「OK」をクリックします。

8. 「コンテンツを設定」画面が表示されます。
そのまま画面下部の「OK」をクリックして設定終了です。

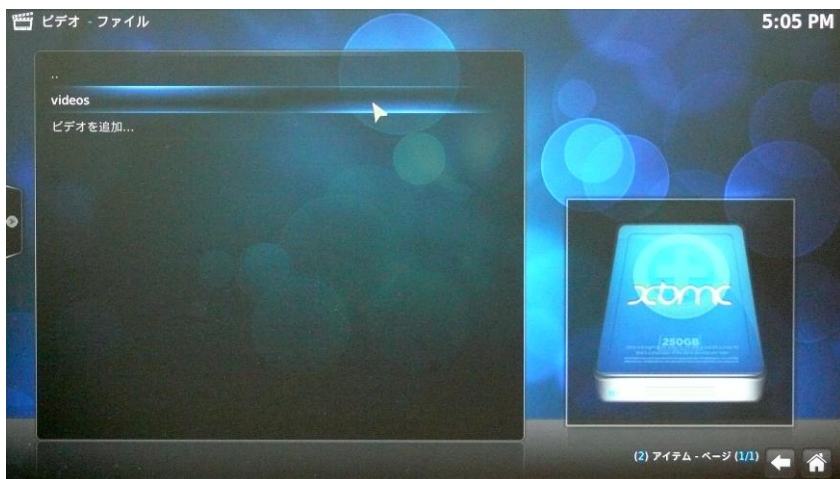


ビデオの使い方

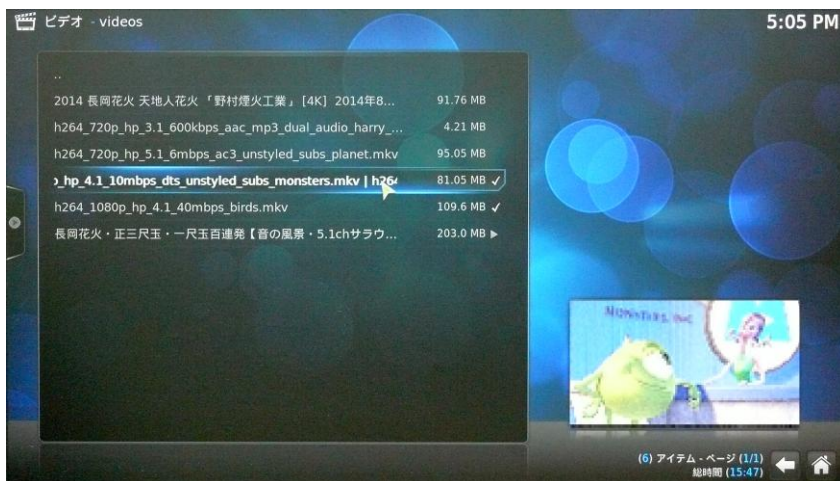
1. トップメニューから「ビデオ」を選択してクリックします。



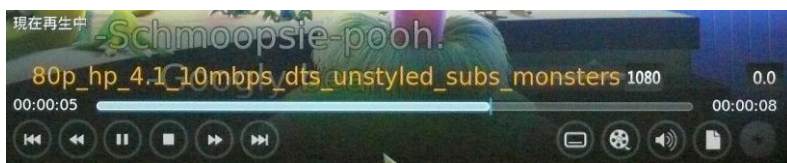
- 設定した保存先フォルダの名前「ソースの名前」を、選択してクリックします。
「videos」を指定します。



- 映像ファイル名が一覧で表示されます。
表示したいファイル名をクリックすると、映像が表示されます。



- 画面下部に、映像の操作パネルが表示されます。
ここで、映像の早送り、巻き戻し、停止、一時停止、音声設定、字幕設定などが可能です。



ミュージック設定

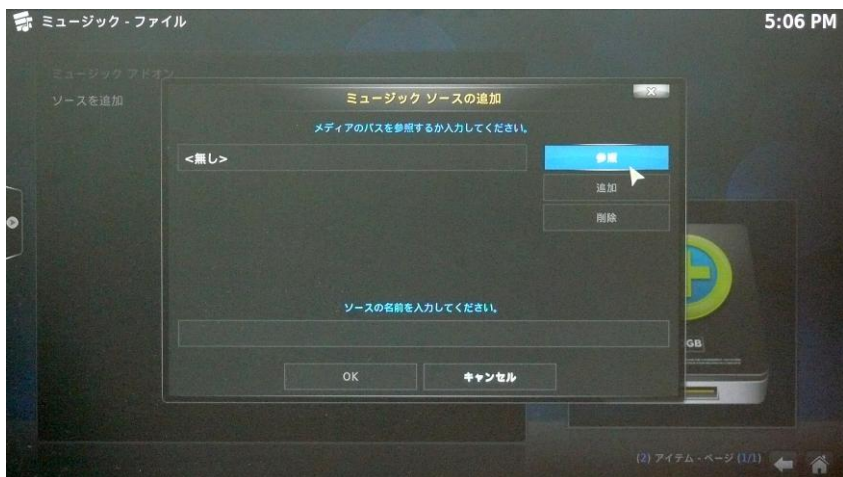
- トップメニューから「ミュージック」を選択してクリックします。



2. 「ソースを追加」を選択してクリックします。



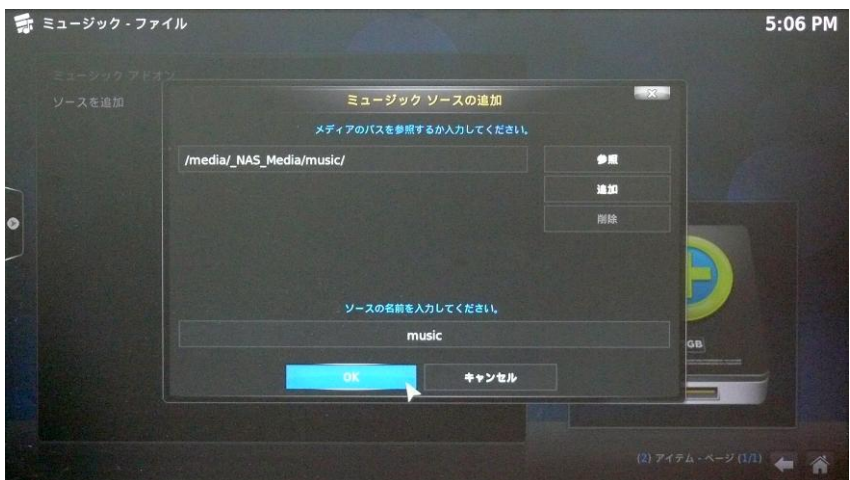
3. 「ミュージック ソースの追加」設定を行います。
ここで、音楽データが保存されている場所を指定します。
今回は、本製品 RAID 内の 「_NAS_Media/music」フォルダを指定します。
「ミュージック ソースの追加」画面右側の「参照」を選択してクリックします。



ルートファイルシステム ⇒ _NAS_Media ⇒ music まで移動したら、「OK」をクリックします。



4. 「ピクチャー ソースの追加」画面で枠内に設定した画像保存先のパスが表示されていることを確認します。
 今回は、「/media/_NAS_Media/music/」となります。
 あわせて、「ソースの名前を入力してください。」下枠に表示されている内容が「music」となっていることを確認してください。



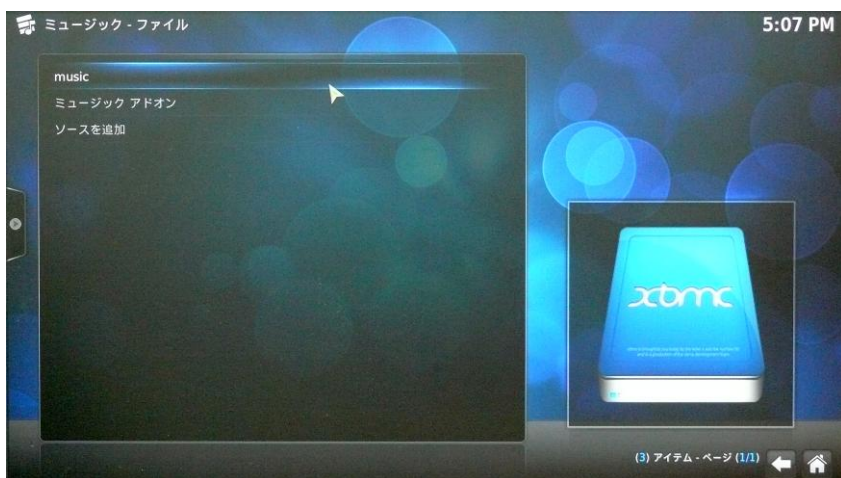
5. 画面下部の「OK」をクリックして設定終了です。

ミュージックの使い方

1. トップメニューから「ミュージック」を選択してクリックします。



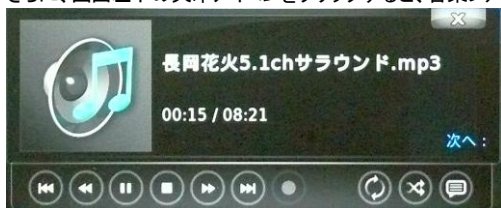
2. 設定した保存先フォルダの名前「ソースの名前」を、選択してクリックします。
「music」を指定します。



3. 音楽ファイル名が一覧で表示されます。



4. 表示したいファイル名をクリックすると、音楽が再生されます。
さらに、画面左下の矢印アイコンをクリックすると、音楽ファイルの操作ウィンドウが開きます。



7-2 Data Guard を使ったバックアップ

本製品では、コントロールパネルの「Data Guard」を使って、様々な方法でデータのバックアップを行うことができます。

バックアップの種類には大きく分けて、本製品単体で RAID 内の別のフォルダや USB 外付けストレージなどの外部デバイスへバックアップを行う「ローカルバックアップ」と、本製品を複数台接続しネットワーク経由でバックアップを行う「リモートバックアップ」の2つがあります。

さらに、「ローカルバックアップ」と「リモートバックアップ」の双方で、接続する外部機器やバックアップのスケジュールなど、複数の手段を選択できます。

★「リモートバックアップ」の実行には、2 台以上の本製品が必要となります。

ローカルバックアップ

ローカルバックアップには、バックアップのタイミングに応じて、1 回みのバックアップ（「コピー」および「インポート」）と常時バックアップの「リアルタイムバックアップ」、定期バックアップの「スケジュールバックアップ」があります。

1 回みのバックアップでは、「コピー」で一般的なデータのコピーが、「インポート」では外部デバイスから RAID フォルダへ共有ファイルの取り込みがそれぞれ可能です。

それぞれの方法の特徴については、以下を参照してください。

コピー

概要： フォルダまたはデバイスに含まれるファイルのシンプルなコピーを作成します。

主な用途： 一般的なデータのコピー

データ転送の方向：



RAID フォルダ→RAID フォルダ



RAID フォルダ→外部デバイス



外部デバイス→RAID フォルダ

コピーの際には、コピー先フォルダまたはデバイスのアクセス権に基づいて、コピーされるデータのアクセス権を定義することができます。

コピー先に同じ名前のファイルやフォルダが存在する場合は、確認メッセージを表示して上書きされます。

コピーは設定直後に1回だけ実行されます。

インポート

概要: 外部デバイス内のデータを、RAID フォルダへ共有ファイルとして取り込みます。

主な用途: 外部デバイスからのデータ取り込み

データ転送の方向:



外部デバイス→RAID フォルダ

インポートの際には、コピー先フォルダまたはデバイスのアクセス権に基づいて、コピーされるデータのアクセス権を定義することができます。またコピーしたファイルを共有ファイルとして使用するかどうかを指定することができます。

コピー先に同じ名前のファイルやフォルダが存在する場合は、コピーするフォルダ名を変更できます。

インポートは設定直後に1回だけ実行されます。

リアルタイムバックアップ

概要: 指定した RAID フォルダのコピーを、他の RAID フォルダまたは外部デバイスに常時作成します。

主な用途: 常時バックアップ

データ転送の方向:



RAID フォルダ→RAID フォルダ



RAID フォルダ→外部デバイス

リアルタイムバックアップで作成されたファイルのアクセス権は、コピー先フォルダまたはデバイスのアクセス権と同様になります。

コピー先に同じ名前のファイルやフォルダが存在する場合は上書きされます。

リアルタイムバックアップは設定後常時有効となり、コピー元ファイルに変更があれば、直ちにコピー先にも反映されます。

スケジュールバックアップ

概要: 指定された日時に、RAID フォルダのコピーを定期的作成します。

主な用途: 日々の定期的なバックアップ

データ転送の方向:



RAID フォルダ→RAID フォルダ



RAID フォルダ→外部デバイス

スケジュールバックアップでコピーされるデータのアクセス権は、コピー先フォルダまたはデバイスのアクセス権に基づいて、設定時に定義することができます。

コピー先に同じ名前のファイルやフォルダが存在する場合は上書きされます。

スケジュールバックアップは設定後有効となり、指定の日時に定期的コピーが作成されます。

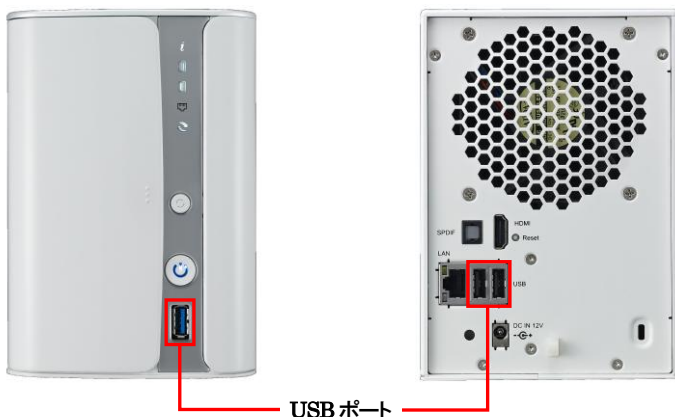
ローカルバックアップの作業手順

必要に応じて USB 外付けストレージなどの外部デバイスを接続した後、Data Guard を起動してローカルバックアップを設定します。

★内蔵 RAID フォルダにバックアップを行う場合には、外部デバイスの接続は必要ありません。

外部デバイスの接続

1. 本製品の前面または背面にある USB ポートに、利用する USB 機器を接続します。



2. ウェブ管理インタフェースのコントロールパネル「ストレージ」カテゴリから、「ディスク情報」をクリックして開きます。




3. 「ディスク情報」ウィンドウが開きます。
「USB ディスク」カテゴリに、接続した USB 機器が表示されることを確認します。



★接続された USB 機器は、RAID 内の共有フォルダ「usbhdd」以下に共有フォルダとしてそのまま公開されます。

4. 接続された USB 機器を取り外す際は、対象の USB 機器名の右側に表示されている「取り外し」アイコンをクリックします。
 「正常に取り出すことができました。」というメッセージが表示された後に、USB 機器を本製品から取り外してください。

USBディスク

ディスク...	容量	モデル	ファームウェア	取り外し
23	37 GB	MK4004GAH	2.00	


ディスク情報

ディスク情報

S.M.A.R.T. 不良ブロックを検出 不良ブロック検出停止

ディスク...	モデル	容量	ファームウェア	不良ブロック
N2520 (2Disks)				
1	ST2000DM001-9YN1	1,863 GB	CC47	
2	ST2000DM001-9YN1	1,863 GB	CC47	

ディスク情報

 正常に取り出すことができました。USB デバイスから取り外すことができます。

OK

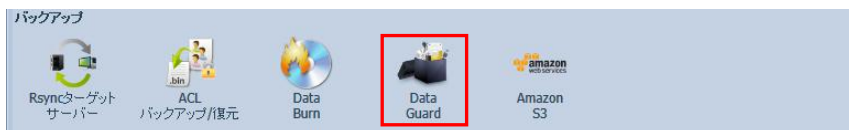
合計容量: 3726 (GB)

ディスクスタンバイ設定

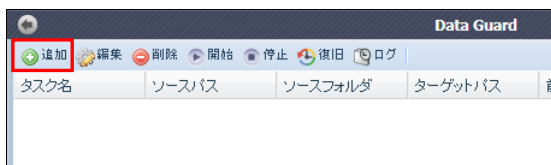
ディスクスタンバイ設定: 30 分 通用

コピーの手順

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Guard」をクリックして開きます。



2. 「Data Guard」では、バックアップの作業を定義ごとに「タスク」として設定し管理します。
新しい作業を開始する場合は、「Data Guard」ウィンドウ左上の「追加」をクリックして新規のタスクを作成します。



3. 「データバックアップウィザード」ウィンドウから、「ローカルバックアップ」をクリックして開きます。



4. 「ローカルアップ」ウィンドウ内の「コピー」をクリックします。



5. データ転送を行う方向に応じて、「RAID フォルダ → RAID フォルダ」、「RAID フォルダ → 外部デバイス」、「外部デバイス → RAID フォルダ」のいずれかをクリックします。

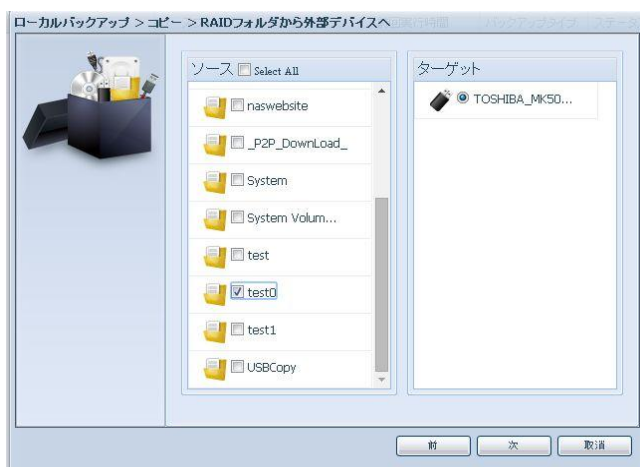


6. 「ソース」欄からコピー元となるフォルダを、「ターゲット」欄からコピー先となるフォルダまたはデバイスをそれぞれ、該当するフォルダ名またはデバイス名横のチェックボックスをチェック(クリック)して選択します。

サブフォルダを選択する場合は、表示されているデバイス名またはフォルダ名をクリックして、サブフォルダを表示させてからチェックしてください。

また、「ソース」欄上部の「Select All」横にあるボックスをチェックすることで、「ソース」欄に表示されているフォルダをすべて選択することができます。

「ソース」と「ターゲット」双方を選択してから「次」をクリックします。



7. コピー作業の各オプションを選択します。



「同期タイプ」は、「増分」または「同期」のいずれかを選択します。

増分モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させ、コピー先に古いファイルがある場合にはすべて維持します。コピー元でファイルが削除されても、コピー先ではそのファイルは削除されません。

同期モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させます。

コピー元でファイルが追加または削除されると、コピー先の該当ファイルも追加または削除されます。

「ACL 設定の維持」は、オフかオンのどちらかを選択します。

コピー元のアクセス権限 (ACL) をコピー先でも維持したい場合は、「オン」にします。

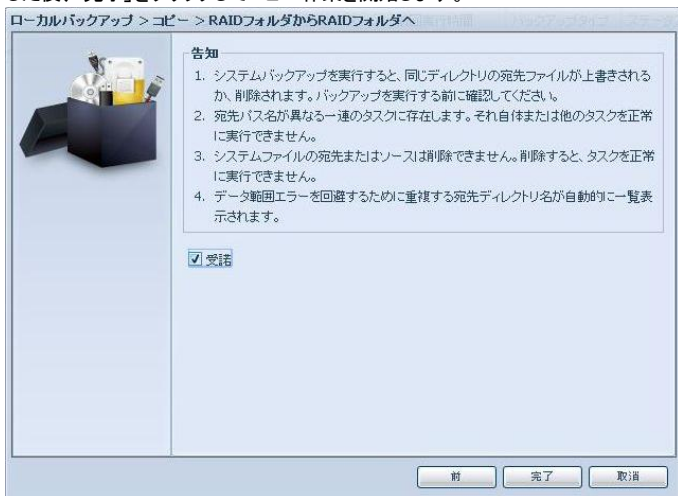
ただし、コピー先の上位フォルダが共有フォルダとして設定されている場合は、コピーされたフォルダは上位フォルダに属した共有フォルダとなるため、「ACL 設定の維持」はできません。

★「ACL 設定の維持」は、RAID フォルダ間のコピーを選択した場合のみ表示されます。

「ログ場所」では、コピー作業のログデータを保存するフォルダとして任意の場所を指定します。

すべての項目を選択してから、「次」をクリックします。

8. 最終確認として、コピー作業についての注意事項が告知されます。
告知内容を確認し、作業を開始する場合は、「受諾」左にあるチェックボックスをクリックしてチェックした後、「完了」をクリックしてコピー作業を開始します。



9. 「Data Guard」ウィンドウが開き、設定したタスクの状態が表示されます。
「タスク名」欄に「copy」、「バックアップタイプ」欄には「コピー」とそれぞれ表示されます。
コピーの進行中は「ステータス」欄に「処理」と表示されます。

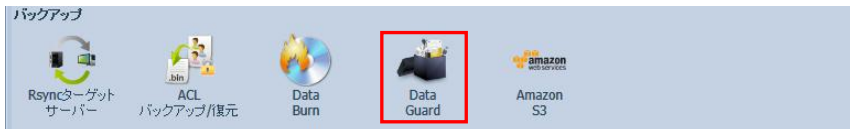


10. 「ステータス」欄の表示が「完了」となれば、作業完了です。



インポートの手順

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Guard」をクリックして開きます。



2. 「Data Guard」では、バックアップの作業を定義ごとに「タスク」として設定し管理します。新しい作業を開始する場合は、「Data Guard」ウインドウ左上の「追加」をクリックして新規のタスクを作成します。



3. 「データバックアップウィザード」ウインドウから、「ローカルバックアップ」をクリックして開きます。



4. 「ローカルアップ」ウィンドウ内の「インポート」をクリックします。



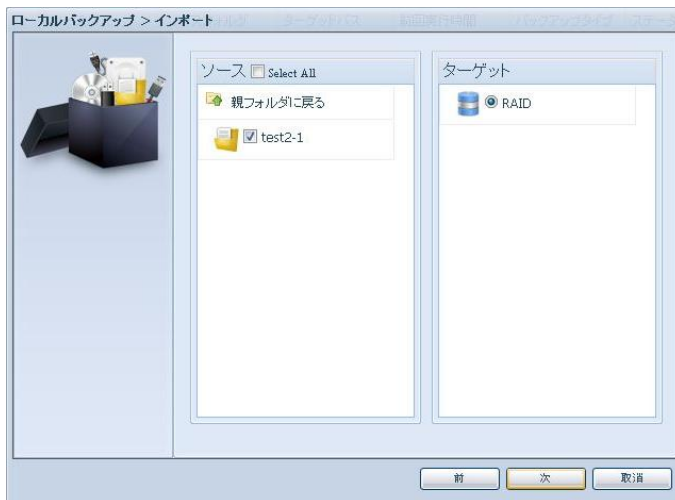
5. 「ソース」欄からコピー元となるフォルダを、「ターゲット」欄からコピー先となる RAID ボリュームをそれぞれ、該当するフォルダ名またはデバイス名、RAID ボリューム名横のチェックボックスをチェック(クリック)して選択します。

「ソース」欄のサブフォルダを選択する場合は、表示されているデバイス名またはフォルダ名をクリックして、サブフォルダを表示させてからチェックしてください。

また、「ソース」欄上部の「Select All」横にあるボックスをチェックすることで、「ソース」欄に表示されているフォルダをすべて選択することができます。

「ターゲット」欄のコピー先については、選択した RAID ボリューム直下に新規フォルダが作成されるかたちとなるため、サブフォルダを選択することはできません。

「ソース」と「ターゲット」双方を選択してから「次」をクリックします。



6. インポート作業の各オプションを選択します。



「一般に公開する」は、オンかオフのどちらかを選択します。

インポートするフォルダを共有フォルダとして利用する場合は「オン」を、利用しない場合は「オフ」をそれぞれ選択します。

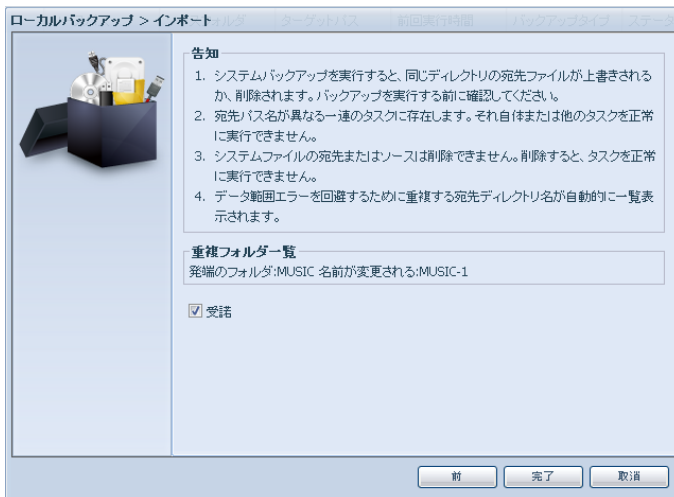
「ログ場所」では、コピー作業のログデータを保存するフォルダとして任意の場所を指定します。

すべての項目を選択してから、「次」をクリックします。

7. 最終確認として、インポート作業についての注意事項が告知されます。
コピー先にコピー元と同じ名前のフォルダが存在する場合は、「重複フォルダ一覧」欄にメッセージが表示されます。
このまま「完了」をクリックしてインポートを実行すると、コピーされるフォルダ名は元の名前の後に「-1」を付加した別名となります。

★元のフォルダ名の末尾が「-」(半角文字:ハイフン)の後に半角数字が続く文字列の場合、「-」と末尾の数字に1を足した数字が付加されます。

告知内容を確認し、作業を開始する場合は、「受諾」左にあるチェックボックスをクリックしてチェックした後、「完了」をクリックしてコピー作業を開始します。



8. 「Data Guard」ウィンドウが開き、設定したタスクの状態が表示されます。
 「タスク名」欄に「import」、「バックアップタイプ」欄には「インポート」とそれぞれ表示されます。
 コピーの進行中は「ステータス」欄に「処理」と表示されます。

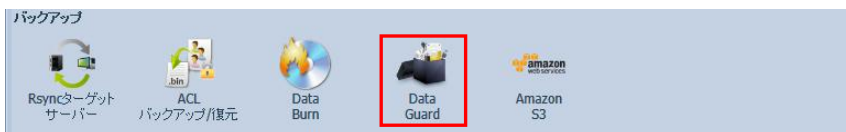


10. 「ステータス」欄の表示が「完了」となれば、作業完了です。



リアルタイムバックアップの手順

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Guard」をクリックして開きます。



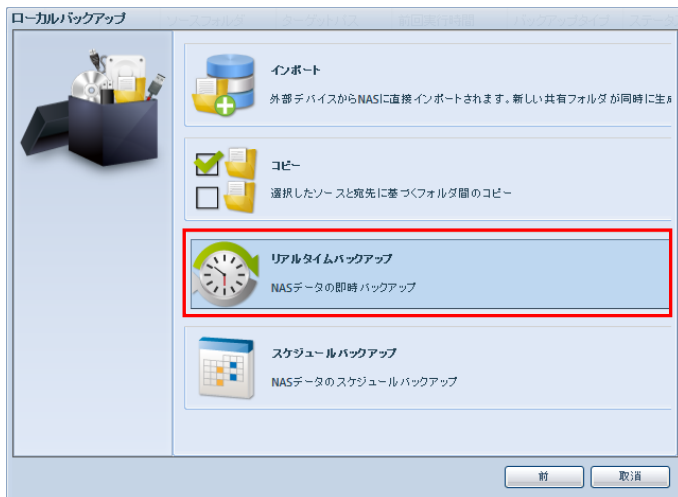
2. 「Data Guard」では、バックアップの作業を定義ごとに「タスク」として設定し管理します。
 新しい作業を開始する場合は、「Data Guard」ウィンドウ左上の「追加」をクリックして新規のタスクを作成します。



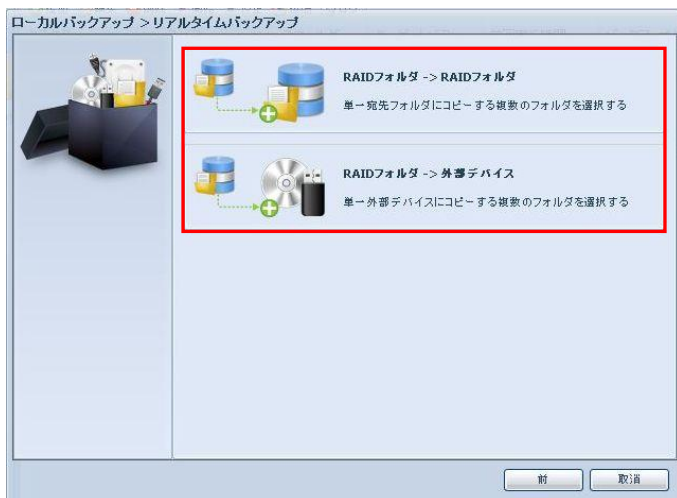
3. 「データバックアップウィザード」ウインドウから、「ローカルバックアップ」をクリックして開きます。



4. 「ローカルバックアップ」ウインドウ内の「リアルタイムバックアップ」をクリックします。



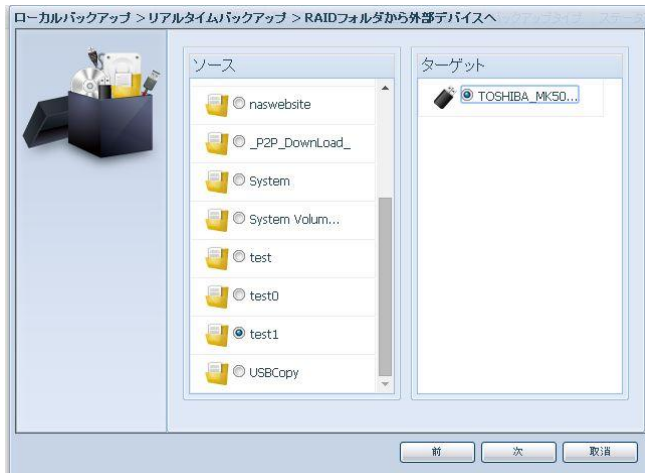
5. データ転送を行う方向に応じて、「RAID フォルダ → RAID フォルダ」、「RAID フォルダ → 外部デバイス」のいずれかをクリックします。



6. 「ソース」欄からコピー元となるフォルダを、「ターゲット」欄からコピー先となるフォルダまたはデバイスをそれぞれ、該当するフォルダ名またはデバイス名横のチェックボックスをチェック(クリック)して選択します。

サブフォルダを選択する場合は、表示されているデバイス名またはフォルダ名をクリックして、サブフォルダを表示させてからチェックしてください。

「ソース」と「ターゲット」双方を選択してから「次」をクリックします。



7. リアルタイムバックアップ作業の各オプションを選択します。



「タスク名」欄には、任意の名前を入力します。この欄は入力必須です。

「同期タイプ」は、「増分」または「同期」のいずれかを選択します。

増分モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させ、コピー先に古いファイルがある場合にはすべて維持します。コピー元でファイルが削除されても、コピー先ではそのファイルは削除されません。

同期モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させます。

コピー元でファイルが追加または削除されると、コピー先の該当ファイルも追加または削除されます。

「シンボリックリンクのバックアップ」は、オフかオンのどちらかを選択します。

コピー元に含まれる、シンボリックリンクのリンク先フォルダやファイルのバックアップを行う場合は「オン」に設定します。

「ログ場所」では、コピー作業のログデータを保存するフォルダとして任意の場所を指定します。

「フィルタ」欄では、バックアップするファイルについての各種条件を設定できます。

「ファイルサイズ」、「ファイルタイプ包含」、「ファイルタイプ」それぞれの条件を使用する場合は、条件名横のチェックボックスをクリックし有効にしてから、条件を設定します。

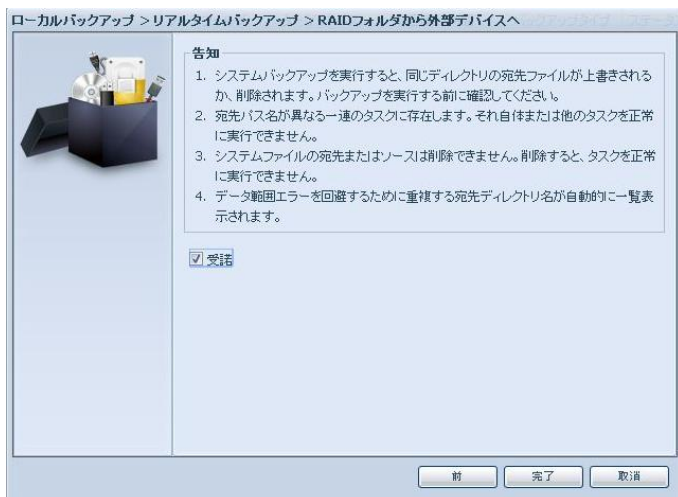
「ファイルサイズ」は、バックアップするファイルサイズの最大値と最小値を指定します。
この条件を有効にした場合、最小値と最大値の間に含まれるサイズのファイルのみがバックアップされます。
ただし、最小値または最大値のみを指定した場合、その最小値または最大値と同一のサイズのファイルのみがバックアップされます。

「ファイルタイプ包含」および「ファイルタイプ除外」では、ファイル形式を指定して、バックアップの対象とするファイル、またはバックアップから除外するファイルを選択します。

すべての項目を選択してから、「次」をクリックします。

8. 最終確認として、リアルタイムバックアップ作業についての注意事項が告知されます。
告知内容を確認し、作業を開始する場合は、「受諾」左にあるチェックボックスをクリックしてチェックした後、「完了」をクリックしてコピー作業を開始します。

★リアルタイムバックアップでは、コピー先にコピー元と同じ名前のフォルダが存在する場合、コピー先の内容がコピー元の内容で上書きされます。

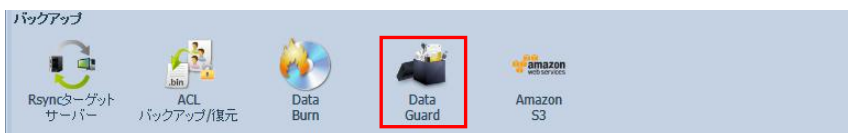


9. 「Data Guard」ウィンドウが開き、設定したタスクの状態が表示されます。
 「タスク名」欄にはオプションとして指定したタスク名が表示され、「バックアップタイプ」欄は「リアルタイム」の表示となります。
 リアルタイムバックアップでは、タスクが有効な限り「ステータス」欄には常に「処理」と表示されます。

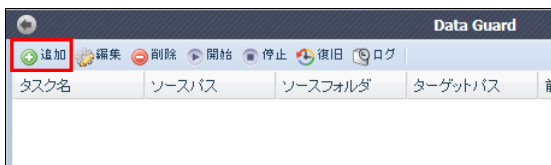


スケジュールバックアップの手順

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Guard」をクリックして開きます。



2. 「Data Guard」では、バックアップの作業を定義ごとに「タスク」として設定し管理します。
 新しい作業を開始する場合は、「Data Guard」ウィンドウ左上の「追加」をクリックして新規のタスクを作成します。



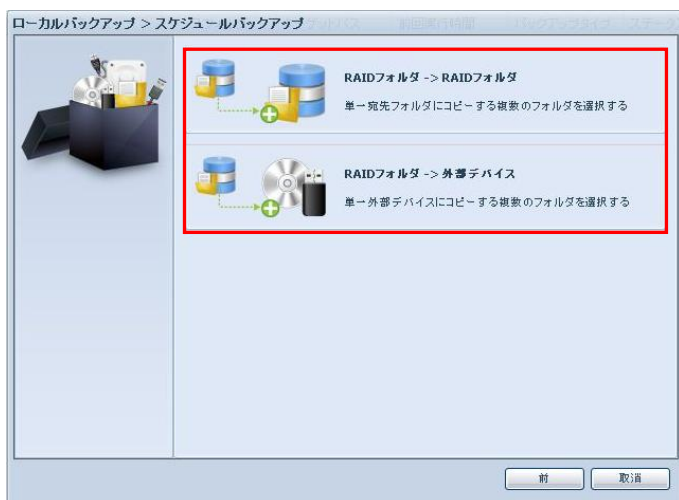
3. 「データバックアップウィザード」ウィンドウから、「ローカルバックアップ」をクリックして開きます。



4. 「ローカルバックアップ」ウィンドウ内の「スケジュールバックアップ」をクリックします。



5. データ転送を行う方向に応じて、「RAID フォルダ → RAID フォルダ」、「RAID フォルダ → 外部デバイス」のいずれかをクリックします。

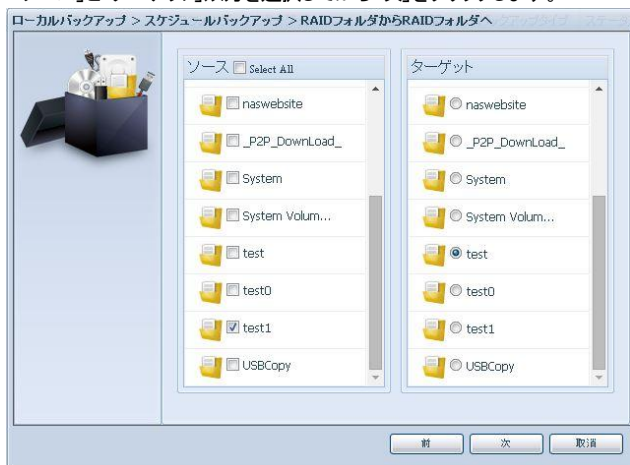


6. 「ソース」欄からコピー元となるフォルダを、「ターゲット」欄からコピー先となるフォルダまたはデバイスをそれぞれ、該当するフォルダ名またはデバイス名横のチェックボックスをチェック(クリック)して選択します。

サブフォルダを選択する場合は、表示されているデバイス名またはフォルダ名をクリックして、サブフォルダを表示させてからチェックしてください。

また、「ソース」欄上部の「Select All」横にあるボックスをチェックすることで、「ソース」欄に表示されているフォルダをすべて選択することができます。

「ソース」と「ターゲット」双方を選択してから「次」をクリックします。



7. スケジュールバックアップ作業の各オプションを選択します。

ローカルバックアップ > スケジュールバックアップ > RAIDフォルダからRAIDフォルダへ

タスク名:

サブフォルダ作成: 作成(タスク名として命名)
 作成しない(ターゲットに直接バックアップ)

同期タイプ: 増分 同期

ACL設定の維持: オフ オン

ログ場所:

スケジュール有効化

時間: :

スケジュール: 毎月 毎週 毎日

前 次 取消

「タスク名」欄には、任意の名前を入力します。この欄は入力必須です。

「サブフォルダ作成」では、コピー先フォルダへの保存方法を設定します。

「作成」を選択した場合は、コピー先として指定した場所へタスク名と同名のフォルダを新規に作成し、その配下にファイルをコピーします。

「作成しない」を選択した場合は、コピー先として指定した場所へ、コピー元のフォルダ名がそのままコピーされます。

「同期タイプ」は、「増分」または「同期」のいずれかを選択します。

増分モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させ、コピー先に古いファイルがある場合にはすべて維持します。コピー元でファイルが削除されても、コピー先ではそのファイルは削除されません。

同期モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させます。

コピー元でファイルが追加または削除されると、コピー先の該当ファイルも追加または削除されます。

「ACL 設定の維持」は、オフかオンのどちらかを選択します。

コピー元のアクセス権限(ACL)をコピー先でも維持したい場合は、「オン」にします。

ただし、コピー先の上位フォルダが共有フォルダとして設定されている場合は、コピーされたフォルダは上位フォルダに属した共有フォルダとなるため、「ACL 設定の維持」はできません。

★「ACL 設定の維持」は、RAID フォルダ間のコピーを選択した場合のみ表示されます。

「ログ場所」では、コピー作業のログデータを保存するフォルダとして任意の場所を指定します。

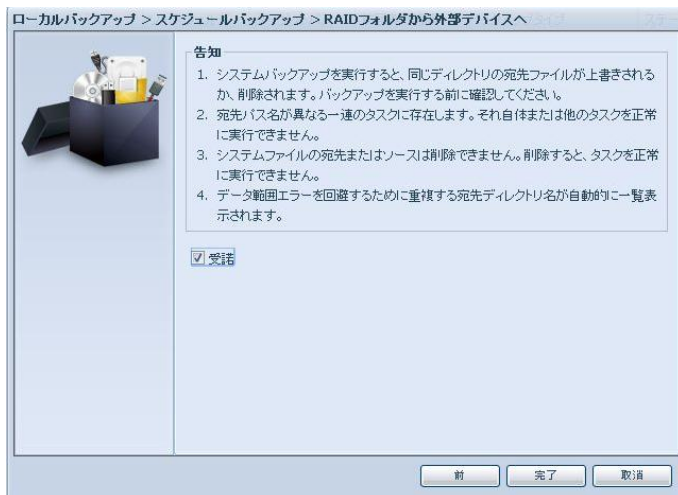
設定完了後、直ちにスケジュールバックアップを開始する場合は、「スケジュール有効化」左のチェックボックスをクリックしてから、コピーを開始する日時を指定します。

「時間」でコピーを開始する時刻を選択し、「スケジュール」から毎月、毎週、毎日のいずれかを選択します。更に「毎月」または「毎週」を選択した場合は、直下のメニューから日付または曜日も選択してください。

すべての項目を選択してから、「次」をクリックします。

8. 最終確認として、スケジュールバックアップ作業についての注意事項が告知されます。告知内容を確認し、作業を開始する場合は、「受諾」左にあるチェックボックスをクリックしてチェックした後、「完了」をクリックしてコピー作業を開始します。

★スケジュールバックアップでは、コピー先にコピー元と同じ名前のフォルダが存在する場合、コピー先の内容がコピー元の内容で上書きされます。



9. 「Data Guard」ウィンドウが開き、設定したタスクの状態が表示されます。
 「タスク名」欄にはオプションとして指定したタスク名が表示され、「バックアップタイプ」欄には「スケジュール」および直後の () 内に選択されたスケジュール条件が表示されます。
 「ステータス」欄はスケジュール設定した日時になるまで表示されません。
 設定された日時になるとコピーが開始され、コピーの進行中は「ステータス」欄に「処理」と表示されます。



10. 「ステータス」欄の表示が「完了」となれば、作業完了です。
 これ以降、スケジュール設定した日時ごとにコピーが開始されます。



リモートバックアップ

リモートバックアップには、バックアップするデータに応じて、コピー元のデータをすべてバックアップする「完全バックアップ」と、コピー元からバックアップするフォルダを選択して行う「カスタムバックアップ」の2通りの方法があります。

リモートバックアップの作業手順

リモートバックアップの作業順序として、先にコピー先の本製品側で、データをバックアップするための「Rsync ターゲットサーバー」を設定して起動します。

コピー先の「Rsync ターゲットサーバー」が起動した後、コピー元となる本製品でリモートバックアップの設定を行います。

★コピー先 RAID 内の既存データは上書きまたは消去される可能性がありますのでご注意ください。

コピー先「Rsync ターゲットサーバー」の設定と起動

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Rsync ターゲットサーバー」をクリックして開きます。



2. 「Rsync ターゲットサーバー」の各オプションを選択します。



「Rsync ターゲットサーバー」欄で「有効」をクリックし選択してから、それ以下のオプションを設定します。

「ユーザー名」欄および「パスワード」欄には、それぞれ任意のユーザー名とパスワードを入力します。ここで設定するユーザー名とパスワードは、コピー元の本製品でリモートバックアップを設定する際に必要となります。

コピー元およびコピー先の本製品で利用されているユーザー名やパスワードと同じである必要はありません。

「暗号化対応」欄は、必要に応じて「有効」または「無効」を選択します。

暗号化を有効とした場合には、いずれかの「許可 ID」の欄へ、コピー元となる本製品の IP アドレスを入力してください。

より堅牢な暗号化方式として、「公開鍵」と「秘密鍵」のペアを使った認証(公開鍵認証)を選択することができます。

公開鍵認証を使用する場合は、「キーのダウンロード」をクリックし、設定用の Web ブラウザを開いているパソコンへキーファイル(key.tar.gz)をダウンロードします。

キーファイルを解凍すると、「public_key」と「private_key」の二つのファイルが生成されます。このうち、「public_key」を「パブリックキー」として、「private_key」を「プライベートキー」としてそれぞれ、入力欄右端のボタンをクリックして指定します。

★Windows でキーファイルを解凍する場合は、「Lhaplus」、「Lhaca デラックス版」などの **tar.gz** 形式に対応したフリーソフトウェアが必要です。

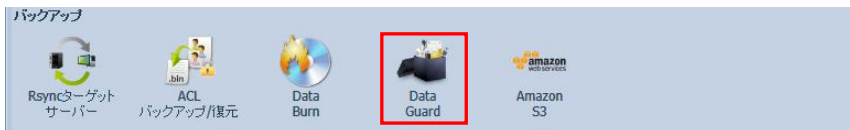
すべての項目を選択してから、「適用」をクリックして「Rsync ターゲットサーバー」を起動します。

3. 「Rsync ターゲットサーバー」を起動すると、その旨メッセージが表示されます。

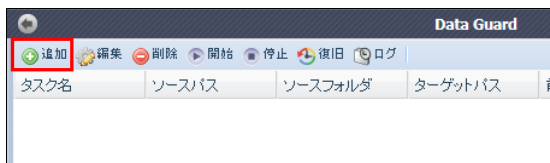


完全バックアップ

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Guard」をクリックして開きます。



2. 「Data Guard」では、バックアップの作業を定義ごとに「タスク」として設定し管理します。新しい作業を開始する場合は、「Data Guard」ウィンドウ左上の「追加」をクリックして新規のタスクを作成します。



3. 「データバックアップウィザード」ウィンドウから、「リモートバックアップ」をクリックして開きます。



4. 「リモートバックアップ」ウィンドウ内の「完全バックアップ」をクリックします。



5. リモートバックアップ作業の各オプションを選択します。



「リモートターゲット」欄に、コピー先「Rsync ターゲットサーバー」として設定した本製品の IP アドレスを入力します。

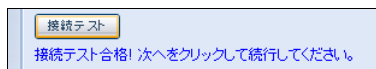
「ポート」欄(ポート番号)は、標準値をそのまま使用します。

「SSHによる暗号化」は、「Rsync ターゲットサーバー」側の設定で「暗号化対応」を「有効」に設定している場合、「オン」に設定します。

「アカウント」欄および「パスワード」欄には、「Rsync ターゲットサーバー」側で設定したユーザー名とパスワードを入力します。

設定内容をすべて入力してから、「接続テスト」をクリックして接続テストを実行します。

「接続テスト合格！次へをクリックして続行してください。」というメッセージが表示されれば、この画面での設定は完了です。



接続テストで問題がなければ、ウィンドウ右下に表示される「次」をクリックして作業を続行します。

接続テストに失敗した場合は、コピー先の IP アドレスやユーザー名/パスワードなど、各情報がコピー元とコピー先の双方で正しく入力されているか確認してください。

6. タスクについての詳細なオプションを選択します。

リモートバックアップ > 完全バックアップ

タスク名: test1

バックアップタイプ: リアルタイム スケジュール

同期タイプ: 同期 増分

圧縮: オフ オン

NAS設定のバックアップ: オフ オン

部分ファイルの再開: オフ オン

Update Data Directly: オフ オン

まぼらなファイルの処理: オフ オン

ACL設定の維持: オフ オン

ログ場所: _NAS_Media

速度制限: 0 KB/Sec(0から無制限までを設定する)

タイムアウト制限: 600 Sec

前 完了 取消

「タスク名」欄には、任意の名前を入力します。この欄は入力必須です。

「バックアップタイプ」は、「リアルタイム」または「スケジュール」を選択します。

「リアルタイム」を選択した場合、タスクは常時有効となり、コピー元ファイルに変更があれば直ちにコピー先にも反映されます。

「スケジュール」を選択した場合は、指定した日時ごとに定期的にコピーが作成されます。

「同期タイプ」は、「同期」または「増分」のいずれかを選択します。

同期モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させます。

コピー元でファイルが追加または削除されると、コピー先の該当ファイルも追加または削除されます。

増分モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させ、コピー先に古いファイルがある場合にはすべて維持します。コピー元でファイルが削除されても、コピー先ではそのファイルは削除されません。

「圧縮」を「オン」に設定すると、コピー先へ送信されるデータが圧縮されます。

転送するデータ量が少なくなるので、低速なネットワーク回線でバックアップを行う場合に有効です。

「NAS 設定のバックアップ」を「オン」に設定すると、RAID 内のファイルに含めて、本製品のシステム設定もバックアップされます。

「部分ファイルの再開」は、バックアップ途中でネットワーク接続が切れるなどの理由でコピーが中断し

たときに、途中まで送信されたファイルの取り扱いについて選択します。

「オフ」に設定した場合、送信途中のファイルは削除されます。「オン」に設定した場合は、送信途中のファイルを削除せずに継続してコピーを再開します。

「Update Data Directly」では、コピー先にコピー元と同名のファイルが存在する場合のコピー動作を選択します。

「オフ」に設定した場合、コピー元から送信されるファイルの送信中はコピー先に一時ファイルとして保存され、すべてのデータの送信が完了した後に、コピー先のファイルと置き換えられます。

「オン」に設定した場合は、データ送信の完了を待たずに、送信されたデータがコピー先のファイルに直接上書きされます。

「まばらなファイルの処理」を「オン」に設定すると、実際のデータ量より占有するディスク領域が大きい「まばらなファイル(Sparse File)」に対して、ディスク領域の消費を抑えるための処理を行います。

「ACL 設定の維持」は、コピー元のアクセス権限(ACL)をコピー先でも維持する場合、「オン」に設定します。

「ログ場所」では、コピー作業のログデータを保存するフォルダとして任意の場所を指定します。

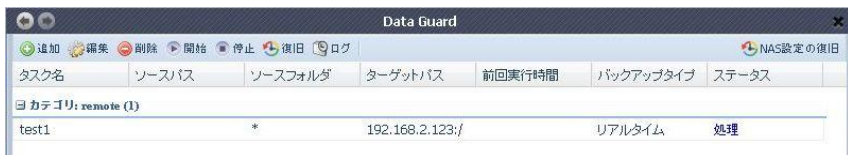
「速度制限」欄に任意の数値を入力することで、データ転送に使用するネットワーク帯域を制限することができます。

無制限にする場合は「0(ゼロ)」を指定します。

「タイムアウト制限」欄では、コピー元／コピー先間での通信が遮断された場合に、タイムアウト(時間切れ)となるまでの時間を指定します。

すべての項目を選択してから、「完了」をクリックして、タスクを実行します。

7. 「Data Guard」ウィンドウが開き、設定したタスクの状態が表示されます。
 「タスク名」欄にはオプションとして指定したタスク名が表示され、「バックアップタイプ」欄には「リアルタイム」または「スケジュール」と表示されます。「スケジュール」については直後の () 内にスケジュール条件が表示されます。

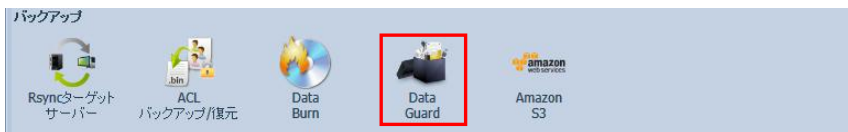


バックアップタイプが「リアルタイム」の場合、タスクが有効な限り「ステータス」欄には常に「処理」と表示されます。

バックアップタイプが「スケジュール」の場合、ステータスはそのスケジュール日時になるまで空白です。
 設定された日時になるとコピーが開始され、コピーの進行中は「ステータス」欄に「処理」と表示されます。
 スケジュールごとのバックアップ作業が完了すると「ステータス」欄の表示が「完了」となり、以降はスケジュール設定した日時ごとにコピーが開始されます。

カスタムバックアップ

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Guard」をクリックして開きます。



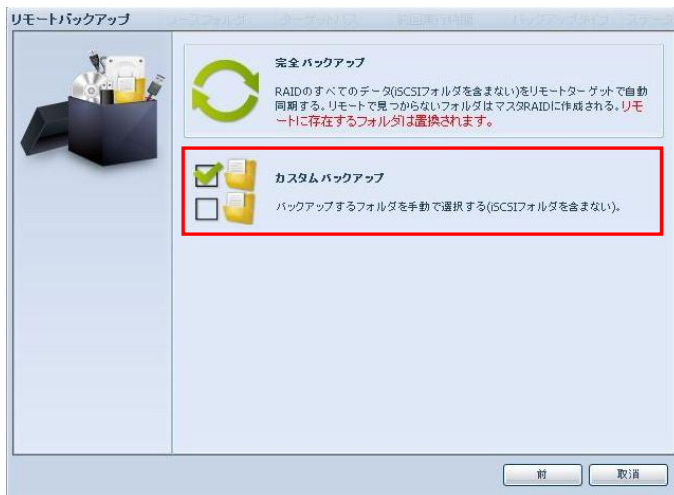
2. 「Data Guard」では、バックアップの作業を定義ごとに「タスク」として設定し管理します。
 新しい作業を開始する場合は、「Data Guard」ウィンドウ左上の「追加」をクリックして新規のタスクを作成します。



3. 「データバックアップウィザード」ウィンドウから、「リモートバックアップ」をクリックして開きます。



4. 「リモートバックアップ」ウィンドウ内の「カスタムバックアップ」をクリックします。



5. リモートバックアップ作業の各オプションを選択します。

リモートバックアップ > カスタムバックアップ

リモートターゲット: ポート: 873

SSHによる暗号化: オフ オン

アカウント:

パスワード:

ターゲットフォルダ: / ?

接続テスト

前 次

「リモートターゲット」欄に、コピー先「Rsync ターゲットサーバー」として設定した本製品の IP アドレスを入力します。

「ポート」欄(ポート番号)は、標準値をそのまま使用します。

「SSH による暗号化」は、「Rsync ターゲットサーバー」側の設定で「暗号化対応」を「有効」に設定している場合、「オン」に設定します。

「アカウント」欄および「パスワード」欄には、「Rsync ターゲットサーバー」側で設定したユーザー名とパスワードを入力します。

「ターゲットフォルダ」左欄にはコピー先 RAID 内トップに存在するフォルダ名を、右欄には左欄のフォルダに含まれるサブフォルダ名を、それぞれ必要に応じて入力します。

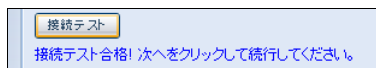
実際にコピーされるデータは、「ターゲットフォルダ」欄で指定したフォルダまたはサブフォルダの直下に、コピー元フォルダと同名のフォルダを作成して保存されます。

「ターゲットフォルダ」欄を空欄にした場合、コピー先 RAID の直下にコピー元フォルダと同名のフォルダが作成されます。

「ターゲットフォルダ」欄に記入されたフォルダまたはサブフォルダがコピー先 RAID に存在しない場合は、コピー先 RAID 内に「ターゲットフォルダ」欄と同名の新規フォルダが作成され、その直下にコピー元フォルダと同名のフォルダが作成されます。

設定内容をすべて入力してから、「接続テスト」をクリックして接続テストを実行します。

「接続テスト合格！次へをクリックして続行してください。」というメッセージが表示されれば、この画面での設定は完了です。



接続テストで問題がなければ、ウィンドウ右下に表示される「次」をクリックして作業を続行します。接続テストに失敗した場合は、コピー先の IP アドレスやユーザー名/パスワードなど、各情報がコピー元とコピー先の双方で正しく入力されているか確認してください。

6. バックアップ対象のフォルダを選択します。
リストから本製品に設定された RAID をクリックすると、内部フォルダが表示されます。

バックアップするフォルダ名横のチェックボックスをチェック(クリック)して選択します。サブフォルダを選択する場合は、表示されている各フォルダ名をクリックして、サブフォルダを表示させてからチェックしてください。

また、フォルダ表示欄上部の「Select All」横にあるボックスをチェックすることで、表示されているフォルダをすべて選択することができます。

バックアップするフォルダをすべて選択してから「次」をクリックします。



7. タスクについての詳細なオプションを選択します。



「タスク名」欄には、任意の名前を入力します。この欄は入力必須です。

「バックアップタイプ」は、「リアルタイム」または「スケジュール」を選択します。

「リアルタイム」を選択した場合、タスクは常時有効となり、コピー元ファイルに変更があれば直ちにコピー先にも反映されます。

「スケジュール」を選択した場合は、指定した日時ごとに定期的にコピーが作成されます。

「同期タイプ」は、「同期」または「増分」のいずれかを選択します。

同期モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させます。

コピー元でファイルが追加または削除されると、コピー先の該当ファイルも追加または削除されます。増分モードでは、コピー元とコピー先のファイルを一致させ、コピー先に古いファイルがある場合にはすべて維持します。コピー元でファイルが削除されても、コピー先ではそのファイルは削除されません。

「圧縮」を「オン」に設定すると、コピー先へ送信されるデータが圧縮されます。

転送するデータ量が少なくなるので、低速なネットワーク回線でバックアップを行う場合に有効です。

「NAS 設定のバックアップ」を「オン」に設定すると、RAID 内のファイルに含めて、本製品のシステム設定もバックアップされます。

「部分ファイルの再開」は、バックアップ途中にネットワーク接続が切れるなどの理由でコピーが中断したときに、途中まで送信されたファイルの取り扱いについて選択します。

「オフ」に設定した場合、送信途中のファイルは削除されます。「オン」に設定した場合は、送信途中のファイルを削除せずに継続してコピーを再開します。

「Update Data Directly」では、コピー先にコピー元と同名のファイルが存在する場合のコピー動作を選択します。

「オフ」に設定した場合、コピー元から送信されるファイルの送信中はコピー先に一時ファイルとして保存され、すべてのデータの送信が完了した後に、コピー先のファイルと置き換えられます。

「オン」に設定した場合は、データ送信の完了を待たずに、送信されたデータがコピー先のファイルに直接上書きされます。

「まばらなファイルの処理」を「オン」に設定すると、実際のデータ量より占有するディスク領域が大きい「まばらなファイル(Sparse File)」に対して、ディスク領域の消費を抑えるための処理を行います。

「ACL 設定の維持」は、コピー元のアクセス権限(ACL)をコピー先でも維持する場合、「オン」に設定します。

「ログ場所」では、コピー作業のログデータを保存するフォルダとして任意の場所を指定します。

「速度制限」欄に任意の数値を入力することで、データ転送に使用するネットワーク帯域を制限することができます。

無制限にする場合は「0(ゼロ)」を指定します。

「タイムアウト制限」欄では、コピー元／コピー先間での通信が遮断された場合に、タイムアウト(時間切れ)となるまでの時間を指定します。

すべての項目を選択してから、「完了」をクリックして、タスクを実行します。

8. 「Data Guard」ウィンドウが開き、設定したタスクの状態が表示されます。
「タスク名」欄にはオプションとして指定したタスク名が表示され、「バックアップタイプ」欄には「リアルタイム」または「スケジュール」と表示されます。「スケジュール」については直後の () 内にスケジュール条件が表示されます。



バックアップタイプが「リアルタイム」の場合、タスクが有効な限り「ステータス」欄には常に「処理」と表示されます。

バックアップタイプが「スケジュール」の場合、ステータスはそのスケジュール日時になるまで空白です。
設定された日時になるとコピーが開始され、コピーの進行中は「ステータス」欄に「処理」と表示されます。
スケジュールごとのバックアップ作業が完了すると「ステータス」欄の表示が「完了」となり、以降はスケジュール設定した日時ごとにコピーが開始されます。

7-3 CD/DVD メディアへのバックアップ

本製品では、コントロールパネルの「Data Burn」を使って、CD/DVD メディアへバックアップを行うことができます。

CD/DVD メディアに、本製品内のファイル/フォルダを書き込む「ディスクにファイル/フォルダを書き込む」のほかに、ファイル/フォルダから ISO イメージファイルを作成する「ファイル/フォルダからイメージファイルの作成」と、ISO イメージファイルを CD/DVD メディアに書き込む「ディスクにイメージファイルの書き込み」の 3 つを説明します。

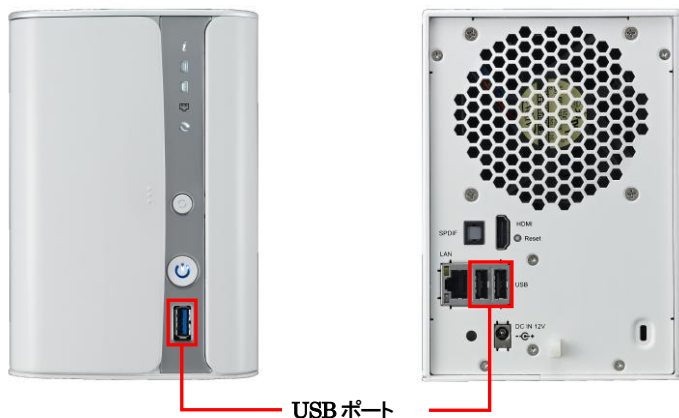
「ディスクにファイル/フォルダを書き込む」手順というのは、「ファイル/フォルダからイメージファイルの作成」と「ディスクにイメージファイルの書き込み」を合わせた機能となります。

1. ディスクにファイル/フォルダを書き込む
2. ディスクにイメージファイルの書き込み
3. ファイル/フォルダからイメージファイルの作成

★1 は、2 と 3 を合わせた機能となります。

光学ドライブの接続

1. 本製品の前面または背面にある USB ポートに、利用する光学ドライブを接続します。



2. 接続した光学ドライブに、書き込み可能な CD/DVD メディアを挿入します。
本項では、CD-R、DVD-R(片面 1 層)、DVD-RW(片面 1 層)で動作確認を行っております。
3. 光学ドライブの接続及び書き込み可能な CD/DVD メディアの挿入につきましては、書き込み手順の中で確認します。

★光学ドライブによっては、本製品で正しく認識できない場合があります。

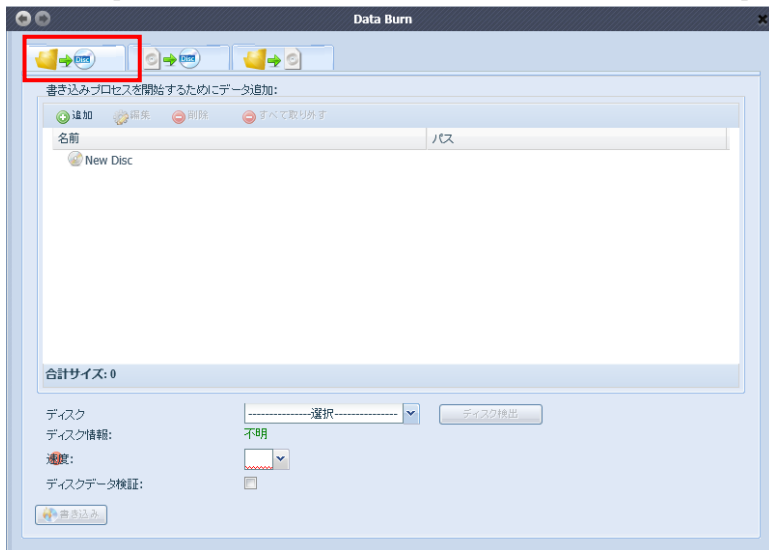
ディスクにファイル/フォルダを書き込む

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Burn」をクリックして開きます。



2. 「ディスクにファイル/フォルダを書き込む」に移動します。

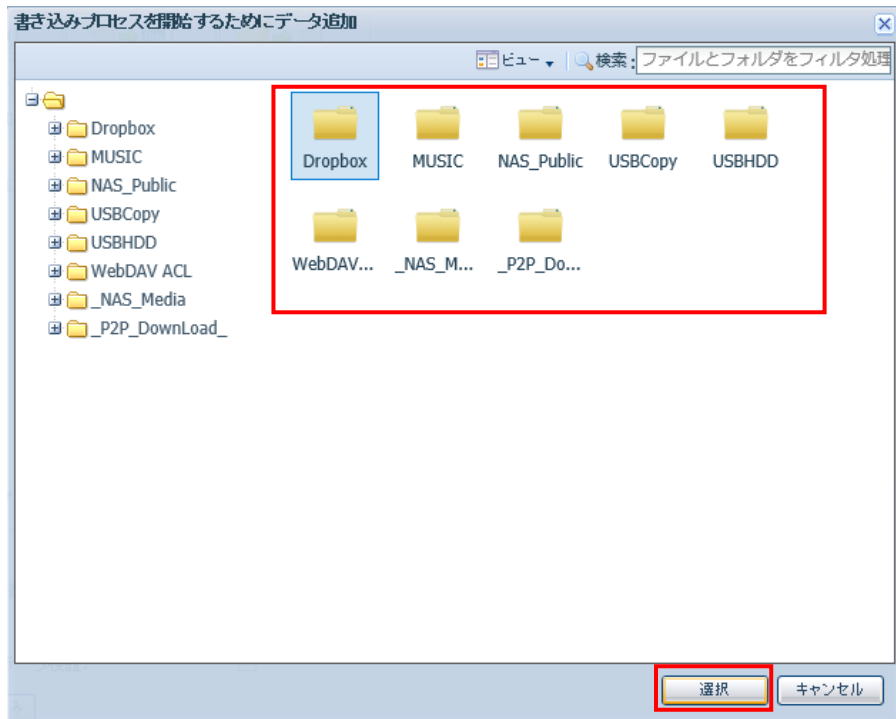
画面上部 3 つ並ぶのタブアイコンの左側「ディスクにファイル/フォルダを書き込む」をクリックします。「Data Burn」をクリックして、最初に開く画面は「ディスクにファイル/フォルダを書き込む」となります。



3. 「追加」をクリックして、「書き込みプロセスを開始するためにデータ追加」を開きます。

ここで、書き込むファイル/フォルダを、画面右側からクリックして選択し、「選択」をクリックして追加します。





4. 合計サイズが、書き込み先 CD/DVD メディアのディスク容量を超えていないことを確認します。

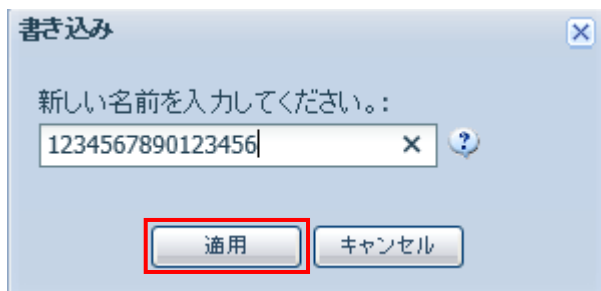
合計サイズ: 225.926 MB

5. ディスク名を必要に応じて変更します。

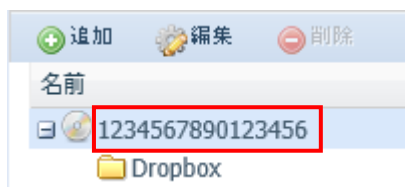
名前枠にある New Disc をクリックすると、追加アイコンの横に、編集アイコンが出現します。この編集アイコンをクリックして、ディスク名変更ウィンドウを開きます。

必要に応じて新しいディスク名を入力し、「適用」をクリックして変更します。

名前に使用できる文字は、文字数 16 文字までの半角英数字と「-」(ハイフン)記号のみです。



6. ディスク名が変更されたことを画面で確認します。



7. 接続されている光学ドライブを指定して、光学メディアの認識を開始します。

ディスク:

選択枠横にある下向き矢印をクリックして表示される光学ドライブを選択します。実際の製品名と異なることがありますのでご注意ください。



ディスク情報:

上記で接続されている光学ドライブを指定すると、挿入されている CD/DVD メディアが自動的に認識されます。

メディアを認識中は、「ディスク読み込み中です。お待ちください。」と表示されます。

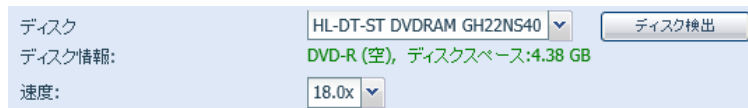
認識作業が終了すると、下記いずれかのメッセージが表示されます。

- ・DVD-R(空)、ディスクスペース:4.38GB : 空の DVD-R(4.38GB)
- ・DVD-RW(空)、ディスクスペース:4.38GB : 空の DVD-RW(4.38GB)
- ・DVD-RW(データが存在します。上書きを実行できます。): 書き込み済みの DVD-RW
- ・DVD-ROM(データが存在します。データを書き込むことができません。):
- ・書き込み済みの DVD-R

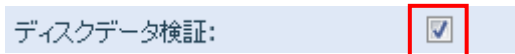
★「不明:不明」と表示される場合は、「ディスク検出」をクリックして、再度認識作業を実施してください。

速度:

光学ドライブに挿入されているメディアが認識されると自動的に表示されます。必要に応じて変更してください。



8. 必要に応じて、「ディスクデータ検証」の設定を行います。

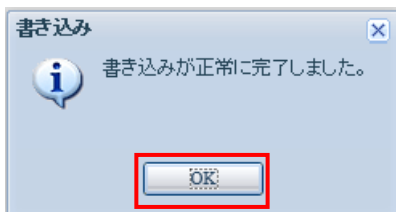


★検証機能を有効にすると、ディスクの作成にかかる時間が長くなります。

9. 上記項目を設定後、画面下部の「書き込み」をクリックして、CD/DVD への書き込みを開始します。

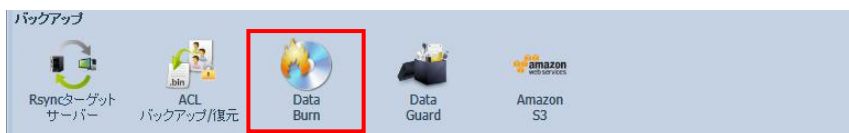


10. 書き込みが終わると、「書き込みが終了しました。」というウィンドウメッセージが表示され、光学ドライブのトレイが開き、CD/DVD メディアが排出されます。
「OK」をクリックして、ウィンドウを閉じます。
以上で終了です。

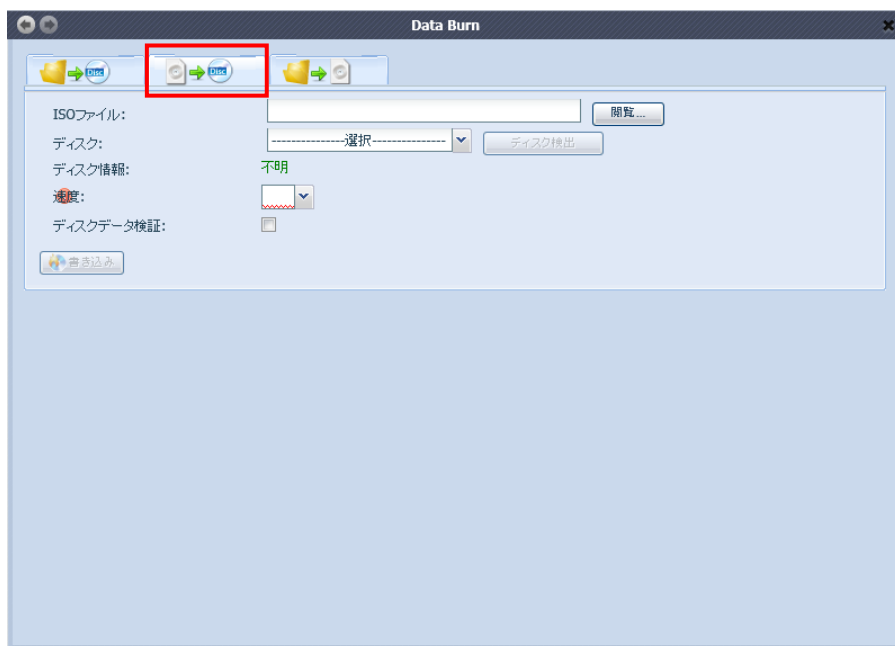


メーじファイルのディスク書き込み

1. ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Burn」をクリックして開きます。



2. 「ディスクにイメージファイルの書き込み」に移動します。
画面上部 3 つ並ぶのタブアイコンの中央「ディスクにファイル/フォルダを書き込む」をクリックします。



4. 下記項目の設定及び対応を行います。

ディスク:

選択枠横にある下向き矢印をクリックして表示される光学ドライブを選択します。
実際の製品名と異なることがありますのでご注意ください。

ディスク情報:

上記で接続されている光学ドライブを指定すると、挿入されている CD/DVD メディア認識が自動的に開始されます。

メディアを認識中は、「ディスク読み込み中です。お待ちください。」と表示されます。

認識作業が終了すると、下記メッセージが表示されます。

- ・DVD-R(空)、ディスクスペース:4.38GB : 空の DVD-R(4.38GB)
- ・DVD-RW(空)、ディスクスペース:4.38GB : 空の DVD-RW(4.38GB)
- ・DVD-RW(データが存在します。上書きを実行できます。): 書き込み済みの DVD-RW
- ・DVD-ROM(データが存在します。データを書き込むことができません。):
- ・書き込み済みの DVD-R

★「不明:不明」と表示される場合は、「ディスク検出」をクリックして、再度認識作業を実施してください。

速度:

光学ドライブに挿入されているメディアが認識されると自動的に表示されます。
必要に応じて変更してください。

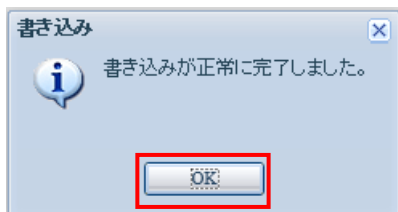
5. 必要に応じて、「ディスクデータ検証」の設定を行います。

★検証機能を有効にすると、ディスクの作成にかかる時間が長くなります。

- 上記項目を設定後、画面下部の「書き込み」をクリックして、CD/DVD への書き込みを開始します。

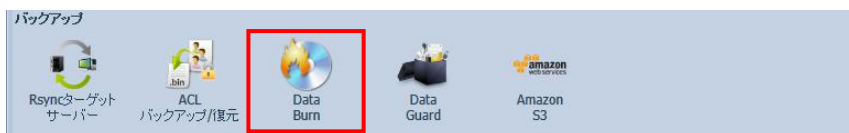


- 書き込みが終わると、「書き込みが終了しました。」というウィンドウメッセージが表示され、光学ドライブのトレイが開き、CD/DVD メディアが排出されます。
「OK」をクリックして、ウィンドウを閉じます。
以上で終了です。

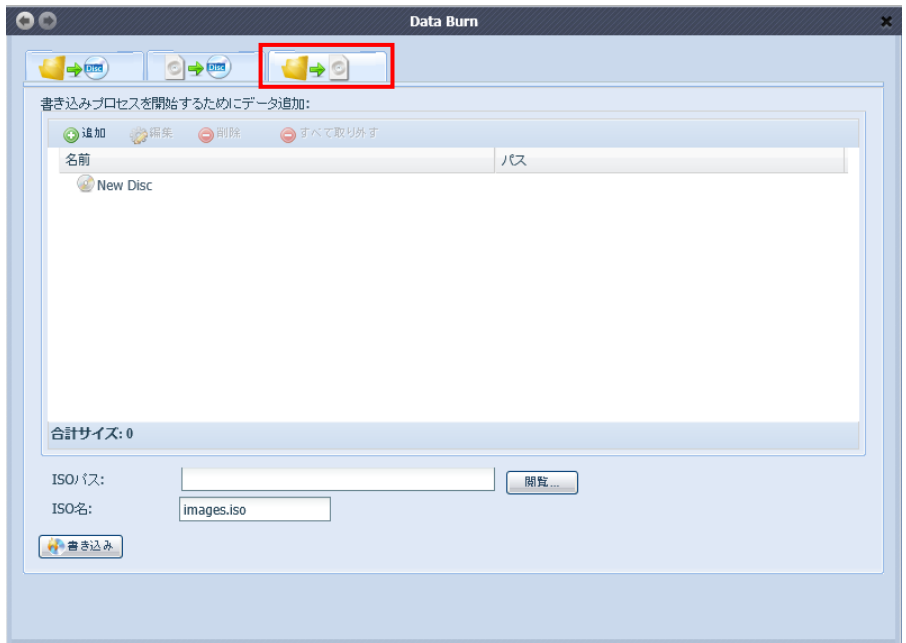


ファイル/フォルダからのイメージファイル作成

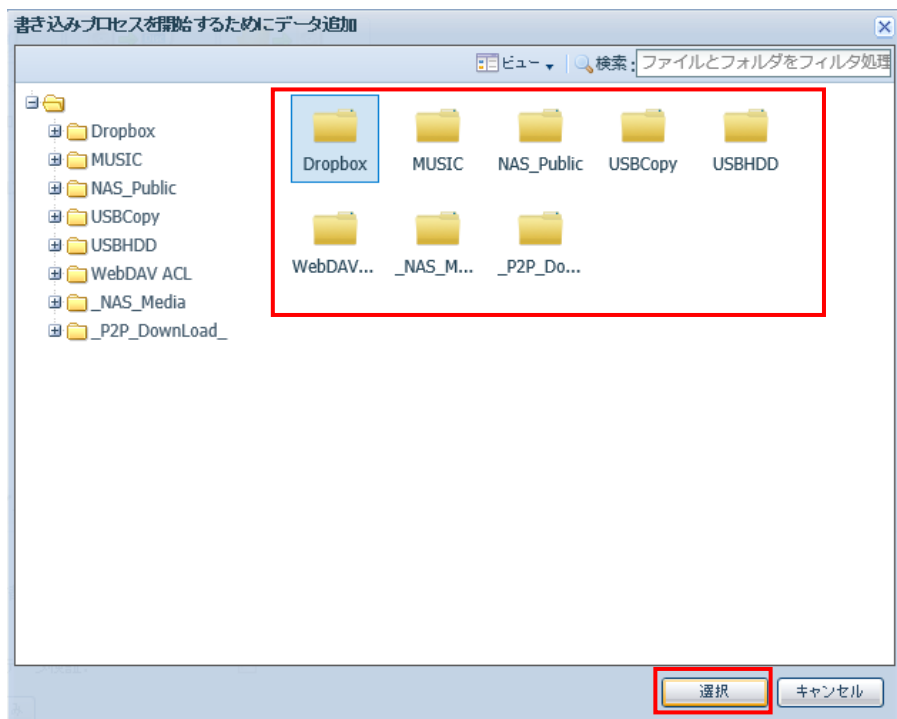
- ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「バックアップ」カテゴリから、「Data Burn」をクリックして開きます。



2. 「ファイル/フォルダからイメージファイルの作成」に移動します。
画面上部 3 つ並ぶのタブアイコンの右側「ファイル/フォルダからイメージファイルの作成」をクリックします。



「追加」をクリックして、「書き込みプロセスを開始するためにデータ追加」を開きます。
ここで、書き込むファイル/フォルダを、画面右側からクリックして選択し、「選択」をクリックして追加します。



3. ディスク名を必要に応じて変更します。

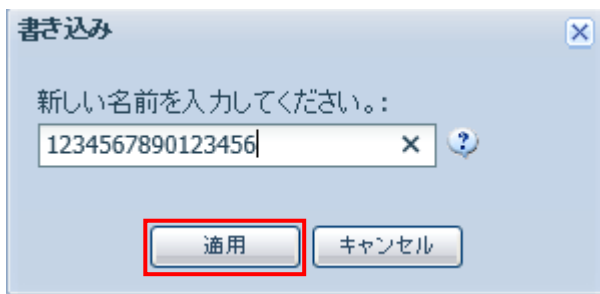
名前枠にある「New Disc」をクリックすると、追加アイコンの横に、編集アイコンが表示されます。

この編集アイコンをクリックして、ディスク名変更ウィンドウを開きます。

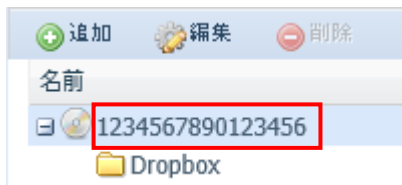
必要に応じて新しいディスク名を入力し、「適用」をクリックして変更します。

名前に使用できる文字は、文字数 16 文字までの半角英数字と「-」（ハイフン）記号のみです。

★このディスク名は、作成された ISO イメージファイルを光学メディアに書き込んだ際に、その光学メディアの名前として適用されます。



4. ディスク名が変更されたことを画面で確認します。



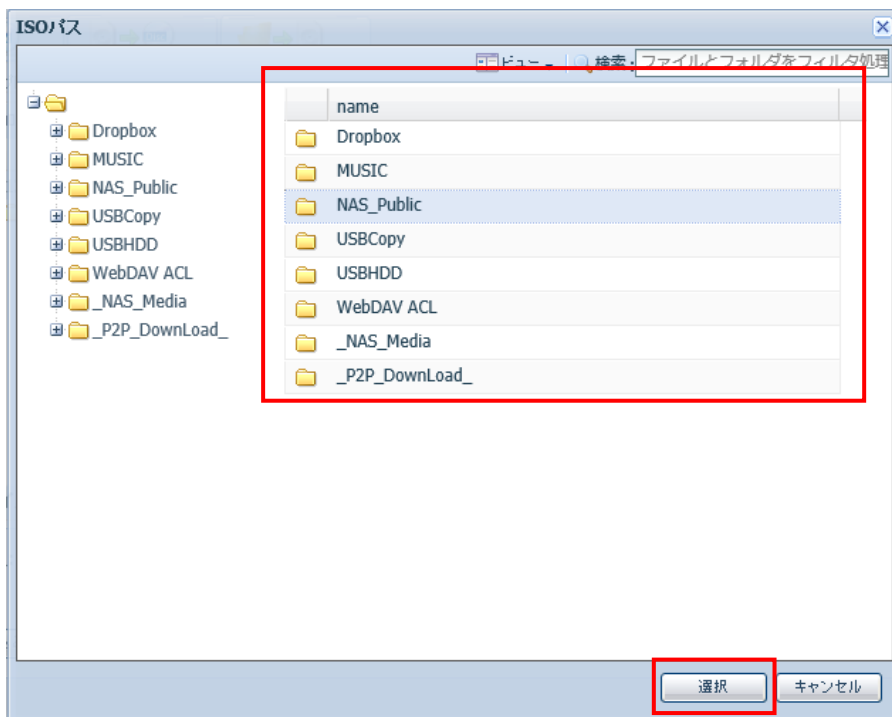
5. 作成する ISO イメージファイルを保存する場所を指定します。

ISO ファイル: 記入欄横の「閲覧」をクリックして、「ISO パス」を開きます。

ここで、ISO イメージファイルに書き込むファイル/フォルダを、画面右側からクリックして選択し、「選択」をクリックして追加します。

★本製品の負荷が高いときや細かなファイルが多いときなどは表示に時間がかかる場合があります。

ISOパス:



6. 作成する ISO イメージファイルの名前(ISO 名)を指定します。

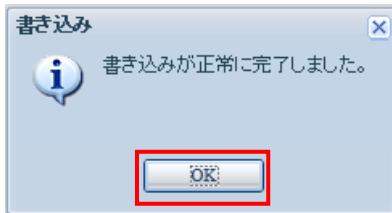
ISOパス:

ISO名:

7. 上記項目を設定後、画面下部の「書き込み」をクリックして、CD/DVD への書き込みを開始します。



8. ISO イメージファイルが作成されると、「書き込みが終了しました。」というウィンドウメッセージが表示されます。OK をクリックして、ウィンドウを閉じます。



9. ISO パスで指定したフォルダに、ISO 名で指定した名前のファイルが存在していることを確認します。以上で終了です。

名前	更新日時	種類	サイズ
📁 _P2P_Download_	2014/09/02 18:56	ファイル フォルダ	
📁 LOG_Data_Guard	2014/09/12 18:37	ファイル フォルダ	
📁 test_140902	2014/09/08 15:11	ファイル フォルダ	
📁 USB_BACKUP	2014/09/08 15:44	ファイル フォルダ	
📁 スクリーンショット	2014/09/08 14:55	ファイル フォルダ	
🔥 bean14041-140826.iso	2014/09/11 16:16	ISO ファイル	649,216 KB
🔥 images.iso	2014/09/12 21:12	ISO ファイル	231,646 KB

7-4 USB コピーボタンの使い方

本製品に接続した USB 外付けストレージ(ハードディスク、SSD、USB メモリ)から、本製品内へバックアップします。

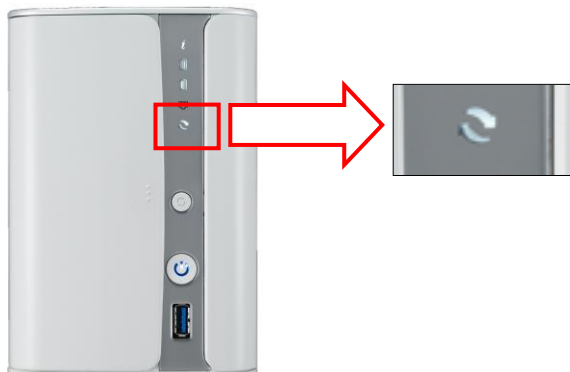
本体正面のボタンを押すだけなので、緊急性の高いバックアップなどに利用可能です。

1. 本体正面の USB ポート(USB3.0 対応)へ、USB 外付けストレージを本製品へ接続します。

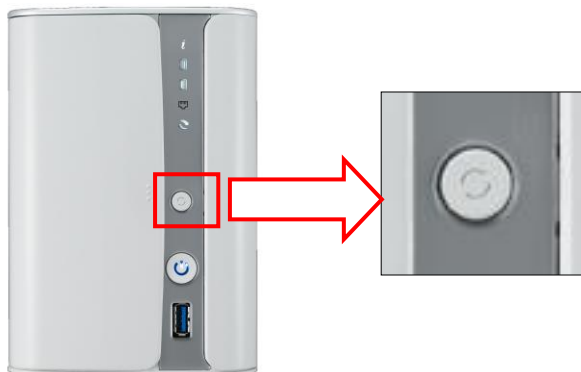


USB ポート(USB3.0 対応)

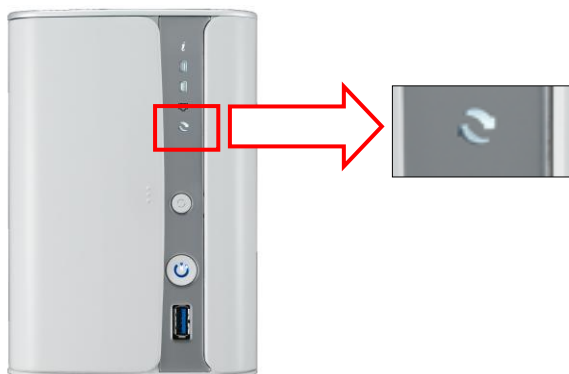
2. 本体正面の USB LED が白色点灯することを確認します。



3. 本体正面の USB コピーボタンを押します。



4. コピーが始まると、本体正面の USB LED が点滅します。



5. コピーが終了すると、本体正面の USB LED が消灯します。
この状態で、USB 外付けストレージは取外し可能です。

6. 本製品 RAID 内の「USBCopy」フォルダ以下にコピー日時毎のフォルダが作成され、その配下にバックアップデータが保存されます。



8 内蔵ドライブおよび RAID のメンテナンス

8-1 ドライブの交換手順

RAID 構成によって、稼働中の HDD 交換可能不可能がありますのでご注意ください。

RAID0: HDD の冗長性なし。稼働中の HDD 交換不可。

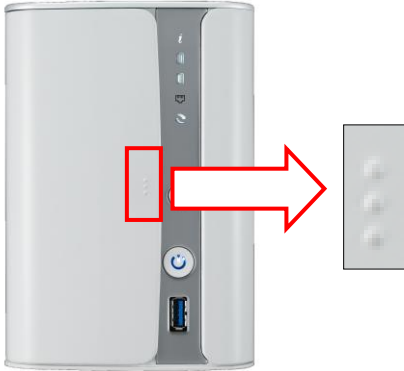
RAID1: HDD の冗長性あり。稼働中の HDD 交換可能。

★RAID 構成については、本書 83 ページを参照ください。

1. 状況に応じて RebDriveNAS の電源を落とします。
RAID0 構成のときは、電源を落とします。
RAID1 構成のときは、HDD1 台だけ交換であれば電源は落としません。
2. 交換する HDD を確認する。
RAID1 構成のときは、交換する HDD が左右どちらにあるのか確認します。
下記例では、HDD1 は正常、HDD2 が異常となり、交換対象は HDD2 =左側となります。



3. フロント扉を開ける。
正面向かって左側扉の中央付近の縦に3つ並んだ凸部分を軽く押して扉を開きます。



4. 該当 HDD を取り出す。
該当 HDD (HDD2=向かって左側) を下部にある固定部位を押して、取り出します。



5. 取り出した該当 HDD から左右のパネルを外します。
ネジ止めはされていないので、HDD のネジ穴にひっかけてある部分を爪で外すと取れます。
6. 新しい HDD へ左右の固定用パネルを取り付けます。
7. 新しい HDD を差し込みます。
8. 最初に電源を落としていた場合は、電源を投入します。

8-2 ドライブ故障時の復旧手順

故障検知時の挙動

RebDrive NAS 本体から、Beep 音発生
あるいは、システムログおよび通知設定による故障通知により、検知。

故障ドライブの確定

HDD1(右側) or HDD2(左側)どちらが故障しているか確認します。
故障している HDD は、RevDrive NAS 本体前面パネル 該当 HDD 番号の HDD LED が赤色点灯し
ます。

電源が入ったまま HDD 交換

上記 8-1 にそって該当の HDD を交換します。
この後の復旧手順は、RAID 構成によって異なります。

RAID0 及び JBOD の場合

RAID の作り直しとなります。(ユーザーデータ、モジュールすべてと NAS Application のデータ部分は復
旧できません。)

★RAID の作り直しを行う手順については本書の 33 ページを参照してください。

RAID1 の場合

HDD 交換後、RAID の再構築動作(リビルド)が開始され、できれば(10時間前後)の後、復旧が完了し
ます。

リビルド開始

稼働中に HDD 交換を行うと、自動的に RAID の再構築動作(リビルド)が始まります。
本体前面パネル HDD LED が、2 つとも点滅します。

★この状態でも本製品は使用可能ですが、システムへの負荷を避けるため、設定変更は行わないでくだ
さい。

リビルド終了

RAID の復旧動作が終了すると、本体前面パネル HDD LED の点滅が終了します。
合わせて、Web ブラウザから RAID 情報を確認し、状態が正常となっていれば終了です。

9 Mac OS X 用設定

9-1 Time Machine でのバックアップ先指定

バックアップの手順

1. Mac OS X の「システム環境設定」から「Time Machine」を選択し、Time Machine の設定画面を開きます。
2. 画面中央部にある「ディスクを選択」から「サーバ RebDriveNAS(Time Machine)」を選択します。
3. NAS のアカウントとパスワードを入力を求められるので、本製品に設定されたユーザー名とパスワードをそれぞれ入力します。
4. バックアップが開始されます。

リストアの手順

1. キーボードのオプションキーを押しながら Mac を起動します。
起動ディスクの選択画面が表示されます。
2. 復旧用パーティションを選択して起動します。
★このパーティション名は OS のバージョンによって異なります。(10.8.5 の場合は「復旧 10.8.5」。)
3. 復旧用 OS の中から「Time Machine バックアップから復元」を選択します。
4. バックアップ済みデータの選択で表示される「ネットワーク RebDriveNAS 上の NAS_Public」を選択し、「接続」をクリックします。
5. アカウント名とパスワードを入力してから、「接続」をクリックします。
6. 「ネットワーク RebDriveNAS 上の NAS_Public」のツリーにディスク「NAS_Public」内に、バックアップに使用した Mac の名前が表示されるので、これを選択し「続ける」をクリックします。
7. 任意のバックアップされた時間を選択し、リストアするディスクを選択、「復元」をクリックするとリストアが開始されます。

9-2 iTunes サーバーとしての使い方

iTunes サーバーは iTunes に標準搭載された機能です。

一つの iTunes フォルダを複数のパソコンからアクセスし音楽ファイルをローカルネットワーク上で共有する機能です。

なお、iTunes サーバーで共有できるのは音楽ファイルのみとなります。

本製品を iTunes サーバーとして使用するための設定

1. ウェブ管理インタフェースのコントロールパネル「アプリケーションサーバー」カテゴリから、「iTunes サーバー」をクリックして開きます。
2. iTunes サーバー設定画面で、以下の項目をそれぞれ設定します。
iTunes: 有効にすると、iTunes が本製品を iTunes サーバーとして認識できるようになります。
サーバー名: アクセスするアカウント名
パスワード: アクセスするアカウントのパスワード
再スキャンのインターバル: 追加されたファイルの自動アップデートの更新頻度を設定します。

パソコン側の iTunes での設定

1. 本製品で iTunes サーバーを有効にすると iTunes のウィンドウ左上のライブラリ選択タブに「共有ライブラリ」として表示されます。
2. 本製品を選択しパスワードを入力すると本製品 RAID 内の「_NAS_Media/music」に置かれた iTunes フォルダ及び音楽ファイルが iTunes に表示されます。

10 保証とアフターサービス

10-1 保証について

本製品の保証期間はご購入日から1年間です。
万一、この期間内に製品に不具合が発見された場合、下記サポートセンターへ連絡下さい。
ご連絡の際には、製品保証書をご用意下さい。

10-2 テクニカルサポート連絡先

アミュレット株式会社 店頭営業部
TEL. 03-5295-8418
FAX. 03-5295-8424
電子メール support@amulet.co.jp

★弊社より出荷した製品以外の修理・サポートは承っておりません。

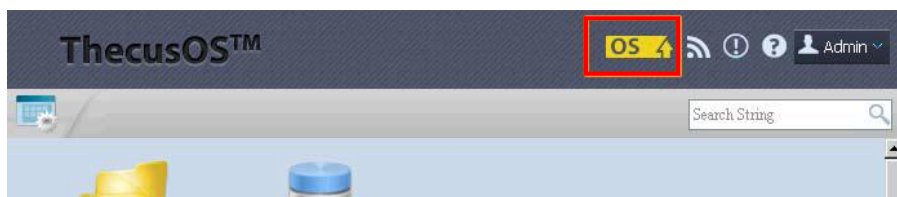
★製品サポートに関する情報は、下記ホームページにて常時更新しておりますのでご参照ください。

<http://www.amulet.co.jp/products/RebDrive/NAS/RebDriveNAS.html>

11 付録

11-1 システムファイルおよび NAS アプリのアップデート通知について

本製品がインターネットに接続された状態で、ThecusOS のアップデートが検知されると、ThecusOS のウェブ管理インターフェース画面右上に更新を知らせるアイコンが表示されます。これをクリックすることで、ThecusOS および NAS アプリの更新が可能です。



★ThecusOS および各 NAS アプリをアップデートした場合、ソフトウェアの動作や設定が本書の内容から変更される場合がありますのでご注意ください。

11-2 「サードパーティアプリのインストール」から利用できるアプリケーション

本製品の機能を拡張する方法として、公式 NAS アプリ以外に、ウェブ管理インターフェースのコントロールパネル「アプリケーションサーバー」カテゴリ以下、「サードパーティアプリのインストール」を使用して、任意のアプリケーションを追加することができます。

この方法でインストールされるアプリケーション(モジュール)については、フリーソフトウェアとしての扱いとなるため、弊社によるサポートおよび保証は行っておりません。